横浜市芸術文化教育プログラム推進事業

平成22年度事業報告書

［個別報告編］

横浜市芸術文化教育プラットフォーム

PLATFORM

（ＳＴスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局）

【学校プログラムの個別報告】 01

■音楽

鶴見小学校 + 子どもに音楽を ヴァイオリンを感じる 01
浅間台小学校 + オフィスマキナ 声の魅力とその響き(1) 02
六つ川台小学校 + オフィスマキナ ジャズのアドリブを体感(1) 03
富士見台小学校 + 横浜市芸術文化振興財団 みんなでうたう(1) 04
汐見台小学校 + オフィスマキナ 声とイメージ 05
西富岡小学校 + オフィスマキナ 声の魅力とその響き(2) 06
能見台南小学校 + 横浜市芸術文化振興財団 音楽と心(1) 07
大豆戸小学校 + 大倉山記念館 音楽をとかそう 08
東戸塚小学校 + 横浜市芸術文化振興財団 ゴスペルの魅力(1) 09
俣野小学校 + オフィスマキナ ジャズのアドリブを体感(2) 10
矢部小学校 + よこはま音楽広場実行委員会 ラテン音楽を楽しもう(1) 11
永谷小学校 + 神奈川県立音楽堂 リズムとアンサンブル(1) 12
日限山小学校 + みなとみらいホール 歌のプレゼント 13
日野南小学校 + 横浜市芸術文化振興財団 大地のリズム！ 14
ひかりが丘小学校 + サンハート ゴスペルの体験 15
山下小学校 + よこはま音楽広場実行委員会 ラテン音楽を楽しもう(2) 16
山下みどり台小学校 + 子どもに音楽を ヴァイオリン体験 17
阿久和小学校 + 神奈川県立音楽堂 リズムとアンサンブル(2) 18
瀬谷さくら小学校 + Media Global ノリノリでリズムを楽しもう 19
二つ橋小学校 + オフィスマキナ ジャズのアドリブを体感(3) 20
南瀬谷小学校 + 横浜市芸術文化振興財団 みんなでうたう(2) 21
桂台小学校 + 横浜市芸術文化振興財団 ゴスペルの魅力(2) 22
上郷小学校 + リリス カノンを共演 23
千秀小学校 + リリス みんなのまちのクラシック 24
いちょう小学校 + オフィスマキナ 声の魅力とその響き(3) 25
中和田南小学校 + テアトルフォンテ 打楽器であそぼ！音とリズムの楽しさ 26
荏子田小学校 + 横浜市芸術文化振興財団 音楽と心(2) 27
桂小学校 + ST スポット横浜 うたをつくろう 28
川和小学校 + 子どもに音楽を チェロ体験 29
野庭中学校 + 横浜音楽協会 フルート体験 30
盲特別支援学校 + ST スポット横浜 リズムをかんじる、おどる 31
中村特別支援学校 + ST スポット横浜 いちにちのおんがく 32
北綱島特別支援学校 + ART LAB OVA 心臓の音を聴く、心臓音であそぶ 33
星川小学校 + 横浜シティオペラ オペラへの好奇心(1) 34
港南台第三小学校 + 横浜シティオペラ オペラへの好奇心(2) 35
いずみ野小学校 + 横浜シティオペラ オペラへの好奇心(3) 36

■演劇

神大寺小学校 + かなっくホール 演劇のコミュニケーション 37
中丸小学校 + 芸術家と子どもたち オリジナル演劇をつくろう 38
坂本小学校 + Media Global パペットをつくる、演じる(1) 39
高田小学校 + 横浜こどものひろば 手影絵を体験しよう 40
深谷小学校 + アートの時間 大根の演劇 41
上大岡小学校 + 急な坂スタジオ 詩をからだで表現してみよう 42
善部小学校 + ST スポット横浜 まちの演劇 43

新治小学校 + Media Global ····· パペットをつくる、演じる(2) ····· 44
榎が丘小学校 + Media Global ····· パペットをつくる、演じる(3) ····· 45
森中学校 + 杉田劇場 ····· アテレコ体験 ····· 46

■ダンス

永田小学校 + 吉野町市民プラザ ····· 自分のダンスの作り方、楽しみ方 ····· 47
永田台小学校 + 吉野町市民プラザ ····· 身体で表現してみよう ····· 48
白根小学校 + 芸術家と子どもたち ····· 身体をつなげて生まれるダンス ····· 49
桜井小学校 + Offsite Dance Project ····· からだの表現の時間(1) ····· 50
泉が丘中学校 + Offsite Dance Project ····· からだの表現の時間(2) ····· 51
二つ橋高等特別支援学校 + ST スポット横浜 ····· おどるからだ ····· 52

■美術

洋光台第四小学校 + 横浜市芸術文化振興財団 ····· 木炭で似顔絵、自画像を描く(1) ····· 53
新羽小学校 + 横浜市民ギャラリーあざみ野 ····· 自分の作った色で自分の花を描こう ····· 54
品濃小学校 + アートの時間 ····· さぁ、仮面パレードだ！　２０１０ ····· 55
大正小学校 + アートの時間 ····· 2010 年 12 月の自分 ····· 56
都岡小学校 + サンハート ····· 木炭で似顔絵、自画像を描く(2) ····· 57
二俣川小学校 + サンハート ····· 木炭で似顔絵、自画像を描く(3) ····· 58
竹山小学校 + ART LAB OVA ····· へんてこハウスをつくろう ····· 59
上瀬谷小学校 + 横浜市民ギャラリー ····· 半人半獣―動物とつながって命を輝かせよう！ 60
公田小学校 + リリス ····· 日本画と造形美術(1) ····· 61
伊勢山小学校 + テアトルフォンテ ····· 日本画と造形美術(2) ····· 62
鴨志田第一小学校 + 横浜市民ギャラリーあざみ野 自分の作った色で自分の花を描こう ····· 63
永田中学校 + 横浜市民ギャラリー ····· アー写を撮ろう！ ····· 64
汐見台中学校 + 横浜美術館 ····· 立体映像で日常を再発見 ····· 65
大正中学校 + 横浜美術館 ····· 絵具の し・く・み ····· 66
鴨志田中学校 + 横浜市民ギャラリーあざみ野 ····· 学校展覧会 ····· 67

■伝統

新鶴見小学校 + 横浜こどものひろば ····· 元気一番太鼓 ····· 68
寺尾小学校 + 久良岐能舞台 ····· 狂言を体験しよう(1) ····· 69
羽沢小学校 + よこはま音楽広場実行委員会 ····· 箏を体験しよう ····· 70
本牧南小学校 + 荒馬座 ····· エイサーを体験しよう ····· 71
藤の木小学校 + 吉野町市民プラザ ····· 箏を通して日本の音色を知る(1) ····· 72
鳥が丘小学校 + 横浜市芸術文化振興財団 ····· 落語を体験しよう ····· 73
南舞岡小学校 + 荒馬座 ····· 荒馬踊り ····· 74
港南台第一小学校 + 久良岐能舞台 ····· 狂言を体験しよう(2) ····· 75
希望ヶ丘小学校 + サンハート ····· 箏を通して日本の音色を知る(2) ····· 76
左近山第二小学校 + 久良岐能舞台 ····· 狂言を体験しよう(3) ····· 77
美しが丘東小学校 + 横浜市芸術文化振興財団 ····· 箏の音を知る ····· 78
川上小学校 + 横浜邦楽邦舞家協会 ····· 三味線を体験しよう ····· 79

【アーティストプロフィール】 ····· 80
【コーディネータープロフィール】 ····· 84

音楽

鶴見小学校 + 子どもに音楽を
ヴァイオリンを感じる

担当アーティスト	久保田巧（ヴァイオリン）、日下知奈（ピアノ）
実施校	横浜市立鶴見小学校（鶴見区）
コーディネート	特定非営利活動法人子どもに音楽を
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／クラシック音楽／4 学年、4 学級、123 人対象
実施日程	2010 年 10 月 18 日

授業のねらい

美的体験を通して、意欲的に音楽に取り組めるようにしたい、という学校側からの要望があり、クラシック界の第一線で活躍中のヴァイオリニスト久保田巧さんに演奏をお願いした。一方的な演奏会というのではなく演奏家のお話を交えて、プログラムを進行。せっかくの機会なので質問コーナーを設け、演奏家に子ども達からの質問に答えていただいた。

アーティストから

子供達の集中力に驚かされ楽しい時間となりました。一生懸命に聴いてくれるのが演奏していても良く分かり嬉しかったです。

コーディネーターから

「本物にふれることの素晴らしさを実感しました。曲が流れる時から音楽の持つ美しさの世界に浸っている子どもたち･･･難しいかなと思われる曲も音楽という魔法にかかったように夢中で聴いている子供たちを見て、このような身近なサロン風コンサートは必要だなと思いました。いつでも世の中には音楽は流れていますが、じっくり心を傾ける時をもつこと、また出会えることは本当に大切だと思います。これからも是非続けて欲しいと思います。本当に本当に感動をいっぱいありがとうございました!!」という先生からの感想もいただき、今回は気持ちの良い活動をすることが出来ました。校長先生を始め、とても好意的に対応してくださいました。

先生から

本物にふれることの素晴らしさを実感しました。曲が流れる時から音楽のもつ美しさの世界に誘われて、その世界に浸っている子どもたち、、、難しい曲かなと思われる曲も、音楽という魔法にかかったように夢中で聴いている子どもたちを見て、このような身近なサロン風コンサートは必要だなと思いました。いつでも世の中には音楽が流れていますが、じっくり心を傾ける時をもつこと、また、出会えることは本当に大切だと思います。これからも続けてほしいです。

子どもたちから

はじめて目の前で生の演奏がきけた／きれいなものをきけてよかった／ねむかった／生の演奏できれいな音楽がきけた。ヴァイオリンの音色がきれいだった／なじみがない、むずかしい／ヴァイオリンの音色があるのがわかった／演奏する人の気持が伝わった／ヴァイオリンがはねる音を出す時、心がはずむ感じ／これからもやってほしい／ヴァイオリンとピアノがとても合っていた／１つのヴァイオリンで３人がひいているようなひき方にびっくりした／ヴァイオリンとピアノといっしょに「夢の世界を」を歌ったことが良かった／久保田さんのように何かをずっとがんばっていきたい／ヴァイオリンの仕組みがわかった

音楽

浅間台小学校 + オフィスマキナ
声の魅力とその響き(1)

担当アーティスト	山口佳子（ソプラノ歌手）
実施校	横浜市立浅間台小学校（西区）
コーディネート	株式会社オフィスマキナ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／声楽／全学年、240 人対象
実施日程	2010 年 11 月 26 日

授業のねらい

間近で声楽の生演奏を聞き、その魅力と迫力を体験します。子どもたちがよく知っている曲も演奏し、楽しく音楽が鑑賞できるようにすると同時に、聞くだけではなく講師から歌う「コツ」を教わって、からだを使って一緒に歌う時間を設けます。大きな声で歌うこと、恥ずかしがらずに表現するきっかけを作ることが目標です。５年生はＷＳで、からだをほぐし、呼吸法や発声法に触れ、全身を使って歌う楽しさを体験します。

アーティストから

今回は、体育館での鑑賞と１時間のＷＳを１日で実施するという、初めての形で行いました。いつもより少し長めの時間をとったコンサートでしたが、全学年の子どもたちが最後まで集中して真剣に聞いてくれました。ＷＳでは、ほんの少しの練習でも声が変わったので、子どもたち自身が「体感」した部分があったと思います。短い時間でしたが、身体を使って歌うことのエッセンスを体験してもらえたのではないかと思います。

コーディネーターから

１時間のＷＳのみだと、やはり腹式呼吸ができる子・できない子の差がついてしまいました。しかし、短時間に多くの内容を盛り込むため進むテンポも早く、子どもたちがとても集中していると感じました。身体的に「感じる」という点では、１回のＷＳでも充分に効果があったのではないかと思います。また、行事などでお忙しい学校様にとって、一日で鑑賞・体験の両方ができる形は、便利なのかもしれないとも思いました。

先生から

音楽ホールの近くに住んでいても実際に行ったことのない子が多いというのが本校の実態です。“本物に触れる”ことへの期待感は大きく、本年も開演前のいつにない子どもたちの緊張感が感じられました。ドレスに身を包んだ歌手の方や日頃見たことのない楽器に目を見張り、ひきつけられていました。歌が始まると分からない言葉であるにもかかわらず（歌の前の解説をたよりに）聴き入る姿が印象的でした。美しく、迫力のある美声を聞いたために、一緒に歌う場面ではまるで別人のような、きれいな歌声で歌っている子どもたち…。そんな変化を引き出せる、これがプロの力なのだと感服しました。本校も２年目の取り組みということもあり、たいへんスムーズに打合せから当日を迎えることができました。アーティストの方々の子どもに向ける温かなまなざしがたいへんありがたかったです。

子どもたちから

分かりやすかった／大切なことが分かった／声の出し方が分かった／歌う時の姿勢が分かった／口のあけ方、息のすい方が分かってためになった／プロの先生に教えてもらってうれしかった／歌がうまくなった気がする／声がひびいていた

音楽

六つ川台小学校 + オフィスマキナ
ジャズのアドリブを体感(1)

担当アーティスト	ユキ・アリマサ（ジャズ・ピアニスト）
実施校	横浜市立六つ川台小学校（南区）
コーディネート	株式会社オフィスマキナ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ジャズ／4 学年、2 学級、54 人対象
実施日程	2011 年 1 月 19 日、1 月 26 日、2 月 2 日

授業のねらい

ジャズは横浜にとってゆかりのある音楽でありながら、子どもにとって、聴く機会は多くありません。まず、本物のアーティストによる生演奏を間近で鑑賞し、ジャズ特有のリズムやハーモニーを体験し、子どもたち自身も楽器を持って、実際にアドリブを体験します。お互いに聴き合いながら自由に表現する楽しさと、バンドと一緒に演奏する喜びを味わうことを目的とします。文化庁「子どものための優れた舞台芸術体験事業・派遣事業」と連携して実施。

授業の進行

（１日目）講師による演奏・楽器紹介・グルーブを感じてみよう。（２日目）グルーブを感じて演奏してみよう・アドリブに挑戦。（３日目）リハーサル・発表会。

アーティストから

今回は少し趣向を変えてとにかく「グルーブ」を感じることを中心に授業を進めました。言葉でくどくどと説明せずとも、子どもたちはすぐに肌で感じ取って音にしていました。音楽に合わせてからだを動かす子も多く、とても楽しんでいる様子がわかりました。発表会のアドリブもしっかりと演奏していました。

コーディネーターから

大人だったら少し頭で考えてしまうようなことも、子どもたちはすんなりと受け入れ、表現していました。講師の音をとてもよく聞いて、音楽に乗ってアドリブしていて驚きました。専科・担任の先生が、授業を効率良く進めるために子どもたちの背中を押してくださいました。それと同時に、講師を中心とした形でＷＳを行った時に生まれる、講師と子どもたちの間のコミュニケーションについても考えました。

先生から

今年で５度目のジャズ教室となり、発表する児童も鑑賞する児童も大きな期待感をもって参加しました。今回は新しく「グルーブ」しながら、演奏することを教えていただき、ジャズをより楽しむことができました。また、自分達が学習した曲がジャズになることを経験し、感動していました。講師の先生方とのアドリブもほとんどの児童が体験でき、喜んでいました。最終日の発表会には、全校児童と保護者も参加し、ジャズに親しむことができました。継続していくことで、子ども達に力がついていくので今後もこのプログラムを実施していただきたいです。

子どもたちから

ジャズは知らなかったが、わかりやすく教えてもらえた／ジャズのリズム、グルーブ、アドリブなどで盛り上がって楽しかった／先生とアドリブができた／アドリブで自由に音楽の世界へ入れた／ジャズはあまり知らなかったが、楽しさを味わえた／音楽で他の楽しみ方（アアドリブなど）ができるようになった／音楽が前より好きになった／一流の先生方と演奏したり、アドリブできたりして、とても楽しかった／知っている曲がジャズ風になること、どんな楽器でもジャズができることなどがわかった

音楽

富士見台小学校 ＋ 横浜市芸術文化振興財団
みんなでうたう(1)

担当アーティスト	渡海千津子（ソプラノ）、斎藤育雄（合唱指導・ピアノ）
実施校	横浜市立富士見台小学校（保土ケ谷区）
コーディネート	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／声楽／5 学年、3 学級、88 人対象
実施日程	2011 年 2 月 3 日、2 月 7 日、2 月 14 日

授業のねらい

歌う事は素敵なこと、自分の歌声の良さに気づき、歌声というものに興味を持つ。また日本の歌の美しい歌詞と旋律を丁寧に曲想と共に感じ取り、音楽を作りあげる喜びを味わう。

授業の進行

（１日目）アーティストによるミニコンサート、発声練習、合唱練習。（２日目）発声練習、合唱練習。（３日目）リハーサル、本番、アーティストによるミニコンサート。

アーティストから

合唱に非常に熱心に取り組んでいる学校ということもあり、子どもたちの反応がとても良かった。楽曲が高低幅も広く、長く難しい曲だったため、一番大事な歌そのものの発声や言葉の発声などを重点的に教えた。音楽の先生も非常に強力的で、また今回は学校側より生徒たちの好きな曲ということで指定されていた楽曲であったため、クセを抜くのに多少苦労したが音とり自体は非常に楽だった。

コーディネーターから

毎月、月の合唱曲を選定し全学年で歌っているということもあり生徒たちも合唱に非常に興味を持って取り組んでいるようだった。渡海先生の圧倒的な歌声と生徒たちと同じ目線に立った接し方・斎藤先生の確かな耳と冷静で諭すような話し方が互いに補い合い生徒たちに良い影響を与えていたと思う。ただ大人が聞く分には発声や発音の違いなど変化が分かって興味深かったが、子どもたちにとっては同じ曲の練習となるので気が散漫になりやすいように感じた。対処法並びに選曲が今後の課題であると感じた。

先生から

声楽ワークショップを受けた子どもの感想に「授業を受けた瞬間、先生方からオーラを感じました」というのがありました。今回のワークショップで子どもたちにいちばん伝えたかったことは講師の先生の歌に対する情熱や雰囲気だったので、その部分を子どもたちが感じ取ってくれたことは大きな成果だと思っています。さらに先生の歌声にのって子どもたちの歌声が変わったこと、一緒に合唱を作っている気持ちになれたこと、発声の仕方やのどの開け方など改善点を分かりやすく指導していただいたことも一人ひとりの子どもたちの心に残ったようです。

音楽

汐見台小学校 + オフィスマキナ
声とイメージ

担当アーティスト	鈴木慶江（ソプラノ歌手）
実施校	横浜市立汐見台小学校（磯子区）
コーディネート	株式会社オフィスマキナ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／声楽／5 学年、3 学級、114 人対象
実施日程	2011 年 1 月 13 日、1 月 14 日、1 月 21 日

授業のねらい

子どもたち自身が、自分が持っている楽器である「声」の魅力に気づくことを目標とします。からだをほぐし、腹式呼吸を学び、全身を使って歌う楽しさや面白さを体験します。また、文部省唱歌の「冬景色」を課題曲とし、日本語を丁寧に発音して、歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら歌うことを学びます。文化庁「子どものための優れた舞台芸術体験事業・派遣事業」と連携して実施。

授業の進行

（１日目）講師による演奏の鑑賞、準備体操、腹式呼吸と発声の練習。（２日目）課題曲の練習、歌詞の意味を考えて歌う練習。（３日目）学年全体でのリハーサル、発表会。

アーティストから

先生方からは「非常に元気な学年なので心配」とうかがっていましたが、どのクラスもとても集中して取り組んでくれました。今年の５年生は丁寧に表情豊かに歌っていたのが印象的でした。音楽の先生が事前に下準備をしてくださっていたので、授業もスムーズでした。音楽の年間授業数の 10 分の 1 を、毎年このワークショップで使わせていただいていると伺い、身が引き締まる思いでした。貴重な時間を大切して、これからも子どもたちにできるかぎりのことを伝えたいと思います。

コーディネーターから

音楽専科の先生はじめ、学校のご協力をいただいて、とても効果的なワークショップになったと思います。今回は、歌詞を大きくコピーした紙に、それぞれのクラスで表現したいことを授業中に書き込み、発表会に備えました。子どもたちが、毎朝それを見て各クラスで練習してくれたと伺い、感激しました。継続することで、アーティストも先生も慣れて進行がスムーズになるだけでなく、新たな工夫が次々と生まれて面白いと感じました。

先生から

ソプラノ歌手の鈴木慶江さんに、５年生対象で３日間の音楽の授業と、全校児童・保護者向けにコンサートを開いていただきました。音楽室でのミニコンサートでは、プロの演奏家が急に身近に感じられ、１クラスずつの授業では、準備体操を教えてもらい、実際に慶江さんのお腹を一人ずつさわらせてもらい腹式呼吸の重要性を実感しました。１クラスずつ一緒に食べてくださった給食では、楽しく会食でき、歌以外でのプロの音楽家の魅力を感じることができました。子どもたちの日常の中では味わうことのできない本物の音楽に身近に接することができ、プロの演奏家の人間性に触れ、皆「歌がもっと好きになった」「声が出せるようになった」と大満足の感想をよせていました。全校児童、保護者も最終日の体育館でのコンサートを楽しみにしており、コンサートホールでの演奏と同じようにすてきなドレスですばらしい歌声を間近で聴かせていただき、低学年は終了後自然に高い声の練習をしている子が目立ちました。短時間で子どもたちをよりよく変えることのできる力に感心し、感謝の気持ちでいっぱいです。

子どもたちから

いつもとちがう音楽の授業で楽しかった／歌う楽しさなどを教えてくれたりした／練習したせいかがでたのですごく楽しかったです／おしえてもらったことをいかしてがんばる／高いこえをだすこつがつかめた／歌う前の準備体操を教えてもらい、慶江先生のお腹を一人ずつさわらせてもらい腹式呼吸の仕方を教えてもらえた／５年生のために音楽室でのミニコンサートの歌声が素晴らしかった／全校児童への体育館でのコンサートも心に残った

音楽

西富岡小学校 + オフィスマキナ
声の魅力とその響き(2)

担当アーティスト	山口佳子（ソプラノ歌手）
実施校	横浜市立西富岡小学校（金沢区）
コーディネート	株式会社オフィスマキナ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／声楽／5 学年、2 学級、76 人対象
実施日程	2010 年 9 月 27 日、9 月 28 日、10 月 7 日

授業のねらい

子どもたち自身が、自分が持っている楽器である「声」の魅力に気づくことを目標とします。からだをほぐし、腹式呼吸を学び、全身を使って歌う楽しさや面白さを体験します。また、文部省唱歌を課題曲とし、日本語を丁寧に発音して、歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら歌うことを学びます。

アーティストから

子どもたちは、「なぜこの練習をするのか」という目的を理解して、一つ一つの指示に一生懸命取り組んでくれました。今回はしっかり声を出すことに集中して取り組んだので、どんどん声が出るようになっていく感覚が得られた子も多かったようです。子音の捌き方など、伝えたいことは多くありますが、子どもたちが短期間で納得し消化できる課題に絞ることも大事だと思いました。長い時間立ったままでいると集中力が途切れるので、体を動かすタイミングや時間配分も工夫したいと思います。

コーディネーターから

音楽の先生が事前準備をして下さったり、発表会前に練習ができるように計らって下さったので、全体の流れもスムーズでした。このＷＳで「新しい自分を発見してほしい」と音楽の先生が繰り返し言って下さり、子どもたちの「自分からやってみよう」という意志や、「わかった」という納得感がこちらにも伝わってきました。音楽室でのコンサートの際、子どもたちが食い入るように講師を見ていたのが印象的でした。声楽を生で聴いたことがない子がほとんどで、新鮮だったのだと思います。

先生から

プロのアーティストの素晴らしさや声のもつ表現力・魅力に子どもたちは感動し、興味をもつことができた。今回は、ワークショップを通して、「新しい自分を発見しよう」ということで、取り組んできたが、ほとんどの児童が「自分の声はこんなにひびくんだ」とか「歌がもっと好きになった」「声の出し方がわかった」という感想をもってくれた。保護者の方々にも子どもたちの歌をきいてもらう機会を持てたことで自信につながったと感じている。次回もこのようなプログラムがあればぜひ希望していきたいと考えている。

子どもたちから

みんなといっしょに高い声がだせるようになった／初めて知ったことが多かった／いつも歌っている声よりひびくようになった／歌を言葉みたいに意識して歌えたので楽しかった／歌は練習すれば上手くなれると思った／高い声が出るようになった／声がよく続くようになった／山口先生の歌声がきれいなのと、伝えたい事が伝わってきたところが心に残った／腹式呼吸のやり方がわかった／体育館でミニコンサートをして上手に歌えた／貴重な体験ができた／先生がどこで声を出すのか、図に書いてわかりやすかった／どんどん声がきれいになって「冬げしき」の曲がとても好きになった

音楽

能見台南小学校 ＋ 横浜市芸術文化振興財団
音楽と心(1)

担当アーティスト	森美紀子（ジャズシンガー）
実施校	横浜市立能見台南小学校（金沢区）
コーディネート	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ジャズ／5 学年、4 学級、126 人対象
実施日程	2010 年 10 月 7 日、10 月 12 日、10 月 14 日、10 月 18 日

授業のねらい

自分たちが持っている「声」という楽器を使って、無理をせず自然な声で歌う方法でジャズの醍醐味であるリズムやテンポ変えて歌う楽しさを体験する。課題曲「アメージンググレース」をクラスごとにアレンジしてクラス全員で一緒に歌い、心を合わせて一つの歌を作り上げていく楽しさも体験し、終了後の達成感を持ってもらう。

授業の進行

（1 日目）発声について：準備体操、声の出し方、歌詞を覚える（4 クラス）。（2、3 日目）覚えてきた歌詞の意味について考える、歌を練習して覚える（各日 2 クラス）。（4 日目）クラス別合同発表会。

コーディネーターから

昨年度同様、指導対象が 4 クラスのため、学校側にも協力いただいて昨年度より授業時間を多く確保し、出来るだけゆっくりと取り組めるようにプログラムした。アーティストには児童と真摯に向きあって指導していただき、子どもたちも仲間と声を合わせることで一緒につくる喜び、楽しさ、大切さを感じられたのではないか。また、3 年目ということでプログラムに変化を持たせるため、朗読の方を呼んでいただくなどの工夫をアーティスト側から積極的に提案くださった。子どもたちにとってもプロシンガーの歌声を真近に聞くよい機会になったとおもう。

先生から

森先生を講師に迎えてのプログラムも今回で3回目になります。曲目は同じ「アメイジング・グレイス」ですが毎回新たな発見があり､子ども達と共に教員も学ぶところが大きいと思います。今回も同じ曲をジャズワルツ、サンバ、4 ビート、8 ビートの 4 種類のアレンジで発表し、それぞれの良さを子どもたちも味わい、楽しんでいる様子が心に残っています。講師による「サウンドオブミュージック」の模範演奏も素晴らしいものでした。来年もさらに充実した取組になるよう期待しています。

子どもたちから

英語で歌えた／アメイジング・グレイスの意味がわかった／リズムに乗って歌えた／ジャズにはいろいろなリズムがあることがわかった／みんなの前で発表できた／声の出し方を教えてもらえた

音楽

大豆戸小学校 ＋ 大倉山記念館
音楽をとかそう

担当アーティスト	もび（音楽パフォーマンス集団）
実施校	横浜市立大豆戸小学校（港北区）
コーディネート	大倉山記念館
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／パフォーマンス／6 学年、3 学級、92 人対象
実施日程	2010 年 12 月 17 日、12 月 20 日、12 月 21 日

授業のねらい

普段聞く機会の少ない楽器の音色、音楽家の演奏に触れる。また、自分自身の思いや考えを音で表わす楽しさを感じる。クラスメイトや先生、音楽家と共に、音の表現を通して自分自身の自由な表現を探す。文化庁「子どものための優れた舞台芸術体験事業・派遣事業」と連携して実施。

授業の進行

（１日目）演奏であいさつ　－　音楽室にて。（２日目）音の日記。（３日目）大豆戸小の音楽。

コーディネーターから

彼らはすでに音楽の演奏を楽しんでいたので、普段体験しにくいことのつまった時間にしようと努めました。例えば、校内の様々な場所で何気ない音をよく聴くこと、からだと音を結びつけること、演奏のルールから考えることなど。ゼロに近い状態から作ることは混沌としていてとても難しいけれど、ある瞬間こどもたちが協力して、手探りで何かを見つけようとしている姿が見られました。こどもたちの中で、こんなやり方もあるのだな、と選択肢が増えていれば嬉しいです。

先生から

アーティストの方々の思いが子ども達にうまく伝わっているのが感じられた、とてもよいプログラムでした。今回は、３日間のプログラムだったのですが、日を追う毎に、アーティストとの距離が近くなり、音をきいたり、つくっていったりという活動が高まっていく姿がみられました。アーティストの方々が子どもの実態に応じて授業の内容やすすめ方を臨機応変にかえていたのもとてもよかったと思いました。子ども達がつくった音を CD にしてひとりひとりにプレゼントしてくれました。宝物です。

子どもたちから

普通ではできないような体験ができてよかった／いろいろな楽器を楽しめた／気付かないような音にも気をつけることができるようになった／いろいろな楽器を楽しめた／一緒にやった「もび」のメンバーと音をつくったことが良かった／外（プール等）でグループで音をつくったことが良かった

音楽

東戸塚小学校 ＋ 横浜市芸術文化振興財団
ゴスペルの魅力(1)

担当アーティスト	城田有子（作曲・編曲・演奏家・講師）、河原厚子（ジャズヴォーカリスト）ほか
実施校	横浜市立東戸塚小学校（戸塚区）
コーディネート	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ゴスペル／5 学年、4 学級、153 人対象
実施日程	2010 年 11 月 8 日、11 月 10 日、11 月 11 日

授業のねらい

みんなで楽しくひとつの音楽を作り上げていく楽しさを体験していきます。歌う曲は『アメージンググレース』。高学年になると苦手意識を持ちがちな「歌う」ことを、英語の歌詞を使うことで払拭していきます。また、各クラスの個性を発揮したアレンジに取り組み､最後にお互いのクラスの曲を聴きあうことで、音楽の持つ魅力に気づくことも目標とします。文化庁「子どものための優れた舞台芸術体験事業･派遣事業」と連携して実施。

授業の進行

（１日目）声を出すことのへの抵抗感をなくす(ゲーム感覚の練習)、歌詞を耳で聞き取り、メモする。（２日目）ゴスペルの歴史と歌詞の意味を学ぶ。曲への理解を深めながら練習。クラスごとにアレンジを決める。（３日目）各クラスリハーサルを行った後、合同の発表会を実施。クラスごとにアレンジした曲を発表。

アーティストから

やはり、今年３年目の東戸塚小学校！４クラスそれぞれとても個性的なパフォーマンスに、またまた驚きの連続でした。そして、担任の先生方の個性・子どもたちとの関係がとても興味深く、一歩外からやさしく見守る先生、子どもたちの先頭にたって、歌う先生、踊る先生、それぞれの愛情溢れる支援を得て、超大作のパフォーマンスに大感激の私たち。『戦場のカメラマン』『お芝居』『日本語歌詞』『輪になって踊ろう』 子供たちの無限の想像力に驚愕の３日間でした！

コーディネーターから

最初は緊張もあり、うまく声を出せなかった子どもたちが、講師の先生方の指導により、とても楽しそうに笑顔で声を出していたのが印象的でした。各クラスで意見を出し合うことによって、そのクラスのカラーが引き出され、クラスに一体感が生まれました。たくさんのアイデアをまとめていく難しさを感じながらも、１ つの目標に向かって一生懸命声をかけあうことで、さらに絆も強まったのではないかと思います。また、歌が苦手だという子どもたちも講師の方の上手なリードで、心をこめて楽しく歌うことが大切だということに気づいたと思います。

先生から

ゴスペルにはじめて出会う子たちが多かったが、先生方の親しみやすく楽しい授業を通して、今まで出会った音楽にはない楽しさや、自分たちの表現をつくりあげていくよろこびを感じていたように思う。今年で３年目となり、校内の先生方にもこの活動のよさが浸透してきている。下級生も上級生の発表を見て、自分たちも同じように授業をうけられると期待をしている。今後もずっと続けていけるとうれしい。

子どもたちから

クラスの目標に向かって１つになって進めた／自分たちでいろいろ工夫ができたから良かった／英語を日本語にしたのが楽しかった／ゴスペルの楽しさを知った／少し堂々と歌えるようになった／音楽を通してもっと仲よくなれた／力を合わせればすばらしい力になる／音楽がもっと好きになった／ゴスペルの先生たちの声がキレイ／歌う楽しさがわかった／きんちょうしたけど楽しかった／いつもとちがう自分になれた／他のクラスの発表もよかった

音楽

俣野小学校 + オフィスマキナ
ジャズのアドリブを体感(2)

担当アーティスト	ユキ・アリマサ（ジャズ・ピアニスト）
実施校	横浜市立俣野小学校（戸塚区）
コーディネート	株式会社オフィスマキナ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ジャズ／4 学年、1 学級、2 人対象
実施日程	2010 年 9 月 15 日、9 月 22 日、9 月 29 日

授業のねらい

ジャズは横浜にとってゆかりのある音楽でありながら、子どもにとって、聴く機会は多くありません。まず、本物のアーティストによる生演奏を間近で鑑賞し、ジャズ特有のリズムやハーモニーを体験し、子どもたち自身も楽器を持って、実際にアドリブを体験。お互いに聴き合いながら自由に表現する楽しさと、バンドと一緒に演奏する喜びを味わうことを目的とします。文化庁「子どものための優れた舞台芸術体験事業・派遣事業」と連携して実施。

アーティストから

今回のＷＳ内での曲作りは、まず子どもたちが曲のタイトルの案を出し、ベースが一つ一つの案を表現するのを聞いて、タイトルを決めるということから始めてみました。演奏する音もすべて子どもたちが選び、例年よりも音が多い形でしたが、お互いによく聞いて演奏していました。「ジャズ」という言葉への先入観のない子どもたちには、ジャズの本当の自由さが伝わるのではないかと思いました。

コーディネーターから

子どもたちが非常によくリズムを聴いていることに驚きました。慣れてくると体も動き、音楽を楽しんでいる様子がわかりました。はじめは消極的だった子も、本番では真剣にアドリブに挑戦していました。終わった後に「楽しかった！」という声が次々に挙がったのも印象的でした。また、発表会は観客側もワークショップを追体験できるような形で行われ、どんな風に曲を作ったのか、他学年の子どもたちにもよく理解できたのではないかと思います。

先生から

昨年もジャズ教室を実施させていただきました。今年度も毎回楽しく行うことができましたが、特に今回はリズムやベースライン、メロディーと重なるとジャズっぽく、音楽になっていく過程を子どもでも感じ取ることができる流れにしていただいたのでよかったです。こうしたことを感じ取れるのは、やはりアーティストによる授業ならでは、だと思います。毎年（同じジャズ教室でも）新しい発見や感じ方ができるところがとてもよいです。

子どもたちから

自分たちで音楽をつくれた／アドリブがちゃんとできた／ジャズはこういうものなんだって思いました／音楽がこんなに楽しくなるなんてすごかった／曲がだれにでもつくれることが分かった／どの音を出してもちゃんと曲になる／難しいことを簡単に教えてくれた／ジャズは自由に弾いたりできたことが楽しく感じた／いっしょに演奏したことが思い出に残った／適当な音が音楽になってすごいと思った。好きな音で音楽が出来たのがすごいと思った。

音楽

矢部小学校 + よこはま音楽広場実行委員会
ラテン音楽を楽しもう(1)

担当アーティスト	松井イチロー（パーカッション）、鈴木タケオ（ドラムス＆キーボード）
実施校	横浜市立矢部小学校（戸塚区）
コーディネート	よこはま音楽広場実行委員会
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／打楽器／4 学年、3 学級、124 人対象
実施日程	2010/12/10

授業のねらい

伸び伸びとした自己表現を目指すこと。身体を使って打楽器を叩く体験を通して自己のオリジナルな音に耳を傾けること。様々な打楽器の音を聴くことで打楽器の特徴を知ること。

アーティストから

生徒さんが飽きずになおかつ、打楽器に興味を持ってくれるかがポイントでした。効果的なのは実際に楽器にふれて参加すること、特に良かったのは「ジャンベリレー」でした。ゲーム感覚で楽器に触れることができ、また自己表現する自信にもつながったように思います。先生方の協力にも助けられました。先生方、生徒達、そして私達出演者が一体になってできた実りある時間だったと確信しております。

コーディネーターから

当日の印象として、冒頭でアーティストが全身を思い切り使い真剣に打楽器を叩く姿を見せたことは、子ども達の興味を一気に惹き付けただけでなく、自己表現へのイメージの明確化に繋がったと思う。準備のプロセスでは、担当の先生が実施内容について、積極的に尋ねてくださるなど、学校側も主体的な姿勢を示して下さったことは当日にも反映されてよかったと思う。

先生から

やってみて、とてもよかった、またやりたいと思いました。プロのミュージシャンが、語りや演奏で子どもをひきつけ、目の前で演奏を見せてくれたり、子どもが楽しめるような企画を体験させてくれたので担任一同もリズムに乗って、すっかり楽しんでしまいました。ありがとうございました。

子どもたちから

音楽に合わせて、みんなでシェーカーを振ったことが良かった／たいこをたたくことができたから良かった／いろいろと学べて鑑賞もできた／感動した／シェーカーのふり方を教えてくれた／音楽がもっとやりたく（好きに）なった／たいこをたたけた／音楽の授業でリズムに合わせることがあるからためになった／いろいろな楽器のことがわかった／和太鼓をやっているので、ためになった／他の国の楽器がよくわかった／イチローさんみたいに、ドーンと出っぱること／楽器への関心や興味がもてた／音楽がとても楽しいことを実感した／イチローさんが言ったように「太鼓は人を引きよせる」と思った／最初はそれほど楽しいだろうとは思わなかったが、授業をしたら、めちゃくちゃ楽しくて、すごい迫力だった／自分で試したりできておもしろかった／盛り上げることができて楽しかった／自分で試したりできておもしろかった／全部思い出に残った／私もあんな風にたたけるようになりたい／目の前で見た演奏がとても迫力があった／ドラムが心に「ドン、ドン」とひびいた。

音楽

永谷小学校 + 神奈川県立音楽堂
リズムとアンサンブル(1)

担当アーティスト	神田佳子（パーカッショニスト）
実施校	横浜市立永谷小学校（港南区）
コーディネート	神奈川県立音楽堂
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／パーカッション／4 学年、3 学級、80 人対象
実施日程	2011 年 1 月 19 日、1 月 24 日、1 月 31 日

授業のねらい

打楽器の音やリズムを楽しむ／音楽を『作り上げる』楽しさを味わう／アンサンブルを通して『コミュニケーション力』を高める／子どもたちが自分たちで何かを作ることにより、創造性や自主性を伸ばす／子どもたちにプロの演奏技術の高さを体験してもらう

授業の進行

（１日目）講師の演奏と楽器紹介／リズム・打楽器の体験　宿題：身の回りの物を使って、好きな音を探してくる。（２日目）自分の選んできた音を発表する。／選んだ音を元にアンサンブルを組み立て、練習する。（３日目）ガラクタと楽器を使ってのアンサンブル・リハーサル／全校生徒を前に体育館で発表会。

アーティストから

今回、音を鳴らすこと、リズムに乗ること、アンサンブルの楽しさを味わうことなどを目標としました。盛り沢山の内容を短時間で行わなければなりませんでしたが、子供たちの反応が良く、打楽器を通して、様々な角度から音楽を楽しむことを伝えることが出来たかと思います。 また、思いのほか、「身の回りにあるものから音を探す」という作業が子供たちに刺激となったようです。子供たちの素直な反応は本当に嬉しく感じました。

コーディネーターから

全く同じプログラムを実施しても、生徒、教師、学校が異なると全く違うものになることを体感した。事前のヒアリングだけでは把握しきれないことも多いが、学校の状況を少しでも多く把握する努力が必要だと感じた。

先生から

このプログラムでは、音楽専科である自分も子どもに経験することのできない分野でのワークショップをお願いしたいと考えてます。今年度は打楽器奏者によるワークショップということでしたが、打ち合わせをした段階では、自分でも実践してきた内容に近いという印象で、実際もそうでしたが参考になることも多々ありました。普段子どもたちは、「打楽器は特別な技術をもっていなくてもできそう」という思いでいるようですが、ワークショップを通して打楽器演奏の奥深さを感じたようです。また、いろいろな打楽器を見せていただいたり、身の回りにあるものが楽器になることが心に残ったようです。

子どもたちから

初めての楽器や、たくさんの種類の楽器にふれることができた／プロのアーティストの方の演奏に感動した／身近な物で楽器がつくれて、おもしろい音楽になることを知った／音楽が好きになった／いろいろな打楽器や演奏の仕方を知ることができた／プロのアーティストのすばらしい演奏を聴けてよかった／先生方やみんなと心を一つにして全校の人の前で発表できたことが思い出に残った／身近な物で演奏ができてびっくりした

音楽

日限山小学校 + みなとみらいホール
歌のプレゼント

担当アーティスト	柏原美緒（ソプラノ）
実施校	横浜市立日限山小学校（港南区）
コーディネート	みなとみらいホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／声楽／5 学年、3 学級、102 人対象
実施日程	2010 年 11 月 11 日、11 月 12 日、11 月 15 日

授業のねらい

プロの声楽家の歌声を間近に体験をする。鑑賞だけでなく、自ら歌うことの楽しさを知る。声楽家による歌唱指導を受け、歌唱レベルの向上に寄与する。

授業の進行

声楽鑑賞、歌唱指導。（同内容を各クラス 1 日ずつ実施。）

アーティストから

素直で積極的な子どもが多く、参加意識が高かったように感じた。こちらの問いかけに対するリアクションも良くプログラムを進行しやすかった。ミニ･コンサートでは静かに集中して聴いてくれていた。

コーディネーターから

積極的に歌っていた。また準備運動なども楽しみながら参加していた様子。音楽担当の先生が積極的で物事が進めやすかった。クラス担任から児童の様子を聞けるともっと良かった。

先生から

子供たちは、今回の授業を大変心待ちにしていました。そして、子供たちの期待を裏切らないすばらしい授業をしていただきました。プロの声楽家の声の力強さや美しさを敏感に感じ取り、感動していた様子です。声の出し方が分かるようになった、という子供たちがたくさんいました。また、練習を重ねることにより、人間の声はあのように素晴らしいものになるのだという事に気がついていました。今後もぜひこの活動を継続していただき、歌好きの子供を増やしてほしいです。ありがとうございました。

子どもたちから

歌をきもちよくうたえた／きれいな声が出せたし、達成感があった／歌が好きなので、きれいに歌えるようになった／体のほぐしかたをおしえてもらってよかった／とても良い体験ができ、すごく良かったです／これからの音楽の授業でも教わったことを思い出しながらやります

音楽

日野南小学校 ＋ 横浜市芸術文化振興財団
大地のリズム！

担当アーティスト	松井イチロー（音楽家）
実施校	横浜市立日野南小学校（港南区）
コーディネート	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／打楽器／5 学年、3 学級、83 人対象
実施日程	2010 年 11 月 19 日、11 月 24 日、11 月 26 日

授業のねらい

学校の方針として、自分の思いを伝えあい、高めあう児童の育成を目指している。定形化した表現、技術的に難しい表現ではなく、個人の表現、全体の表現が出来る活動を期待する。これを受けて、１．音楽の楽しさを知る。２．自分の表現をしてみる。３．発表会でセッションすることを通じて、自己表現の苦手な児童も一歩踏み出し、友達と一緒に音楽を作り上げようとする姿勢を育てることを目標とした。

授業の進行

（１日目）アーティスト紹介（実演）、楽器解説、子どもの手作り楽器紹介、合奏体験、発表会テーマ説明。（２日目）発表会テーマ発表、発表会練習。（３日目）３クラス合同発表会、アーティスト実演、生徒とアーティストの合同発表。

アーティストから

山、火、風と抽象的な楽曲を子ども達が演奏しましたが、練習では短かった曲が、本番では長くなり、面白かったです。演奏しているうちにだんだんと表情も音も良くなってくるところに、正に太鼓の力を感じました。これまで、私は「音楽鑑賞会」に数多く出演していますが、それらは大抵が一日限りの「鑑賞会」でした。今回のように三日間あれば実体験をしたうえで鑑賞会の理解度もより一層深まると実感しました。このような貴重な教育企画に賛同してくださる各関係機関に感謝します。

コーディネーターから

この学校の音楽室には、多くの打楽器があり、普段、児童も触れたことがほとんどないとのことでした。今回、５年生全員は、それを使って演奏してもらいましたが、とても活き活きと音楽を楽しむ姿を観て、体育館や校庭で遊ぶ時間と同じように、音楽室を自由に遊ぶ空間として、もっと日頃から使えるのではないかと感じました。今回のようなイベント的ではなく、音楽に限らず、定期的に学校を巡回し、そこに眠る資源を発掘する活動もまた有効と考えます。

先生から

本授業では、太鼓１つでもたたく場所で音色が違ったり、強弱、速い遅いで様々なリズムがつくれることを学べたことが良い経験だったと思います。ふだんの授業と違い、子ども１人ひとりが生き生きと活動していました。発表では緊張していたのか、練習で習ったことが生かされていない場面もありましたが、がんばっていたと思います。太鼓だけではなく、メロディーが弾ける楽器が入ると、もっと厚みが出てよかったと思いました。

子どもたちから

たいこはたたく場所によって音がかわるということがわかったのでよかったです／「火」という題をつけたとき、最初はちゃんと出来るか心配でした。けれど、だんだんやっていくうちに、「火」に近づいていたので、本番でも、火のようにみんなで音楽を楽しみました／１つのたいこなのに、いろいろな音がでてびっくりした。打楽器だけで音楽ができるとは思っていなかった。たいこにいろいろな形があることに気がついた／音を、大きくしたり、小さくしたりするのが、かんたんそうにみえたけど、やってみたら、どこまでちいさくすればいいのかとか、どこまで大きくすればいいのかが、分からなくて、むずかしかったです／最初はただのペットボトルに、ビーズがはいった楽器だったけれど、合そうの時は、マラカスのようにこんなにいい音がでると知ってビックリしました。いつもはがくふを見てそのとおりに音をだしていましたが、この授業では好きなように音をだして合そうしたので、それぞれのクラスによって合そうの感じがちがくて、聞いていてとてもおもしろかったです。また、ジャズをやりたいと思いました／最初ジャズと聞いてなんのことかあまりわからなかったけれど、そっきょうで考えたり自分なりにやってみたりと、がくふを見てひくのではなく、好きなようにやっていい音楽がある。というのが分かってとってもおもしろかったし、おどろいたこともあったし、たった３時間だったけれど、ジャズ・音楽のことが、前よりも好きになったように感じました／初めてえんそうを聞いたときは、とても大きな音ではく力がすごくてとてもおどろきました。こんなのをえんそうするの！？と思って少し不安だったけど、たたいてみるとすごく楽しかったです。発表の時は、４年生や６年生が聞きに来ていてとてもきんちょうしたけど、いざたたいてみると楽しくてきんちょうしなくなりました。とても楽しかったので、機会があったらまたえんそうしてみたいです。

音楽

ひかりが丘小学校 + サンハート
ゴスペルの体験

担当アーティスト	河原厚子（ジャズ･ボーカリスト）
実施校	横浜市立ひかりが丘小学校（旭区）
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／ゴスペル／全学年および大池小児童、374 人対象
実施日程	2010/12/06

授業のねらい

昨年までの２年間、同様のプログラムを実施してきたことで、子どもたちにゴスペルという音楽や、講師に対する親近感が生まれている。そこで、この触れ合いを継続することで、「ゴスペル」という芸術文化をより深く理解することを目指す。さらに、今年度末で、隣接する大池小学校と合併することを踏まえ、大池小の児童を招き、同じプログラムを体験することで、子ども同士のコミュニケーションを広める機会とする。

授業の進行

ゴスペルの楽しさを体で感じる「Live ＆ Workshop」

アーティストから

今回のＬＩＶＥ&WORKＳHOPは、低学年と高学年に分かれての２部構成、ほんの２，３年の違いで、雰囲気が違い、本当に面白かったです。低学年の子供たちの可愛い声！高学年の子供たちの少し照れくさそうな、でも、ノリノリになると止まらない歓声！心温まる楽しいひとときを過ごすことができました。３年間、お邪魔しているので、顔見知りの子供たちも多く、１年間の成長振りにメンバー一同嬉しく思えた一日でした。このような機会を持たせていただき、とても感謝しております。

コーディネーターから

同一アーティストで３年目となる今回は、来年度から合併が決定している大池小学校の子どもたちにも参加してもらうことで、とても賑やかな状態になりました。また、参加人数が増えたことに伴って、１日２回のプログラムとしましたが、それでも１回あたりの人数が増え、かつ、大池小の子どもたちの往復時間も見込んだため実時間は減ったものの、低学年と高学年で分けたことで、それぞれに応じた内容となつて、それぞれからより反応を引き出せたと思います。

音楽

山下小学校 + よこはま音楽広場実行委員会
ラテン音楽を楽しもう(2)

担当アーティスト	松井イチロー、鈴木タケオ（パーカッション、ドラムス＆キーボード）
実施校	横浜市立山下小学校（緑区）
コーディネート	よこはま音楽広場実行委員会
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／打楽器／5 学年、3 学級、100 人対象
実施日程	2011/01/28

授業のねらい

普段慣れ親しみのない楽器に触れる体験と、鑑賞だけでなく自分達も自発的に参加できるような体験をすること。

授業の進行

アーティスト演奏、打楽器＆ドラム紹介、手作りシェーカー演奏、ジャンベリレー　など。

アーティストから

生徒さんが飽きずに、かつ、打楽器に興味を持ってくれるかが常に私達の課題です。最も盛り上がったのは「ジャンベリレー」でした。ゲーム感覚で全員が平等に楽器に触れてソロをすることによって、自分はもとよりクラスメイトの新たな一面を発見して相互理解に繋がれば幸いです。教育は先生方に任せきりにするのではなく､様々な職業の大人達が協力することによって、より上質なものになると痛感しております。

コーディネーターから

担当の先生が音楽専科だった為、授業でジャンベを調べ、リズム楽器を使った合奏をして下さったことは、初めて見るジャンベに対して抵抗なく演奏するきっかけを作って下さったと思う。クラスのまとまりがないと伺っていたが、子ども達がドラムの生演奏を聴くときやジャンベを演奏するときは、個々が感じたことを仲間と共有し合ったり、仲間の演奏に拍手したりと認め合う機会に繋がったと思われる。

先生から

この度は授業を実施していただき、ありがとうございました。子どもたちは、目にしたことのない楽器の音色を聴いたり、触れたりして、心に残ったようでした。また、アーティストの方の魅力（技や人柄など）に引きつられたようでした。来年度から教科書がかわります。学年のカリキュラムに応じ、学習に活用できるとうれしいです。事前の準備や授業の内容がもっと事前に分かるものが詳しいと助かります。（時程、子どもの 4 動き、ねらいとしていることなど）

子どもたちから

楽器を作ってえんそうしたのが楽しかった／これから音楽をもっとがんばりたいと思ったし、すごい感どうした／知らなかった楽器の名前がわかった／もっと音楽がたのしみになった／一番最初のえんそうははくりょくがあった／みんなとマラカスでえんそうしたのが楽しかった／思ったよりも大きな音で体育館の広いなかがものすごくひびいていてすごいなと思いました。たいこをたたいてみると楽しかったです。

音楽

山下みどり台小学校 + 子どもに音楽を ヴァイオリン体験

担当アーティスト	大林修子（ヴァイオリン）、大須賀恵里（ピアノ）
実施校	横浜市立山下みどり台小学校（緑区）
コーディネート	特定非営利活動法人子どもに音楽を
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／クラシック音楽／4 学年、2 学級、65 人対象
実施日程	2010/12/16

授業のねらい

一方的な演奏会というのではなく演奏家自身のお話を交えてのコンサートにしたい。いろいろな楽器がある中、子ども達にとって最も聴く機会のない弦楽器を是非聴いて欲しい。今回はヴァイオリンとピアノのコンサートを企画しました。

アーティストから

とても元気のいい子どもたちでしたが、真剣に聴いてくれたと思います。曲によって子供たちの反応はそれぞれ違っており、子どもは敏感ですごいな！と感じたと同時に演奏する側として気持ちが引き締まりました。

コーディネーターから

初めの担当の先生と日程を決めるに当たり、3 ヶ月以上かかり（連絡しても返事をもらえず）9 月 or10 月予定が 12 月にずれ込んでしまいました。途中、急遽担当の先生が変わってからは順調に進みましたが、5 年生で実施のはずが 4 年生での実施となりました。又、今回は活動始まって以来の緊急事態が発生（すぐ取替えの出来ないピアノの低い弦が調律中に切れて修復不可能）、切れたままで演奏するしかないということになりました。ピアニストにとっては大変な事態で申し訳ありませんでしたが、何とか無事終了することが出来ました。いろいろなことがありますが、その都度、真摯に対応していきたいと思います。

先生から

今年度は、既に色々な内容が決まっていることが正しく引き継げないままにスタートしたので、たくさんの御迷惑をおかけすることになり申し訳なく思っています。プロの方とは演奏だけでなく、生き方にも触れることができたことで、「自分もがんばりたい」という思いや「日頃の音楽活動でも努力をし続けたい」など様々な思いをもつことができたように思います。実態として「音楽を集中して鑑賞する」ことが難しい子ども達でしたが生演奏と迫力のある演奏にひきこまれ、子ども達なりに音楽の世界に浸っていたように思います。できれば、選曲の面で、音楽教材にある曲など子ども達の身近な曲がプログラムにあるなど、実態と共に双方で相談することが可能になれば、尚一層子ども達の心に残るプログラムになるように思います。ありがとうございました。

子どもたちから

「授業」という感じに思えなかった／初めて生のヴァイオリンが聴けてうれしかった／音の重なりがきれいで、はく力もあった／楽しかったが、音楽にそれほど興味がなかった／ずっと努力して夢が実現した話を聞いて、自分も頑張りたいと思った。

音楽

阿久和小学校 + 神奈川県立音楽堂
リズムとアンサンブル(2)

担当アーティスト	神田佳子（パーカッショニスト）
実施校	横浜市立阿久和小学校（瀬谷区）
コーディネート	神奈川県立音楽堂
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／パーカッション／4 学年、2 学級、41 人対象
実施日程	2011 年 1 月 18 日、1 月 25 日、2 月 1 日

授業のねらい

打楽器の音やリズムを楽しむ。・音楽を『作り上げる』楽しさを味わう／アンサンブルを通して『コミュニケーション力』を高める／子どもたちが自分たちで何かを作ることにより、創造性や自主性を伸ばす／子どもたちにプロの演奏技術の高さを体験してもらう。

授業の進行

（１日目）講師の演奏と楽器紹介／リズム・打楽器の体験　宿題：身の回りの物を使って、好きな音を探してくる。（２日目）自分の選んできた音を発表する。／選んだ音を元にアンサンブルを組み立て、練習する。（３日目）ガラクタと楽器を使ってのアンサンブル・リハーサル／３年生を前に音楽室で発表会。

アーティストから

今回、音を鳴らすこと、リズムに乗ること、アンサンブルの楽しさを味わうことなどを目標としました。盛り沢山の内容を短時間で行わなければなりませんでしたが、子供たちの反応が良く、打楽器を通して、様々な角度から音楽を楽しむことを伝えることが出来たかと思います。　また、思いのほか、「身の回りにあるものから音を探す」という作業が、子供たちに刺激となったようです。子供たちの素直な反応は本当に嬉しく感じました。

コーディネーターから

全く同じプログラムを実施しても、生徒、教師、学校が異なると全く違うものになることを体感した。事前のヒアリングだけでは把握しきれないことも多いが、学校の状況を少しでも多く把握する努力が必要だと感じた。

先生から

今年度で３回目になります。今回は講師陣やコーディネーターが新しい方々でしたので､今までとは違った授業になりました。「リズムやふしをつくって表現しよう」の音楽科の学習主題で学習しました。４年生は講師の先生方の演奏を通して、リズムやふしの重なりのよさや身の回りの物（紙やあき箱など）が楽器となり、音楽になるという気持ちになりました。さらに、３年生は先生方と楽しく自由に演奏している４年生の姿を見て、来年度は自分たちがやりたいという気持ちを起こしています。

子どもたちから

楽器をいろいろたたけたのが楽しかった／おもしろいがっきがならせた／いろいろながっきをしったり、おしえてもらってためになった／がらくたでもいろんな音がでて楽しかった／興味がなかった／自分がたたいた物が思い出に残った／マリンバのえんそうがすごいと思った。みぢかながっきでえんそうするのがたのしかった

音楽

瀬谷さくら小学校 + Media Global
ノリノリでリズムを楽しもう

担当アーティスト	市川義久、長谷川友二、村山二朗
実施校	横浜市立瀬谷さくら小学校（瀬谷区）
コーディネート	企業組合Ｍｅｄｉａ　Ｇｌｏｂａｌ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／打楽器／3・4 学年、5 学級、140 人対象
実施日程	2010 年 10 月 8 日、10 月 19 日、11 月 9 日

授業のねらい

今年度新しくスタートした瀬谷さくら小学校、統合された二つの学校の子どもたちが早く仲良く活動できるよう、楽しい音楽を活動を体験する。学校にある打楽器や楽器を手作りしていろいろなリズムを楽しむワークショックを実施する

授業の進行

（１日目）４年生鑑賞：楽器紹介、体験コーナー。３年生鑑賞：楽器紹介、一人ずつ太鼓を打つ。即興で「もみじ」合唱。（２日目）４ 年生ワークショップ：太鼓の基礎、空き缶で楽器作り、課題曲「八木節」　リズム打ち。（３日目）４年生ワークショップ：総合練習、班ごと発表、ミニジョイント。

アーティストから

小学校を訪問し、演奏を聞かせたり交流する機会はこれまでにも経験があったが、３回にわたり連続して授業を行ったのは初めてでした。子供たちを少ない回数で段階的に指導をし、音楽が得意な子も苦手な子も充実感が得られるようにとカリキュラムの組み立てには苦慮しました。実施した結果は対象が、３年生と４年生という好奇心と素直さと能力が高い学年だったいうこともあり、提供する側も受ける側もほぼ満足のゆく内容になったと思います。やはり体験講座の実施対象は中学年に限ると今回確信しました。これからも未来を担う子供達の感性を刺激してゆきたいです。

コーディネーターから

今年統合した学校で打楽器がたくさんあり２基ある和太鼓を中心に鑑賞とワークショップを実施しました。４年生は課題曲「八木節」のリズム打ちに挑戦しました。少し難度が高かったかもしれませんが、空き缶で作ったマイ太鼓でみんな良く練習しました。担当の先生から「音を楽しむことができた」と総評をいただいています。普段の授業では体験できない分野でこそ、このプログラムを生かすべきだと思うと同時に、子どもたちが未体験の分野を限られた時間の中でどう組み立てるかが今後の課題だと感じました。

先生から

一回目は篠笛、ギター、パーカッションによるアンサンブルを鑑賞した。生演奏の迫力と篠笛を中心とした日本的なしっとりと落ち着いた楽器の響き合いに子どもたちは静かに聴き入っていた。二回目、三回目は「八木節」に合わせたリズムアンサンブルのワークショップであった。和太鼓の奏法を教えていただいたり、空缶で作ったマイ楽器やボンゴ、コンガで、いくつかのリズムパターンを演奏したりした。はじめは難しかったリズムの組み合わせも慣れてくると元気に演奏できるようになり、アンサンブルの心地よさを味わうことができた。子どもたちは、音楽の楽しさが広がるよい経験ができた。

子どもたちから

いろいろなリズムでいろいろな楽器をたたけた／いろいろな事をわかりやすく教えていただけた／笛の音がきれいだった／たいこがうまくできなかった／太鼓のたたき方がわかった／むずかしいリズムがおぼえられた／私はあまりたいこなどたたくきかいがなく、ずっとたたいてみたくて、たたけた時はすごくうれしかったです。でも、最初はうまくリズムがたたけなくて、人のを見ていっしょにたたいたりしているだけだったけど、練習しているうちにおぼえてきて、できるようになりました。もっともっと練習しているとできるようになって、家でも自分のリズムを口で言ったりして、かんぺきにできるようになってうれしいです。ほかのたくさんのリズムもおぼえられるだけおぼえたいです。カンも９月ぐらいからもってきて、先生から「やるのは 10 月だよ。」ときいて、「はやくやりたい。」と思いました／ぼくが一番心に残ったのは、プロの方にえんそうしてもらったことです。すごくはくりょくがあってすごい感動しました。じぶんでもがっきををつくれるのは、はじめて知りました。ギター、ドラム、しのぶえの三つの音をあわせてえんそうするのはきれいだなと思いました。ぼくは、はじめてたいこをたたけて、うれしかったです。じぶんでもびっくりしました。みんなと先生とえんそうできて、楽しかった。

音楽

二つ橋小学校 + オフィスマキナ
ジャズのアドリブを体感(3)

担当アーティスト	ユキ・アリマサ（ジャズ・ピアニスト）
実施校	横浜市立二つ橋小学校（瀬谷区）
コーディネート	株式会社オフィスマキナ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ジャズ／5 学年、2 学級、78 人対象
実施日程	2010 年 10 月 13 日、10 月 20 日、10 月 27 日

授業のねらい

子どもにとってあまり馴染みのない「ジャズ」に触れる機会を作ります。本物のアーティストによる生演奏を間近で鑑賞し、ジャズ特有のリズムやハーモニーを体験します。子どもたち自身も楽器を持って、実際にアドリブを体験します。教科書に書いていない音楽を自由に「やってみる」楽しさと、お互いに聴き合いながらバンドと一緒に演奏する喜びを味わうことを目的とします。歌や楽器が得意でない子も、積極的に参加できるようなワークショップを目指します。

授業の進行

（１日目）講師による演奏・ジャズの紹介・楽器紹介・音楽の「雰囲気」を感じよう。（２日目）アドリブに挑戦・音楽の「雰囲気」を作ってみよう。（３日目）リハーサル・ジャムセッション・発表会。

アーティストから

２クラスとも非常に元気でしたが、演奏になるとお互いによく聴き合っていました。５年生だと（４年生に比べて）色々なことを「理解」して取り組んでいる感じがします。「新しいことをやってみたい！」という活発さがあり、少し難しいことにも積極的に取り組んでいました。周りの音をよく聴いてアドリブをし、とてもよく音楽をしていたと思います。また譜面を見ずに耳で覚えた曲は、やはりよく覚えていました。

コーディネーターから

講師･アシスタントが子どもたちの意見や要望に応えるたびに、子どもたちの間に「音楽って面白い！」という感激が生まれていくのがわかりました。音楽室での発表は、演奏者と聴衆の距離が近く、良かったです。授業の途中で先生方が気を遣って下さって子どもたちに注意をしてくださるのですが、どうしても子どもたちの集中が途切れてしまう部分もありそうです。子どもたちが騒がしい状況になっても、講師を中心として授業が進められる方法も考えたいと思いました。

先生から

校内で１番自由奔放で活動的な５年生が授業を受けました。初めてジャズに接する子がほとんどだったので興味津々。いつもより聞く（聴く）態度が良かったのは、講師の先生が、自然にジャズに入り込めるような魅力的な音楽・話術・流れで進めていってくださったおかげでしょう。多くの子たちが講師の方々と直接音楽でふれあうことができ、大喜びでした。他の学年からも「うらやましい」との声が聞かれ、毎年このような授業を子どもたちに受けさせてあげられたらと思いました。

子どもたちから

私たちがやっている曲もジャズになり楽しかった／いろいろな楽器でリズムを感じることができた／ジャズは初めてで、ジャズとは何かがわかった／一緒に音楽をつくることができた／いろんな音楽を混ぜて聞いたことのない音楽を作ることができた／プロの人たちとみんなで演奏することができた／ジャズという音楽の楽しさを知ることができた／アドリブのことやジャムセッションのことがわかった／ジャズの楽器の役割がわかった／人の音を聴こうと思うようになった／ジャズは誰にでもできる自由で楽しい音楽だと思った／アドリブはただ適当にやるんじゃなくて、他の音もよく聴くことが大事ということがわかった／私は前から JAZZ が楽しみでした。最初私は JAZZ のというものを知りませんでした。でも１回２回やっていくうちに、だんだんわかってきました。自由に音楽をやるということは、とてもいいことだとわかりました。私はいつも、楽譜を見てしか音楽をやったことがないので、JAZZ の人たちはすごいなあと思いました。こんな機会は、もう一生ないと思うので、JAZZ のことを忘れないと思います／リズムにもいろいろあり、人もいろいろいるから、その一つひとつを大切にしたいと思った。また、自由に演奏しているのに、全員で合奏してみんなが一つになったって感じたことが思い出だ／アリマサ先生が、「適当に弾いても JAZZ になるよ。」と言っていたので、家でもやってみた。（ピアノで）できませんでした。だから、ベースとドラムの人たちと心を合わせて、みんなで合わせて演奏するとなるんだなあ、と思った／初めて JAZZ を聴いて、楽譜がないことに驚きました。どんなリズムもできるドラムがおもしろかったです

音楽

南瀬谷小学校 + 横浜市芸術文化振興財団
みんなでうたう(2)

担当アーティスト	渡海千津子、斎藤育雄（ソプラノ、合唱指導・ピアノ）
実施校	横浜市立南瀬谷小学校（瀬谷区）
コーディネート	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／声楽／6 学年、4 学級、154 人対象
実施日程	2010 年 12 月 6 日、12 月 9 日、12 月 14 日

授業のねらい

卒業式に向けて、自信をもって歌えるように、発声の基本を学ぶ。少人数での指導を希望しているため、１クラスずつの指導を行う。最終日には発表会と講師によるミニコンサートを行う。発表曲は、こどもたちに親しみやすいポピュラーな曲で、２クラスずつ合唱をする。

授業の進行

（１日目）アーティストによるオペラ披露、発声練習、合唱パート分け、合唱練習。（２日目）発声練習、合唱練習。（３日目）本番。

アーティストから

非常に興味深く、また楽しい時間を過ごすことができた。授業進行も、各クラス担当の先生が熱意を持って、子どもたちに事前に練習をさせていたことにより、スムーズに行う事ができた。限られていた時間のため、発声方をメインに教えたが素直な子供たちが多く、また創造力も強い為一度言ったことはすぐ直してくれ短い時間の中でもぐんぐん成長を感じられた。先生方が最初危惧されていたパート分けも結果二部合唱できちんと歌うことができて非常に良かったと思う。

コーディネーターから

ほとんどの生徒が楽しんで､真剣に取り組んでいるようだった。渡海先生の選定してくれた合唱曲は中学生向けだったということもあり、適度な難易度があった為練習を必要としたことが真剣に取り組む要素の一つになったのではないだろうか。初日の渡海先生･斎藤先生のオペラ披露では生徒みんな感動しており、本物の音楽に触れる良い機会になったと思う。また、渡海先生のトーク内容もとても興味深く、特に「頑張らなくていい」という話においては生徒たちは驚嘆の声を漏らしていた。本番は 6 年生二組の合唱と共に約 20 分間というミニコンサートを行ったが、低学年の生徒でもかろうじて耐えられる時間枠で、また先生と一緒に歌う時間も設けたことにより気が他に散ることなく無事終了できた。

先生から

１時間目の授業の最初に渡海先生の声量のある素敵な歌声を聴かせていただき、子どもたちは相当な刺激を受けたようです。その刺激が２度の授業の中に生かされたことと思います。どの子も真剣な眼差しで授業に集中していました。渡海先生には、発声の基本となる呼吸の仕方や口の開け方など丁寧に教えていただき大変ありがたかったです。さらに指揮者の斎藤先生の、指揮をされながらのポイントをおさえたご指導の数々が、子どもたちの歌声を高めました。今度、またお世話になることがあるかもしれませんが、その折には、今回のような展開で進めていただけたなら十分かと存じます。お２人の先生及び運営の方の自己紹介をしていただけたらよかったかなと思いました。

子どもたちから

大きな声で歌えて気持ちよかった／歌うコツを教えてもらえた／教え方がおもしろかった／歌うのは楽しかったが、ずっと歌い続けるのは大変だった／ずっと立っていて足が痛くなった／少し歌がうまくなった気がする／横隔膜でハムスターが回っているのを意識することを覚えたのがためになった／音痴はいないと言われて思いっきり歌えるようになった／前よりも声が楽に出るようになった／オペラ歌手の人みたいと思った／渡海先生、斎藤先生がやさしく教えてくれた／ハムスターのことは、歌うとき、いつも心がけようと思った。

音楽

桂台小学校 ＋ 横浜市芸術文化振興財団
ゴスペルの魅力(2)

担当アーティスト	城田有子（作曲・編曲・演奏家・講師）、河原厚子（ジャズヴォーカリスト）ほか
実施校	横浜市立桂台小学校（栄区）
コーディネート	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ゴスペル／5 学年、2 学級、68 人対象
実施日程	2010 年 10 月 20 日、10 月 22 日、10 月 23 日

授業のねらい

オープンスクールに向けて、みんなで楽しくひとつの音楽を作り上げていく楽しさを体験する。歌う歌は「アメージンググレース」。高学年になると表現することへの恥ずかしさや不安感を意識し始めるので、思い切って声を出す楽しさや喜びを感じ、その意識を払拭してもらう。お互いのクラスの曲を聴きあうことで音楽の魅力に気付いてもらうことも目標とする。また、日程調整が可能であれば、地域の支援学級の子どもたちにも参加していただき、地域交流を深める。文化庁「子どものための優れた舞台芸術体験事業・派遣事業」と連携して実施

授業の進行

（１日目）声を出すことへの抵抗感をなくすため、ゲーム感覚の練習を実施。ゴスペルの歴史を学ぶ。（２日目）クラスごとにアレンジを決めて、3 日目の発表に向けて練習をする。（３日目）リハーサルを行い、オープンスクールにてクラスごとに発表を行う。

アーティストから

同校の教育プログラムは、今年で３年目！先生方とも顔見知りとなり、私たちも、すっかりリラックスしての来校となりました。颯爽とした男性担任おふたりとも、とても熱心に協力してくださり、またまた、素晴らしいパフォーマンスにびっくりいたしました。スクラッチ・ラップ・輪唱・ハーモニー…、子供たちの柔らかい発想に感激し、未来を見据えたような美しい眼差しに感激いたしました。最後の先生方のパフォーマンスも、心から楽しめて、感謝の気持ちで胸が熱くなりました！

コーディネーターから

以前、アメージンググレースを歌ったことがあるということで、アレンジのアイデア出しや、発表に向けた練習にたくさん時間をとることができました。予想もしないようなアイデアがたくさん出て、とても活発な授業となりました。思い切って声を出す楽しさや喜びを感じ、仲間とともに作り上げていくすばらしさを実感できたのではないかと思います。最終日の発表後、先生を筆頭に、たくさんの子どもたちが達成感と学校プログラムが終わってしまう寂しさに泣き出してしまいました。号泣の子どもたちに囲まれた講師の先生も、達成感を感じたことと思います。

先生から

今回、子どもたちは「自分たちで自分たちだけのアメージンググレースを創る」という体験をさせてもらいました。本番も含め、計３日を費やして１つのものをみんなで創り上げたことが子どもたちの充実感、満足感につながったのだと思います。このプログラムは、やはり「実際にプロの方が来てくれる」ということが非常に大きな力をもつと思います。私たち教師がいくらその人たちの偉業を紹介し、その努力を語ったところで、本人のもつエネルギー、本物の歌声にはかないません。理屈ではなく、本物に直接ふれて心で感じたことが、本物に出会って抱いたあこがれや尊敬や感動が、子ども達を動かす原動力になっていくのだと思います。そして、子どもだけではなく私たち教師も、プロの生き方に強く心をゆさぶられました。本当にありがとうございました。

子どもたちから

みんなで協力できた／本物の歌声、歌手の人にご指導いただいて楽しく創り上げることができた／工夫して創り上げることができた／協力する大切さ／音楽の楽しさ／アメージンググレースの歌の意味、ゴスペルの楽しさ／ゴスペルの方と一緒に演奏できてとても楽しかった／みんなで創り上げていく楽しさ、大変さ、でき上がったときの充実感が味わえた

音楽

上郷小学校 + リリス
カノンを共演

担当アーティスト	高瀬真由子(ヴァイオリン)、須関裕子(ピアノ)、伊久希(チェロ)（リリス・レジデンス・アーティスト）
実施校	横浜市立上郷小学校（栄区）
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／クラシック音楽／5・6 学年、5 学級、150 人対象
実施日程	2010/11/30

授業のねらい

上質なクラシックの観賞プログラムを行う。高尚すぎず、子どもたちが参加できる工夫を希望。「美しさを味わう」という点に眼目を置き、プログラムのなかに共演する曲目を入れるのであれば、アーティストから「どうすれば美しく演奏できるか」などの一言レクチャーがあると良い。授業で取り組んだ歌、曲などをアーティストに演奏して欲しい。

授業の進行

（1）6 年生対象にカノンの演奏指導。（2）共演プログラムを含む音楽観賞。

アーティストから

先生の熱意がちょうど良く生徒に伝わっていて、無関心な感じがなかったので、やりやすかった。生徒たちののびのびとした雰囲気も良かった。昨年は同じトリオで、他校のアウトリーチを体育館で行ったが、今年は音楽室で一学年ずつ行えたのも距離感がちょうど良く、人数も遠巻きにならない人数で良かった。

コーディネーターから

クラシックのアウトリーチで伺うのは初めてでしたが、昨年伺っていたこともあり、進め方に関してはスムーズにいきました。内容に関して、先生の要望をアーティストがさらに発展させる形で内容を詰めていったので、どんどん濃密になっていき、事前訪問での演奏指導や、楽器演奏体験、共演プログラム等、盛りだくさんな内容になりました。6 年生とのカノンの共演は、事前指導の成果があり、とても素晴らしい演奏でした。

先生から

バイオリン、チェロ、ピアノの三重奏の方に、5年、6年の学年単位で授業をしていただきました。6年は「カノン」の共演をプログラムに取り入れ、事前に、バイオリン奏者の方にリコーダーをきいていただいて、アンサンブルの要点をわかりやすくご指導いただきました。その為、当日まで、「カノン」の練習を積む姿勢も盛り上がり、とても楽しみにしている様子でした。当日は非常にわかりやすい話し方で、楽器の特徴や曲の楽しみ方を教えていただき、5年生も6年生も集中し楽しんで聴くことができました。狭い音楽室で、目の前で、ドレスアップして、演奏している姿と、素晴らしい生演奏は、児童にとって、至福の時だったと思います。ありがとうございました。

子どもたちから

バイオリンなどを間近でみられた／演奏者が楽しそうに演奏していた／知らなかった曲をたくさんきけて好きになれたものもあった／相手の音をきくことで、きれいに演奏できることがわかってためになった／周りの音を聴き合うことで、指揮者がいなくても演奏できることがわかった／バイオリンなどの作りの秘密を知ることができた（歴史も）／共演で上郷小学校の校歌や冬げしきなどを、楽しく大きな声でうたうことができたので、よかったし、バイオリンとチェロが木でできていているのは知っていたけれど、表とうらでは木の種類がちがうということをはじめて知ってとてもびっくりしました。私は今日の体験で、バイオリンなどをやってみたいと思いました／曲にいろいろな思いがこもっていて、わくわくしながら聞くことができました。曲によって、テンポのはやいところやおそいところなどがあって、とてもきれいな曲ばかりでした。目の前でえんそうすると、CD よりとてもはく力があってびっくりしました。

音楽

千秀小学校 + リリス
みんなのまちのクラシック

担当アーティスト	新山久志(トロンボーン)、髙橋理恵(ピアノ)　（リリス・レジデンス・アーティスト）
実施校	横浜市立千秀小学校（栄区）
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／クラシック音楽／全学年、6 学級、200 人対象
実施日程	2010/12/15

授業のねらい

全校生徒が楽しむことができるものを希望。生徒たちがなんらかの形で参加でき、楽しめる工夫があると良い。昨年の体育館から音楽室へ場所を移動し、より身近で演奏を楽しめるようにする。校歌の合唱や共演プログラムなども組み込む。

授業の進行

共演プログラムを含む音楽観賞

アーティストから

校舎４階の音楽室での開催で、陽が燦々と差し込んできて、暑いくらいでした。高学年は反応良く聞いていてやりやすかったです。低学年は、ざわざわし出すと落ち着かせるのに時間がかかりました。解説や曲順を工夫するなどして、もう少し生徒に興味を持ってもらい、生徒の中に入っていくようにしたら良かったと思います。

コーディネーターから

昨年度体育館で実施した際に、アーティストから寒くて演奏するのに不向きとの指摘があり、今回は暖房がある音楽室での開催とした。寒さ対策については万全を期したが、暑くなることまで予測できず、終盤は生徒の集中力をそぐ原因となったように思う。昨年、開催したこともあり本番までの段取りはスムーズに進んだが、当日担当の先生が授業の関係で、演奏を見る事が出来なかったのは残念であった。

先生から

千秀小はクラシックの体験をさせていただきました。トロンボーンとピアノの演奏でしたが、音楽室で行ったため、演奏者と子ども達の距離が近く、その迫力に子ども達はびっくりしていました。選曲もよく、自分の知っている曲を見つけ、目を輝かせている子ども達も多くいました。又、自分で「この曲好きだなぁ」と感じることもでき、音楽のよさを充分に体験することができました。授業で週２時間の音楽の授業はありますが、生演奏をきいた影響は、とても大きいと思います。小規模校のため、今まで有料の団体は、負担が大きすぎて呼べませんでしたが、市の事業のおかげで、子ども達に良い体験をさせてあげることができました。ほんとうにありがとうございました。これからも続けてもらい、子ども達に良い体験をさせてあげられたらな…と願います！

子どもたちから

近くで聞いたトロンボーンの音色がひびいて迫力があった／知っている曲が多かったので、楽しかった／いっしょに歌えて楽しかった。とても好きになった曲があった／あまり聞いたことがなかったトロンボーンの音色を知り、深みのある迫力のある演奏を近くできけてよかった／とても好きな曲に出会うことができた／とても好きだと思える曲に出会え、ますます音楽が好きになった／こんな近くで演奏をきけてよかった。

音楽

いちょう小学校 + オフィスマキナ
声の魅力とその響き(3)

担当アーティスト	山口佳子（ソプラノ歌手）
実施校	横浜市立いちょう小学校（泉区）
コーディネート	株式会社オフィスマキナ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／声楽／全学年、9 学級、216 人対象
実施日程	2010/10/25

授業のねらい

間近で声楽の生演奏を聞き、その魅力と迫力を体験することを目的とします。子どもたちがよく知っている曲も演奏し、楽しく音楽が鑑賞できるようにします。また、聞くだけではなく講師から歌う「コツ」を教わって、からだを使って一緒に歌う時間を設けます。大きな声で歌うこと、恥ずかしがらずに表現するきっかけを作ることが目標です。

授業の進行

声楽コンサート(１～３年、４～６年)、簡単な発声練習も含む。

アーティストから

子どもたちはとても素直に、真剣に聞いてくれました。１～３年生は、からだをいっぱいに動かして元気に歌い、４～６年生はやさしいきれいな声で歌っていました。質問コーナーでは積極的に手が挙がり、子どもならではの面白い質問に驚かされました。ただ、２時間目からの公演は、準備の時間が少なくなってしまい、スケジュール的に少し難しいように思いました。

コーディネーターから

低学年も、高学年もよく集中して聴いてくれました。講師をじっと見つめる視線が印象に残りました。簡単な発声練習を行ったときは、講師の言葉のひとつひとつに反応して、素直な伸びやかな声で歌っていました。低学年の鑑賞行事でも、上手に誘導できれば「体験」を少し取り入れることができると感じました。「先生は何人（なにじん）ですか？」という問いには一瞬びっくりしましたが、この学校ならではの質問だなと思いました。

先生から

「オペラ」という音楽に初めて、子どもたちが触れ、歌詞はよく分からなくても、山口さんの歌声や表情、演技から雰囲気を楽しむことができたようだ。また、歌の始まる前に、曲や歌詞について分かりやすく解説していただいたことも、子どもたちの理解に役に立っていた。山口さんのすばらしい歌声で子どもたちの表情が変わっていくのを感じた。また、プロの方々も日々の努力を忘れず、美しい声を出すために、基礎練習を大切にしていることを子どもたちに伝えてくれた。今回のように夢をかなえた方をぜひ学校に派遣する事業を続けて欲しい。

子どもたちから

高い声があんなに出る方を生で見る（聴く）ことができたのがよかった／声の出し方がよくわかった／とても迫力のある歌声だった／声がとてもひびいていた／初めてオペラにふれることができた／山口さんといっしょに歌えたから良かった／息の吸い方や声の出し方がわかった／自分もきれいな歌声を出したいと思った／外国にはいろいろなオペラがあることがわかった／「オペラ」に初めて触れることができた／歌がとても上手だった（１～６年）／山口さんといっしょに歌えて楽しかった（１～６年）／ピアノもチェロも上手だったし、きれいな音だった。（１～４年）／もっとオペラを聴きたいと思った（２年）／山口さんのようなきれいな声で歌いたいと思った（２年）／歌声がひびいていて感動した（２、４、６年）／いろいろな音域が出せるのですごいなと思った（４、６年）／マイクがないのにとても大きな声だったので驚いた（６年）／歌っているときの山口さんの表情がとてもよかった（５年）

音楽

中和田南小学校 ＋ テアトルフォンテ
打楽器であそぼ！音とリズムの楽しさ

担当アーティスト	篠田浩美、大家一将（パーカッショニスト）
実施校	横浜市立中和田南小学校（泉区）
コーディネート	泉区民文化センター　テアトルフォンテ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／打楽器／3 学年、2 学級、45 人対象
実施日程	2010 年 10 月 26 日、11 月 9 日

授業のねらい

目標：音楽を通した自己表現の楽しさを味わえるように／本プログラムでは、音楽室にある、でもあまり触れたことのないような楽器で、身近な音と楽しむような活動をします。子どもたちが身の回りの音の楽しさに気づき、その音からいろいろなことを想像して身体表現できるようになること。また、軽快なリズムをまねしたり、続きを考えたりと、自己表現できることを目標にします。参加学年の子どもたちは新たなことに挑戦することをとても好み、張り切ってやるので、音楽を通した表現活動によって、自分らしさを発揮できると期待できます。

授業の進行

（１日目）音楽室の打楽器を使ってグループで音のストーリーを作り、発表しよう！（２日目）コトバ（ボイス アンサンブル）やカラダ（ボディ パーカッション）など身近なもので音楽ができる！

アーティストから

音楽は、人生を語る上では欠かせないものです。人は、常に“音”を発しています。それは言葉であったり、動作であったり。その、日常で発している、あるいは、耳に入ってくる音は、感じ方一つで音“楽”となりえます。今回のワークショップでは、親しみやすい打楽器を使って実際に音のイメージや印象からストーリーを組み立てて作曲をしたり、自分自身の声や体のみを使って曲を演奏したり。普段聞き流している身近な何気ない音そのものが、音楽になるのだということを知った子どもたちは、驚きの声と共に、とても生き生きとした芸術作品を私たちにプレゼントしてくれました。

コーディネーターから

ほどよく柔軟な時期の子どもたちだからか、進行役が鳴らすギロの音からどんなイメージが膨らむかを尋ねると「カエルの鳴き声」と答えるなど、「（言われてみると）まさにそれ！」というような着想がポンポン飛び出すことに感心しました。二人の即興によるボディ パーカッション実演は、一瞬でその場の全員を惹きつける力を発揮。やっていることは自分たちと同じでも、高度に展開するとこんなに魅力的になるのだと、実感を持って体験してもらえたように思います。

先生から

いつもの授業では、年間のカリキュラムや音楽会の発表の練習など、「しなければならないこと」がまずあって、授業をしています。しかし、今回は授業がとても楽しくて、子どもたちが心から喜んで動いている姿を見て、時には教科書をはなれてのワークショップ等があると子どものためになるのだと感じました。子どもは、ワークショップが終わって何日かたっても、その時教えてもらったことばを楽しそうに口ずさんでいます。

子どもたちから

楽器をつかわないでおとがでた／ことばだけで歌になるとおもわなかった／体で音がなった／体をたたくといろいろな音がでるとおもわなかった／体のしくみがわかった

音楽

荏子田小学校 + 横浜市芸術文化振興財団
音楽と心(2)

担当アーティスト	森美紀子（ジャズシンガー）
実施校	横浜市立荏子田小学校（青葉区）
コーディネート	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ジャズ／4 学年、3 学級、101 人対象
実施日程	2011 年 1 月 14 日、1 月 18 日、1 月 20 日

授業のねらい

音楽の楽しさ、命の大切さをジャズ・ソングのワークショップを通じて伝える。本学年は、表現・主張することを好み、多様性も尊重できるが、協力が少し苦手であることから、個の魅力の大切さ、全の調和の大切さ、双方に気づけるプログラムを行う。

授業の進行

（１日目）アーティスト演奏、課題曲へ取組、曲を体になじませる。（２日目）課題曲の背景のお話、各組ごとの演出を子どもたちと決める、指揮者の選出。（３日目）リハーサル、本番、アーティスト演奏。

コーディネーターから

毎年、同じ学校、テーマで実施している事業ですが、アーティスト、学校双方に常に新鮮な思いで実施されています。回を重ねるに応じて、子どもたちが音楽により親しんでいくことが感じられました。最後の発表会で、子どもたちが、それぞれの組の演出への感想を積極的に発言しているのが印象的でした。

先生から

最後の発表会が、本物のコンサートのようだった。子どもたちが参加しているので、堅苦しいものではなく、雰囲気もすばらしかった。課題曲の「Amazing Grace」も４年生の教材として合っていた。差別、平和などの曲に込められている想いや森先生の願い、想いも子どもたちに伝わっていたようだった。発表会があるから、子どもたちがやる気になり、自分から取り組んでいた。２-(1)が３について、学校側に問題があった。

子どもたちから

先生がとても優しく、しっかり教えてくれた。色々なリズムを知ることができた／歌が上手になった。みんな心が一つになった／音楽がもともと嫌い、ずっと同じ歌、恥ずかしいことをさせられた、むずかしかった／声がきれいになった。色々なリズムがわかった。人を差別、区別しないようにする気もちになった。元気になることができた。戦争をしてはいけない／特になかった。いつも同じことをやっているから／楽しかった。またやりたい。自分たちの発表ができてよかった。

音楽

桂小学校 + ST スポット横浜
うたをつくろう

担当アーティスト	即興からめーる団（音楽ユニット）
実施校	横浜市立桂小学校（青葉区）
コーディネート	特定非営利活動法人 ST スポット横浜
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／音楽／4 学年、3 学級、81 人対象
実施日程	2010 年 10 月 15 日、10 月 25 日、11 月 12 日

授業のねらい

楽器に触れながら音を楽しみ、お互いの表現を大切に思えるような体験。

授業の進行

（１日目）うたを使った遊びなどでウォームアップ。（２日目）各クラスでうたづくり。（３日目）合同で練習。発表。

アーティストから

桂小学校２年生とのうた作りは、奔放なアイディアがさらに新たなアイディアを呼び、うたの世界が風船のようにどんどん膨らんでいく過程でした。２クラスのうた作りを別々に並行して行うことで、それぞれの特性を生かした対照的なパフォーマンスを作ることができたと思います。３回のワークショップの最後には、即興からめーる団の介入なしで、うたを自分たちで練習して、自分たちだけで演奏することができるようになっていて、一緒に作りだしたうたが、彼らのものになっていく過程を見届けることができ、嬉しく思います。ありがとうございました。

先生から

とても有意義な３日間の授業となりました。子どもとアーティストお二人との出会いの１時間での音あそび（体を動かして歌う）がとても良かったです。この導入で、お二人に対して、子どもたちがかまえることなく、普段の雰囲気で曲づくりに取り組むことができました。ユニークな歌詞や様々な動きなど自分の提案したことがみんなのものとなり、とても楽しかったようです。これからも各クラスで時間をみつけて歌うことで、この曲への想いをふくらまで、忘れられない１曲となるよう指導していきたいと思っています。どうもありがとうございました。

子どもたちから

おどっていると勇気がわく／ふりつけを考えるのが楽しかった／歌詞を考えたのが楽しかった／自分たちで歌ができた／いろんな工夫をみんなで出せた／自分たちだけの歌ができた／みんなで歌った／この機会にしかできないことをやった／いろいろなリズムや動きがあった／自分がイメージしたものとは全然違った／いろいろな歌ができてよかった／「さんまおやじ」がおもしろかった／楽しい曲ができた／自分たちだけの歌をつくれたのがうれしかった／みんなで歌をつくったのが楽しかった。もともと音楽が好き／絵やおどりをお母さんにみてもらった。／自分たちでうたをつくるということ／みんなと心を合わせた／考える力／自分の考えを出せた／みんなでこんなおもしろい歌がつくれるんだ／経験／クラスの心をひとつにする／歌や演奏をするときに誰のために歌うか、歌のイメージを考えながら歌おうと思った／色々な歌を聴かせてくれてよかった／いろいろと考えながら作った／おもしろくてもっとつくろうと思った／考える勉強になった／歌の作り方がわかった／音楽でまた一つ知っている曲ができた／歌をつくるのが楽しかった／みんなで練習して楽しかった／題名がよかった／さんまをやく歌がおもしろかった／「海の中～」というところがおもしろかった／歌が気に入った／先生のピアニカがよかった／自分たちのクラスだけのうたを作れたし、歌だけじゃなく、絵などで表現できて嬉しかったし、楽しかった／友だちと作曲できて楽しかった／お母さんに歌をきいてもらえたのが思い出になった／じょうずにできてよかった。

音楽

川和小学校 + 子どもに音楽を チェロ体験

担当アーティスト	古川展生（チェロ）、小森谷裕子（ピアノ）
実施校	横浜市立川和小学校（都筑区）
コーディネート	特定非営利活動法人子どもに音楽を
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／クラシック音楽／5 学年、2 学級、75 人対象
実施日程	2010/10/27

授業のねらい

アーティストに間近に接し、お話を伺ったり演奏を聞いたりすることで、本物の芸術に触れる体験を行なう、という学校側の意図を汲み、一方的な演奏会というのではなく演奏家自身のお話を交えてのコンサートにしたい。当初、4，5，6 年で行う予定だったが、身近で聴いて欲しい、今後も希望であれば続けることは出来る等、お話した結果、5 年生を対象に行うことができた。

アーティストから

すぐ近くに子供たちがいるので、反応が良く分かり楽しかったです。難しいバッハの曲も静かに聴いてくれました。いつも子供たちの前では、特に一生懸命に演奏しなければ・・・と思っています。そんな思いも含め子供たちにはこちらの気持ち、音楽は伝わった様に感じました。

コーディネーターから

校長先生を始め、担当の先生もよく理解してくださって、打ち合わせの時点から気持ちよく活動に取り込むことが出来ました。「時間が許すならもう 1 学年、児童に聴かせたかった。」という先生の感想がありましたが、今後もその辺の調整はケース・バイ・ケースで細やかにやって行きたいと思っています。

先生から

音楽室とはいえど、響きにくい教室でしたが、古川さんには本当に心よく演奏して頂きました。あんなに間近で本物の音色を聴けたこと、子ども達は本当に感動したようでした。CD などでは絶対に体験できない、体に響いてくる音は、子どもの心に残ったことでしょう。教室で少ない人数での実施だったからこそだと思います。個人的には全学年にも同じ環境で聴かせてあげたいと思いますが、演奏者の方の負担を考えると難しいかもしれません。例えば年３回ぐらい半分の学年で経験できるようなプログラムになると嬉しいです。（１、３、５年など）

音楽

野庭中学校 ＋ 横浜音楽協会
フルート体験

担当アーティスト	田部元太（フルート）
実施校	横浜市立野庭中学校（港南区）
コーディネート	特定非営利活動法人横浜音楽協会
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／クラシック音楽／1 学年、3 学級、110 人対象
実施日程	2011/01/11

授業のねらい

総合学習の範囲で､生活の中に音楽をどのように取り入れるか。個人の感性にまかせて自分の音楽観を確立できれば目標達成としたい。

授業の進行

総合学習「音楽教室」

アーティストから

全員が熱心に鑑賞してくれた。フルートのひびきを理解しようと理解していただいた。アンコールに AKB48「あいたかった」は大いにうけた。生徒たちの感覚や音楽性は、今後の音楽活動のあり方に参考となった。

コーディネーターから

音楽科主催の音楽鑑賞教室ではなく、総合教育扱いの「音楽教室」であり、当協会も初めての取り組みである。音楽科の目標と若干異なるが、教育全般の中の目標としてとらえれば、生涯学習という意味で良かった。

先生から

大学生、男性２人組というのが生徒たちに初々しさが伝わり良かった。曲の紹介の話なども慣れた感じではなく大学生のお兄さんが緊張しながら生徒に語りかける様子が、使徒には身近な存在にうつり音楽を誰でも楽しむものだという思いを強く印象づけたと思う。クラシックの他に歌謡曲や有名な映画音楽といった選曲も、生徒の興味・関心を高め、皆くい入るように鑑賞していました。

子どもたちから

目をつぶって想像するのもたのしいですが、吹いている時の手のうごきもすごかった／楽しかったというかすごい！聞けてよかった／色々な曲が聴けた／技がすごかった／フルートとピアノのキレイな演奏を聞けた／別にこの授業でためになることはない。ただほんとにすごかった／音楽の授業でフルートはない／フルートの指がすごくはやく動いていてすごかった／このような経験をいかし、部活に取りくんで行きたいです／すごく迫力があった

音楽

盲特別支援学校 + ST スポット横浜
リズムをかんじる、おどる

担当アーティスト	スズキキヨシ（音楽家）
実施校	横浜市立盲特別支援学校（神奈川区）
コーディネート	特定非営利活動法人 ST スポット横浜
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／音遊び／幼～高学年、全学級、70 人対象
実施日程	2011/01/27

授業のねらい

密な関係性を築くとともに全体の流れの中に身をおく内容を組み合わせて、音楽を体験する。

アーティストから

幼稚部から高校生まで、全盲の方から弱視の方まで。視覚にハンディキャップがある方たちの、音の感じ方、響きへの反応、体の動かし方。音に対して耳を傾けている空気感は、視覚に頼ってしまう私たちの体の反応とは全く異なるものでした。だからこそ、私達の出す声や音に合わせて、楽しそうに歌ったり、手をたたいたり、楽器でリズムを取ってくれたりする反応がとても貴重なことに思えて、嬉しくてたまりませんでした。今回関わってくれた、ダンサー、シンガー、アーティストの仲間も、このライブから多くのことを学んだ様子。帰りの道でもそんな話で盛り上がりました。

コーディネーターから

盲学校と一口にいっても、視覚障害だけを持っている子どもたちが集まっているわけではない。なるべく思い込みを排して、アーティストが最高のかたちで演奏ができるよう、つまり学校の一教室をライブハウスにきちんと変えられるよう、アーティストサイドと半年あまり、断続的に打合せを続けた。その間に、キヨシさんが創作した楽器「鼻笛」を購入するため、学校の先生方が彼のライブに足を運ぶ機会を持つなど、ワンチャンスを活かすための工夫をそれぞれが続けていった。当日は、アーティストが声をかけるごとに場がほぐれ、踊りだす子どもと先生、そして音楽家たちの姿であふれた。一時間の特設ライブハウスは、たしかに現出した。

先生から

幼稚部から高等部まで、しかも障害も様々で、活動内容については、本当に悩ませてしまったのではと思っています。けれど、基本的に音には大変興味のある子ども達ですのでどんな形でも、それぞれに楽しみ方を見つけて参加しているなあと感じました。いつも聴いたことのない音が、当日はたくさんあったので、ドキドキした子もしましたが、じっくり様子をうかがって、ん？！おもしろい！やってみたい！という心の動きが見られました。欲を言えば２点、やはりはっきりとした見通しがないと活動に参加しにくい子には、１曲でも曲名がわかっているとありがたいです。あとは、最初からみんなで音を鳴らす感じになって楽しみたかったです。ぜひ、また１つ１つの楽器の音をじっくり味わわせていただければ幸いです。本当に楽しいひとときをありがとうございました。

音楽

中村特別支援学校 + ST スポット横浜
いちにちのおんがく

担当アーティスト	片岡祐介（打楽器奏者、作曲家）
実施校	横浜市立中村特別支援学校（南区）
コーディネート	特定非営利活動法人 ST スポット横浜
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／音楽／小中高学年、学級、75 人対象
実施日程	2010 年 9 月 2 日、12 月 16 日、1 月 11 日、1 月 12 日、1 月 31 日、2 月 1 日、2 月 10 日

授業のねらい

アーティストと子どもたちそして先生が、様々な音楽へのアプローチを行う。学部ごとの取組のなかでは、密接なやりとりを行う。また、うたをリレーしながらつくることで、学校で一つの音楽を作りあげていく。全校の取組では、人数が集まることでの厚みのある音楽を体験する。文部科学省「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験事業」と連携して実施。

授業の進行

（1日目）アーティストと子どもたちが出会う。（2、3日目）やりとりをしてみる。（4、5、6日目）音をかさねてみる。（7日目）全員で一緒に音楽をつくる。

コーディネーターから

重度重複障害があるこどもたちとの取組は、私たちにとってもチャレンジでした。なかなか自分の力だけで音を出したり、うたを歌うことが難しいこどもたち。しかしながら、もちろん学校に通い、授業を受けて、生活をしているこどもたちと音楽を通してどんな関わり合いができるか考え、実践し続けた時間になりました。アーティスト、こどもたち、先生が一体となっての活動の中では、中村特別支援学校の一日のうたも生まれ、音楽をより身近なものとして感じてもらう時間となりました。

音楽

北綱島特別支援学校 + ART LAB OVA
心臓の音を聴く、心臓音であそぶ

担当アーティスト	村井啓哲（アーティスト）
実施校	横浜市立北綱島特別支援学校（港北区）
コーディネート	ART LAB OVA
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／音楽／小中高学年、学級、75 人対象
実施日程	2010 年 11 月 19 日、11 月 22 日

授業のねらい

この学校の対象児童・生徒が、重度心身障害児たちなので、「学校や家庭だけでは、なかなか経験できないことを体験させたい」というのが、学校側からの意向であった。実際に何度か学校に通ってジャズコンサートや授業風景などを見学し、先生たちが、児童生徒のために、体験を創造する様子を拝見した。その上で、劇場用の巨大スピーカーを利用したり、サウンドアーティストを起用することで、ふだんの授業では実現しにくいであろうことを体現した。

授業の進行

自分や友人たちの心臓の音を聴き、そのリズムに合わせてあそぶ。

アーティストから

今回は児童・生徒の皆さん全員の心拍音を大増幅して聴いてみようという、極めてシンプルなアイデアだったのですが、実際に聴き較べるとそれぞれ明確な個性があったこと、また窓が震えるような大音響なのに攻撃的な感じがしないことにも驚きました。こちらが授業をしたというよりは、むしろ児童・生徒の皆さんから授業を受けたような気がします。貴重な体験をありがとうございました。楽しかったです。

コーディネーターから

今回のような重度心身障害児対象の場合、こどもとほぼ同数の先生がいて、生徒の言葉も先生が代わりに声色を使って話すような特殊な環境にある。当初は、「先生に理解してもらえないのではないか」という不安も大きかったが、想像以上に、こどもたちの反応もよく、先生たちの評判もよかった。関わる先生の人数が多い分、担当の先生の負担も大きくなってしまう。今回の場合、特に、こちらの都合で、メールでのやりとりを強いてしまったので、やりにくかった部分も多かったと思うが、とても好意的に、そして真摯に対応していただけたので、本当に助かりました。

先生から

今回は音楽ワークショップの形で「心音を聞く」というテーマで児童・生徒達の心音（心臓の音）を、低音が響くスピーカーやウーハーで聞いたり振動を感じたりする内容で行いました。実施時は、生徒達の心が動かされたのでは、と感じました。大がかりで学校ではなかなか見ることのできない機器を使った授業は、大変参考になりました。今後の私達の授業にも生かして生きたいと考えます。全般的に良かったので欲を言えばでの話です。今回、学校プログラムを初めて行ったので、コーディネーターさんとの連絡や打ち合わせをもう一週間早く行えたら、よりスムーズに取り組めたと感じました。

音楽

星川小学校 ＋ 横浜シティオペラ
オペラへの好奇心（1）

担当アーティスト	加藤千春、竹村淳、榊原紀保子　（ＮＰＯ法人横浜シティオペラ会員）
実施校	横浜市立星川小学校（保土ケ谷区）
コーディネート	特定非営利活動法人横浜シティオペラ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／オペラ／全学年、350 人対象
実施日程	2010/12/16

授業のねらい

日本語で判りやすいものをということで、少人数で上演できる『電話』を取り上げました。

アーティストから

メインのメノッティの『電話』訳詩上演前にモーツァルトの『魔笛』からパパゲーノ登場のアリア「おれは鳥刺し」とデュエット「パパパ」を抜粋して訳詩で紹介しました。また『電話』に関してはオリジナルにはないセリフを入れて小学生にわかりやすく工夫しました。やはり慣れていないと言葉を聴き取る難しさもあるので、セリフを入れたことで、生徒さんたちの理解がかなり深まったように思いました。

コーディネーターから

小学生の皆さんに判りやすいよう、ピアニストからのピアノに関する説明を入れたのは、普段からピアノを習っている子供たちも大勢いることもあり興味深く受け止められたように思いました。オペラの短さも子供たちの集中力がちょうど保てる長さで良かったと思います。設定が現代なので、童話などと異なり、どう受け入れられるか心配でしたが、アーティスト３人、スタッフ１人だけのエコなプロダクションで、可能な限りの工夫（セリフの付け加え、ピアニストによるナレーション、電話のベル音や効果音など）を行い、飽きさせないものとなったように思います。

音楽

港南台第三小学校 + 横浜シティオペラ
オペラへの好奇心(2)

担当アーティスト	嶋村友美、山本ひでこ、君島広昭、浅野美帆子、千葉咲子　（ＮＰＯ法人横浜シティオペラ会員）
実施校	横浜市立港南台第三小学校（港南区）
コーディネート	特定非営利活動法人横浜シティオペラ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／オペラ／全学年、12 学級、320 人対象
実施日程	2011/02/05

授業のねらい

マイクを使用しない生の声の演奏を聴いてもらい、歌で芝居や簡単な踊りも入るよく知られた話『ヘンゼルとグレーテル』のオペラを鑑賞する。

アーティストから

今回の出演者の中に地元出身のアーティストがいたので、親しみを感じつつ演奏できた。鑑賞態度も良く、子どもらしい反応がほほえましかった。

コーディネーターから

なかなか生の声での演奏を聴く機会が無いと思うので、体育館ではあるが､その響きを感じとってくれたのではないかと思う。これからもこのような活動を続けて行きたいと思う。

先生から

本校の特色ある行事として位置づけられている「わくわくチャレンジデー」の午後のプログラムとして実施いたしました。午前は児童それぞれが選んだプログラムで地域の人とふれあいながら体験を通して学ぶ学習なのですが、午後は全校（３２３名）が体育館に集まり、横浜シティオペラさんに「ヘンゼルとグレーテル」のオペラを鑑賞教室という形で実施していただきました。短い時間でしたが、一番の見せ場の部分を楽しく演奏していただきました。解説も質問のお答えもとてもわかりやすいお話で、子どもたちはもちろん教職員もとても充実した時間を過ごすことができました。オペラなど初めて見るという児童がほとんどでしたので目を輝かせて見ていました。体育館は音響的にも環境的にも､準備やセッテイングはことのほか大変ですし、演劇もやりにくかったことと思いますが、熱演していただきありがたかったです。子どもたちもまた見たいなあという感想を寄せてくれました。来年度も是非、このような間近で見られる芸術鑑賞会を実施することができたらいいなと願っています

音楽

いずみ野小学校 ＋ 横浜シティオペラ
オペラへの好奇心(3)

担当アーティスト	嶋村友美、山本ひでこ、君島広昭、浅野美帆子、千葉咲子　（ＮＰＯ法人横浜シティオペラ会員）
実施校	横浜市立いずみ野小学校（泉区）
コーディネート	特定非営利活動法人横浜シティオペラ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／オペラ／全学年、385 人対象
実施日程	2010/11/18

授業のねらい

マイクを使用しない生の声の演奏を聴いてもらい、歌で芝居や簡単な踊りも入るよく知られた話『ヘンゼルとグレーテル』のオペラを鑑賞する。

アーティストから

素直に反応してくれ、熱心に聞いてくれた。オペラに対して興味を持ってくれたと思う。

コーディネーターから

生徒達と一緒にその月の合唱曲を歌うなど学校側との交流が嬉しかった。また後日、感想文を頂くことができ、今後の演奏の励みにもなった。

先生から

オペラというものに初めて接して児童はみんな、きれいな歌声と声量におどろいていた。また公演当日まで「たからじま」という曲を練習して当日オペラの人たちと合唱した事はとてもいい思い出となった。また、ひびきあう歌声に感動していた。とてもいい出会いを与えていただいて感謝しています。

演劇

神大寺小学校 + かなっくホール
演劇のコミュニケーション

担当アーティスト	椎原克知（文学座・俳優）、佐川和正（文学座・俳優）
実施校	横浜市立神大寺小学校（神奈川区）
コーディネート	神奈川区民文化センター　かなっくホール
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／コミュニケーション・ワークショップ／4 学年、5 学級、165 人対象
実施日程	2010 年 11 月 4 日、11 月 5 日

授業のねらい

体験型の授業を通して、自分の思いを表現すること、そして友だちの表現をしっかりみるなど、コミュニケーション能力の向上を図り、また神大寺小学校の方針である“心を育てる”を目標とします。

授業の進行

（1 日目）1〜2 限／5 組、3〜4 限／3 組、5〜6 限／1 組：「ウォーキング（体の部位をつけあう、人文字をつくる、好きなもの同士集まる、決められた人数で集まる）※ほぐす」、「何やっているの？※発想力を鍛える」「どういう時の言葉でしょう？※伝える力・受け取る力を養う」「演劇イスとりゲーム※ポジショニング」等、クラスごとに多少のアレンジあり。（2 日目）1〜2 限／4 組、3〜4 限／2 組：「ウォーキング（体の部位をつけあう、人文字をつくる、好きなもの同士集まる、決められた人数で集まる）※ほぐす」、「何やっているの？※発想力を鍛える」「どういう時の言葉でしょう？※伝える力・受け取る力を養う」「演劇イスとりゲーム※ポジショニング」等、クラスごとに多少のアレンジあり。

アーティストから

今回はクラスによってカラーが全く異なっていたため、そのクラスにあったプログラムをするようにした。外れている子どもが途中からでも入れる空気を作るのもファシリテーターの仕事なので、そういう子をどう巻き込んでいくのかについて改めて検証していこうと思った。常に、教えるというよりコミュニケーションの方法論のひとつをお知らせするという立場でいるので、毎回自分自身がとても勉強になる。

コーディネーターから

担当の先生だけが熱心な学校もある中、今回の神大寺小学校は校長先生をはじめ、他の先生方にもやる気をもって取り組んでいただけた。打ち合わせもスムーズで特に問題もなく、当日に保護者の方々にご参加いただけたことも非常に有意義だった。当日もアーティストが児童の様子を見ながらプログラムをアレンジしてくださり、そのクラスにあった内容でワークショップを展開できた。派手な成果が見えるワークショップではないが、各児童や先生が色々なことを体感していただけたら嬉しい。

先生から

はじめは、ワークショップがどんな様子になるか想像もできず、正直言って不安もありましたが、実際にやってみると子どもたちは大はしゃぎで、大いに満足のいく活動になりました。特に、アーティストや助手の方が、ワークショップだけでなく給食の時間にも、子どもたちにとても親しげに接してくださったのが印象に残っています。また担任にとっては、クラスの子どもたちの人間関係をつかむ手がかりにもなりました。本当にどうもありがとうございました。

子どもたちから

いろいろな遊びがあって楽しかった／体を使った遊びがおもしろかった／ふだんあまりふれ合わない友達とも仲良く遊べた／友達関係が深まった／頭をよく使った／知っている遊びが増えた／相手によくわかるように伝えられるようになった／いすとりゲームや拍手する遊び、「何やってんの」ゲームなどが楽しかった／他の人にこの活動を広めたい／コミュニケーションの大切さみんなが仲よくすることの大切さがわかった

演劇

中丸小学校 ＋ 芸術家と子どもたち
オリジナル演劇をつくろう

担当アーティスト	今井尋也（マルチパフォーマンスアーティスト）
実施校	横浜市立中丸小学校（神奈川区）
コーディネート	特定非営利活動法人芸術家と子どもたち
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／パフォーマンス／4 学年、2 学級、68 人対象
実施日程	2011 年 1 月 31 日、2 月 3 日、2 月 21 日

授業のねらい

2 月 25 日の 10 歳を祝う会に向けた取り組み。アーティストとの協働作業をとおして、自分をオープンにする楽しさ、心の開放、表現を自分で生み出す切っ掛けづくりを行うとともに、発表に向けた過程､挑戦などの軌跡を保護者に伝えることが目的。具体的な内容としては中丸小学校の愛唱歌である「千人兄弟」をアレンジして歌い、地域に根ざした民話などをもとにオリジナルな演劇を作る。

授業の進行

（1 日目）目を閉じたまま歩いたり、逆さ言葉を習ったり、普段の生活をは異なった非日常を体験。（2 日目）自分たちのお店（物ではない）を出す、今までの幸せな思い出と後悔したことを皆の前で話す等、対話と実践を通して舞台の構想を練って行く。（3 日目）身体で前回の話を物語りとして表現するＷＳを行う。また、オリジナルの歌「逆さまの歌」を練習する。

コーディネーターから

「演劇とは常識を疑うこと」というアーティストの言葉通り、ＷＳでは毎回新鮮な試みを行っていた。アーティストは都度、子どもたちから感想を聞き出し、反応を見ながら丁寧に授業を進めていた。4 年生には高度だと思われるようなテーマ（「進化論」等）などの話が出てきても目を輝かせて様々な発言をし、アーティストがつくった詩に曲をつけるという難しい課題にも、積極的に取り組み、オリジナルの演劇を創造するという過程を子どもたちが非常に楽しんでいるようだった。本番では生徒一人一人が主人公という設定であったゆえ、先生や保護者たちもとても満足している様子だった。

先生から

「10 才を祝う会」に向けて、御指導頂きました。皆でつくりあげていくという先生の御考えのもと、どの様に活動が進められてつくりあげられていくのか、毎回楽しみでした。そこには、これまで子ども達が、出会ったことのない世界が待っていました。もちろん私たち担任もです。自分をうまく表現することが苦手な子ども達ですが、この機会を頂いたことでより成長していってくれるのではと思っています。今井先生はじめ芸術家と子どもたちの方々に厚く御礼申し上げます。

子どもたちから

物を使わなくても楽しむことができた／いろいろな人達と楽しく活動できた

演劇

坂本小学校 + Media Global
パペットをつくる、演じる(1)

担当アーティスト	中村信子（人形劇俳優・美術家）
実施校	横浜市立坂本小学校（保土ケ谷区）
コーディネート	企業組合Ｍｅｄｉａ　Ｇｌｏｂａｌ
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／パペット／3 学年、3 学級、115 人対象
実施日程	2010 年 10 月 20 日、10 月 21 日、10 月 27 日

授業のねらい

製作したパペットを通して子どもたちの創造力・表現力・コミュニケーション力の向上を目標とする。練習の成果は 11 月の学習発表会で保護者へ公開する。文化庁「子どものための優れた舞台芸術体験事業・派遣事業」と連携して実施。

授業の進行

（１日目）パペット人形制作。（２日目）パペット操演①　講師と一人ずつ会話形式で表現する。（３日目）パペット操演②　発表会へ向けグループ別テーマに沿って表現する。

アーティストから

継続校なので、このプログラムを経験した他学年の子どもたちと再会する機会があります。自分のパペットをまだ大切にしているという声を聞いてうれしく思いました。毎年子どもたち一人ずつと会話する操演は、子どもたちの思いがけぬ表現があり講師としても楽しみな取り組です。

コーディネーターから

今年度は時間割の都合で変則的な組み合わせで実施しました。過去最高児童数で１回２時間が足りないくらいでした。継続校でもあり先生方も意欲的に取りくんでいただけて大変感謝しています。パペットを全校行事や他教科へ取り入れた活用が広がりそうです。

先生から

子どもたちがとても楽しみながら行うことができました。材料はすべて色ごとに(クラスごとに)分けていただいていたので、準備に手がかからず、大変助かりました。普段消極的な子どもも、とても意欲的に取り組む姿を見ることができたので、本当によかったです。１クラスの人数が約 40 名と、とても多いので、もう少し回数が多いと更によかったと思います。お忙しい中、本当にありがとうございました。

子どもたちから

自己紹介や劇が楽しかった／自分のオリジナルのパペットを作れた／先生の劇がすごい！！／先生が優しく教えてくれた／かわいいパペットができた／いろいろな動かし方ができた／友だちと仲よくなれた／自分たちの劇を作る時の参考になった／人を楽しませるのが楽しいと知った／人形の動かし方が分かった／パペットにも心がふきこまれることを知った／本当に本当にとても楽しかった／もっとやりたかった／パペットを家にかざって思い出にしたい／また教えて下さい／先生のパペットとお話できてよかった

演劇

高田小学校 + 横浜こどものひろば
手影絵を体験しよう

担当アーティスト	市瀬愛香（劇団かかし座　座員）
実施校	横浜市立高田小学校（港北区）
コーディネート	特定非営利活動法人横浜こどものひろば
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／手影絵／4 学年、3 学級、90 人対象
実施日程	2010 年 10 月 15 日、10 月 20 日、11 月 1 日

授業のねらい

こんな表現の仕方があるのか、という新鮮な発見につながる出会いを目指し、どの子も楽しめる機会とする。

授業の進行

（１日目）手影絵のプレイを観る、影の特性を体験する、手影絵にチャレンジする。（２日目）１人でつくるタイプ、２人でつくるタイプの手影絵をやってみる。（３日目）新しい手影絵の習得、プロの技を伝授、３回のワークショップのまとめ。

アーティストから

今回の手影絵の授業で、私が強く印象に残ったのは、子どもたちの好奇心の強さです。子どもたちは、口々につくってみたい動物の手の組み方を尋ね、私の説明を目と耳を大きくして聞いてくれました。多くの子が、自分の手を私に見せては、「これでいいの？」と何度も確認していました。子どもたちの「知りたい！」という強い気持ち。そういう気持ちで臨んでくれる相手に教えられる喜びを、心から感じました。この授業によって、私の影絵への関わり方が広がったように思っています。

コーディネーターから

取組まれる学校のねらいが明確であったことと、アーティストも３日間の授業内容を１回毎に明らかにして取り組まれたことで、目標の定まった授業となった。子どもたちは１回目に影と光の性質をクイズ形式で楽しみながら学び、手影絵はまだまだ見よう見まねの状態であったが、さすがに３回目になると、スクリーンに映った手影絵を見て、どう指を使えばいいのか、指と指をどう重ねたらいいのか、想像しながらすぐに自分で手影絵を作ってみようとする積極的な姿が見られ、また教え合う姿なども印象に残るワークショップであった。

演劇

深谷小学校 + アートの時間
大根の演劇

担当アーティスト	柏木陽（俳優・演出家）
実施校	横浜市立深谷小学校（戸塚区）
コーディネート	アートの時間
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／身体表現／3 学年、2 学級、44 人対象
実施日程	2010 年 11 月 11 日、11 月 18 日、11 月 25 日

授業のねらい

文化庁「子どものための優れた舞台芸術体験事業・派遣事業」と連携して実施。

授業の進行

（１日目）だるまさんがころんだを通して、演劇ワークショップのルールを伝える。（２日目）身体を使って物の『形』を作る。（３日目）大根を育てた行程を身体で表現する。

アーティストから

今回は、大根の収穫までの１０シーンを全部通すところまでいかず、授業が終了しました。子ども達をはじめ関係者全員がそれぞれの思いを残しました。が、私は、子ども時代に、残念な経験をすることも大切なのではないかと思っています。「一回を大切にしないと、次はない」ということ「では、どうやって参加していけば充実感を感じられるのか」など考える機会であったならうれしく思います。それぞれは、とてもおもしろいシーンが作れているので、先生の力でぜひ、一つにつなげてください。

コーディネーターから

予定どおり終えられなかった原因として、ルールが守れない子どもとの話し合いや、コミュニケーションがうまくいかないグループ一人一人の気持ちほぐしに時間を割いたことがあげられます。結果、自己や他者と向き合うという、演劇の核となるプロセスを体験したプログラムになりました。先生から「普段クラスで気になっていたことが、すべて形になって現れました。私も立ち位置が変わったために気づけたこともあります。よい時間でした。」という感想をいただきました。真摯にこのプログラムに向き合ってくださる先生方の姿勢にささえられていました。

先生から

今回の身体表現のワークショップを通して、初めて演劇をする子どもたちは、身体表現することの楽しさやおもしろさ、そして難しさを体験を通して学びました。子どもたちの学びは、身体表現することだけではなく、友だちと話し合うときには、どのようなことが大切かということも一つの演劇を班で作り上げる中で、学んでいたように思います。また、指導者の方の温かい雰囲気から子どもたちもリラックスをして、学習することができました。今回ご指導いただいた内容をいかして、学習発表会にむけて完成させていく予定です。ありがとうございました！！

子どもたちから

体で表現するのが楽しかった（だるまさんがころんだ、大根）／おっちゃんとプリンちゃんが楽しく教えてくれた／最初はおもしろかったけど、最後はけんかをしてしまった／グループで体を動かすことが大変で、みんなで協力すればよいことがわかった／べん強も遊びだと教えてくれたから／最初は恥ずかしかったけれど、人前で、表現できるようになった／はじめてアートの時間をやってみておもしろかった／だるまさんがころんだで、いろいろなどうぶつにきちんとなれたので、楽しかったです

演劇

上大岡小学校 ＋ 急な坂スタジオ
詩をからだで表現してみよう

担当アーティスト	武田力（俳優）
実施校	横浜市立上大岡小学校（港南区）
コーディネート	急な坂スタジオ
実施科目・教科名	国語
実施概要	体験型／演劇／5 学年、2 学級、51 人対象
実施日程	2010 年 12 月 1 日、12 月 3 日、12 月 6 日

授業のねらい

子どもたちにとって身近な教科書から、すでに学習した単元を扱い、かつ普段とは異なる切り口から読み解くことにより、教科書という枠に捕われずに、より幅広く作品を味わう／比較的抽象的な詩をからだをつかって表現することで、個々人の自由な発想を引き出しながら、からだを動かす楽しさを知る／発表をそれぞれ見せあい、なぜそのような表現に至ったのかを考える。

授業の進行

（1 日目）からだをつかってことばを表現してみよう（2 日目）班に分かれてからだをつかって詩を表現してみよう（3 日目）詩の表現を発表し、ちがいを発見しよう。

アーティストから

子どものさまざまな行動や思考。それに僕が指導（のようなこと）をするとき、その判断を下す価値観は本当に正しいのか、もしくは間違えなのか。僕は混乱を覚えました。僕を含めた大人たち。僕らよりも本能に近い、いわばより「人間」である子どもたちに対し、なにが真実であり、正義なのか。なにが嘘であり、偽善なのか。彼らの成長を考えるときに、そこにある価値観の押しつけが必要不可欠であることになんだか悲しさを感じるし､だからこそ人間が人間たる部分のような気がしました。

コーディネーターから

子どもたちは、とても素直で柔軟なので、こちらの態勢次第でどのようにも発展していけるし、逆に得たものを簡単に見失ってしまうことを実感した 3 日間でした。アーティストは、自分が信じるものに子どもに触れてもらい、その面白さを感じてもらう WS を通じて、その根幹を見つめなおす良い機会となったのではないかと感じています。アーティストと一緒に WS を作り上げることで、ともに考え、ともに感じるまたとない機会を得ることができました。

先生から

国語で学習した詩を身体で表現するというテーマで活動を行ったが、詩の表現に入る前に、ゲームや言葉を子どもたちが表現する活動を行ったことで、活動の具体的なイメージがもててよかった。子どもたちは思った以上にはずかしがることなく、身体表現を楽しみに生き生きと活動できた。

子どもたちから

恥ずかしかった／1 つの言葉でも、人によっていろいろな表現があった／体でいろんなことが表現できた／生かせる場がない／グループで表現するのは楽しかった／友だちの表現がおもしろかった

演劇

善部小学校 + ST スポット横浜
まちの演劇

担当アーティスト	南波圭（俳優）
実施校	横浜市立善部小学校（旭区）
コーディネート	特定非営利活動法人 ST スポット横浜
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／身体表現／5 学年、2 学級、75 人対象
実施日程	2010 年 11 月 26 日、12 月 6 日、12 月 7 日、12 月 15 日

授業のねらい

身体を使ったさまざな表現にチャレンジする。友達同士お互いの表現を認め合う。文部科学省「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験事業」と連携して実施。

授業の進行

（1、2日目）遊びを通して身体を動かし、演劇の基本に触れる。（3日目）「図書館」をテーマに小さなシーンを作る。（4日目）発表し、お互いに見合う。

コーディネーターから

今回伺った二つの学級の雰囲気は、同じ学年ながら微妙に違います。やんちゃな子を諫めながらも、引っ込み思案の子を引っ張り出して、少しずつ作品づくりのコマを進めていった今回の授業。演劇のアーティストが媒介になることで、クラスメートとあらためて出会い直す瞬間を作れないかと、スタッフ一同は模索を続ける中、私たちの助けになったのは、音楽の先生でした。担任とは別の立場から、ある程度俯瞰で状況を把握できる専科の教員の可能性は、もっと語られてよいのかもしれません。

演劇

新治小学校 + Media Global
パペットをつくる、演じる(2)

担当アーティスト	中村信子（人形劇俳優・美術家）
実施校	横浜市立新治小学校（緑区）
コーディネート	企業組合Ｍｅｄｉａ　Ｇｌｏｂａｌ
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／パペット／3 学年、2 学級、41 人対象
実施日程	2011 年 1 月 27 日、2 月 4 日

授業のねらい

新治小学校ではコミュニケーションの能力の育成に力を入れた学校づくりを行っている。3 年生は元気で活発な子が多いが、自分の気持ちを素直に表現できたり、他の人の気持ちを考えられるような内容を期待する。この体験を通して、自分と他人を大切にし、お互いをより理解しあいながら過ごせるようになるためのきっかけになればと考えている。文化庁「子どものための優れた舞台芸術体験事業・派遣事業」と連携して実施

授業の進行

（1 日目）パペットを創る　ボディ完成を目指す。（2 日目）パペットを遣って自分を表現する。

アーティストから

パペットを創る楽しさ、演じる楽しさを通して、クラスの皆の個性やすてきな所がたくさん見つかったのではないかと思っています。人と人のコミュニケーションは多様です。いろいろな球の投げ方や受け止め方をパペットを遣って体験していただき、豊かな学校生活に活かしていただけたらと思っています。

コーディネーターから

継続校で 3 年生の皆さんは授業を楽しみに待ってもらっていたようです。個性のあるすてきなパペットがたくさんできました。2 日目の操演はグループと一人づつ講師とやりとりをしました。振り返りで先生方から、パペットを作るだけでなく操演ができたことが良かったというお声をいただきました。

演劇

榎が丘小学校 + Media Global
パペットをつくる、演じる(3)

担当アーティスト	中村信子（人形劇俳優・美術家）
実施校	横浜市立榎が丘小学校（青葉区）
コーディネート	企業組合Ｍｅｄｉａ　Ｇｌｏｂａｌ
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／パペット／2 学年、4 学級、121 人対象
実施日程	2011 年 2 月 16 日、2 月 18 日、2 月 24 日、2 月 25 日

授業のねらい

自分の思いや考えを表現し子ども同士で伝えあうコミュニケーション力の向上。文化庁「子どものための優れた舞台芸術体験事業・派遣事業」と連携して実施

授業の進行

（１日目）パペットを創る。ボディ完成を目指す。（２日目）パペットを創る。ボディ完成を目指す。（３日目）パペットを遣って表現する。（４日目）パペットを遣って表現する。

アーティストから

2 年生といっても学年末ともなると、自立し自分のイメージを持って活動できるのだと感心しています。今後それぞれの個性を生かしながら何か形になるもの、短いものでもよいのでパペットを使って豊かな学校生活に活かしていただければ幸いです。

コーディネーターから

2 年生ですがパペット作りは、自分なりの表現で個性的なパペットがたくさんできました。休み時間など友達とパペットを遣って楽しむ姿もみられたようです。操演の時間は講師とひとりずつ演じる体験を重視しています。グループ活動がもっとあればよかったという先生方の声もいただきました。限られた中で時間配分は工夫をしていますがより考慮したいと思います。

演劇

森中学校 ＋ 杉田劇場
アテレコ体験

担当アーティスト	野村道子、津久井裕子、下田レイ、平野佳奈（声優）
実施校	横浜市立森中学校（磯子区）
コーディネート	磯子区民文化センター杉田劇場／杉田劇場と歩む区民の会
実施科目・教科名	特別活動
実施概要	体験型／演劇／１～３学年、２プログラム、36 人対象
実施日程	2010/10/27

授業のねらい

表現活動を通して、自らの力に気づいたり、自分自身を受容できる姿勢を育てる。

授業の進行

（1）アテレコ体験。（2）発声・表現・朗読体験。

アーティストから

短時間での体験となったため、消化不良を感じた。もっとじっくりと教えたかった。

コーディネーターから

文化祭という枠組みの中でのプログラムで、時間も１時間という短時間、参加者も事前公募という中で、芸術文化教育プラットフォームの趣旨について考えることとなった。

先生から

今回、文化祭の展示発表時間内での開講という特殊な形でしたが、こころよく引き受けていただき感謝しております。次回はもっと時間をしっかり確保できればと思っております。いろいろ御無理をお願いしてしまいましたが、文化祭の活動として大変充実しており、職員にも好評でした。生徒達はプロの方の姿勢に接することで、大きな刺激をうけ感動していたようです。進路学習の資料で読んだり映像を見たりして学ぶことが多いのですが、やはり実際の姿に接する体験を通しての学びは、今後の生徒たちの活動・生き方に影響すると思います。このような事業はこれからも続けていっていただきたく、どうぞよろしくお願い致します。

子どもたちから

発声のことをいろいろ聞けた／声優に興味があったので、その仕事を体験できた／今まで知っているものとは違った表現法を詳しく知ることができた／これからの演劇で、声の出し方に注意する事ができた／アテレコ以外でも、音読とか劇とかに使えそうだった／さりげなく言うことが、結構頭に残った／同じ文を読むのに、声の調子を変えるだけで、話の感じが変わるのはすごいと思った。声優さんの仕事のやり方に関してのことがわかってよかった。これから演技をするのに役立てていきたいと思った。（１年女子）／声のトーンや話すはやさを変えると色々な話し方になることがわかった。（１年女子）／発声に必要なのは、まず役になりきって役のことを考えるという事がわかりました。貴重な体験ありがとうございました（１年女子）

ダンス

永田小学校 + 吉野町市民プラザ
自分のダンスの作り方、楽しみ方

担当アーティスト	JOU（コンテンポラリーダンサー、振付家）
実施校	横浜市立永田小学校（南区）
コーディネート	吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／4 学年、3 学級、94 人対象
実施日程	2010 年 10 月 26 日、10 月 29 日、11 月 2 日

授業のねらい

コンテンポラリーダンスとは、決まった型のないダンス。アーティストそれぞれの意識や感覚といった個性が、それぞれの型となっていきます。揃わなくても、人と違っていても良い・・・そのことをまず楽しみ、認め合えることを目指します。その上で、お互いの中でどのような共通点を見出し、時間と空間を共有していくか、その面白さを体験していきます。自分や社会や人生にも変換できうるこうしたコンテンポラリーダンスならではの感覚を、ほんの少しでも体験してもらいたいと思います。

授業の進行

（１日目）オリエンテーション、ウォームアップ＆ストレッチ（音楽と一緒に)、講師のダンスデモンストレーション。（２日目）ウォーミングアップ、インプロビゼーション(即興)、グループ発表。（３日目）準備運動、各組発表。

アーティストから

お金で買えないのが自分の身体。どんな可能性をも切り開いてくれるのが想像力。それを助けてくれるのが、コミュニケーション能力。それら全てを、ダンスの授業を通して少しでも実感してくれたら、こんなにうれしいことはありません。未来を担う子ども達との､キラキラと､宝物のような素敵な時間でした。このような教育プログラムを実践されている財団、学校の先生方、全てに、感謝致します。本当にありがとうございました。

コーディネーターから

元気一杯自由に身体を動かすこどもたち。クラスのみんなとアイコンタクトを取りながらお互いのポーズも意識して、楽しくコンテンポラリーダンスを体験してくれました。この３日間を通して､自分の気持ちを表現したり､相手の個性を尊重したり、新しい自分・仲間の一面を垣間見たりできたのではないかと思います。こどもたちと先生方の信頼関係、アーティストのこどもたちを夢中にさせる力、そして限りない可能性を持ったこどもたち、すべての力が合わさってとても実り多い時間を共に過ごさせていただけましたことに、深謝いたします。

先生から

子ども達はとても楽しく参加、活動していました。いつもと違った自分や友達の様子や雰囲気で興奮していました。そして、ダンスとはずかしがっていた子がだんだん少しずつ体を動かし楽しんでいたのがとてもよかったです。「自分の表現のしかた」はなかなか難しかったようですが、自分のオリジナルのポーズをみつけてきていました。とてもうれしそうにしていました。「同じ道でもいろいろな歩き方がある。」という JOU 先生の言葉が素敵でした。ありがとうございました。

子どもたちから

いろいろなポーズをとって楽しかった／いろいろな体の動きが分かった／コンテンポラリーというダンスが分かった

ダンス

永田台小学校 + 吉野町市民プラザ
身体で表現してみよう

担当アーティスト	東野祥子（振付家、ダンサー）
実施校	横浜市立永田台小学校（南区）
コーディネート	吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／5 学年、2 学級、65 人対象
実施日程	2011 年 2 月 14 日、2 月 24 日

授業のねらい

コンテンポラリーダンスによる自由な身体表現方法を体験して、お互いにコミュニケーションをとりながらいろいろな表現をしてみることで、表現することの楽しさを実感し、いろいろな表現方法があるということを発見してもらいたいです。また、グループで考えながら抽象的な言葉などを身体で表現することを通して、お互いに協力しながら個性を尊重し合い、動きを作る楽しさを味わいながら、自分で考える力も伸ばすきっかけになると良いと思います。

授業の進行

（１日目）講師のデモンストレーション、ストレッチ、真似して動いてみる、イメージでキャッチボール。（２日目）ストレッチ、講師の振付で踊る、ボールが動くイメージで動く、体全体を筆にして絵を描く、言葉のイメージを身体で表現、グループでダンスを創る、発表。

アーティストから

始めのうちは照れたり、緊張したりしてあまり動けなかったこどもたちですが、一緒に動いているうちにどんどん集中力を持って自由に身体で表現できるようになりました。最後の発表の時間では、グループでコミュニケーションをとりながら短時間でイメージしたものを創り上げていくのは難しかったと思いますが、さまざまな「表現」が生まれ、素晴らしいものになりました。いろいろなクリエーションの方法があり、それが人によって違うということを体験してもらえたのではないかと思います。与えられたことだけをやっているのではなく柔軟な思考回路で自分達の表現方法を見つけようとしていく子どもたちの姿がとても印象的でした。

コーディネーターから

ユネスコスクールに登録されたばかりの永田台小学校。環境、つながりなど「大人になっても活かせる力」を身につけるため、いろいろなことに積極的に取り組んでいます。今回のプログラムでもコンテンポラリーダンスをまったく知らず、始めは戸惑っていたこどもたちですが、すぐに言葉ではなく身体でいろいろなことを表現する楽しさを見つけ、積極的に動けるようになりました。発表ではお互いの動く姿を真剣にみつめ、それぞれの個性を認め合っている様子が印象的でした。こどもたちの「心のバリア」をあっという間に外して、本来持っている素晴らしい表現力を引き出したアーティストの力、アートの力は何者にも代えられません。

ダンス

白根小学校 + 芸術家と子どもたち
身体をつなげて生まれるダンス

担当アーティスト	楠原竜也（振付家・ダンサー）
実施校	横浜市立白根小学校（旭区）
コーディネート	特定非営利活動法人芸術家と子どもたち
実施科目・教科名	総合的な学習の時間・体育
実施概要	体験型／身体表現／4 学年、4 学級、123 人対象
実施日程	2011 年 1 月 14 日、1 月 17 日

授業のねらい

ダンサーの表現と出会い、体で表現することの楽しさを体感し表現の幅を広げていきながら、「10 歳を祝う会」で発表する内容のヒントになることを得ていく。一日目は自分の身体・人とのつながりを意識したワーク。２日目は、物（例えば棒や布など)を使ってそこから動きを生み出していくワークを計画した。

授業の進行

（１日目）ペアワーク、グループワークの中で言葉を使わず、身体だけでコミュニケーションを取ることを実施。子どもたちは相手の動きを真似たり、逆に自分の動きを真似てもらうことで相手の特徴を理解したり､新しい動きを発見したりしていた。また、人とは違う形を作って、それを数人で繋げて一つの形を作ったりもした。(２日目)一日目に行ったワークをさらに発展。一日目にやったことに加えて、音楽や動きのスピードに変化を加えたりしてさらに身体の動かし方の可能性を広げていった。子どもたちは自分の身体や、相手の身体がどう動くのかをもっと深く理解していった。

アーティストから

最初の打ち合わせでは動きのきっかけとしてモノ（棒など）を使って展開させていこうかと思ったが、初日に実際に子どもたちと触れ合ってみて、身体への反応がとても良かったので、モノを介さずもっと深くやっていった方が面白いと思い変更した。子どもたちが身体で表現することに対して柔軟でびっくりした。最初は戸惑う子もいるかと思ったが､そういう子が少なかった。私の言うことを理解し､かつそれを面白がって発展させていた。素晴らしい想像力だと思ったし、刺激になった。

コーディネーターから

子どもたちの反応は非常に良く、アーティストの提案する内容をよく理解し積極的に取り組んでいた。担任の先生はこういった身体表現の授業は初めての様子で不安要素も多かったとは思う、打ち合わせにて色々話した上で、当日のワークショップでは子どもたちと一緒になって参加、体験して頂けた。どの先生も､「普段ではできない授業」と好評で、普段は言葉や表情で反応が出にくい子どもも楽しそうに取り組んでいたことを喜んでいた。

ダンス

桜井小学校 + Offsite Dance Project
からだの表現の時間(1)

担当アーティスト	山田うん（振付家・ダンサー）　アシスタント：川合ロン、インターン：岡田智代
実施校	横浜市立桜井小学校（栄区）
コーディネート	特定非営利活動法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／4 学年、2 学級、55 人対象
実施日程	2010 年 11 月 29 日、12 月 1 日、12 月 3 日

授業のねらい

コンテンポラリーダンスの体験を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指します。日常の動作や遊びから発展するダンス、からだ全体を使ってコミュニケーションするダンス、グループワークによるダンスなどの手法を通じて、自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会を提供します。ここでは、先生が日常の授業から「10歳を祝う会」の発表へと繋げるキーとなる多様な方法を実践します。

授業の進行

（１日目）自由ダンスに挑戦。じゃんけんでダンス、「あいこ」なからだの表現＝ダンス。「自由ボックス」を広げてみよう。（２日目）振付られたダンスに挑戦。不自由なダンスを経験をすることで、「自由」とは何か、身体の変化を感じてみよう。（３日目）オリジナルなダンスに挑戦。全身でおしゃべりするダンスを作って、皆の前で踊ってみよう。

アーティストから

学校生活は社会に出て行くための練習と学習の場。様々な規制があるのが現状です。そういう中で正解のない自由な身体表現に挑戦したことは子供達にとって戸惑いと喜びに満ちた特別な時間だったと思います。授業の最初と最後では皆随分表情が違いました。気持ちも体も解放されたのでしょう。家庭でも学校でも雲隠れしている新しい自分が、この遊びと学びの中間であるワークショップを通じて引き出されたのではないかと思います。そして子供達の笑顔によって私自身も忘れかけていた多くの感覚を呼び覚まされました。

コーディネーターから

まずじゃんけんから始まって、ダンスとは勝ち負けのない自由なからだの表現であることを実践して見せる。こどもたちの漠然としたダンスって何？という疑問に対して明解な言葉で惹き付ける。そこから日常にあるものをどんどんダンスにしていく。それにつられてこどもたちも一緒に動きながら、次第にからだや気持ちが解放されていく様子が見て取れた。「みんな正解、言葉がなくても人は感じ合って繋がれる、いろんな経験が自由を広げる etc」。それらの言葉をからだ全体で受け止めようとしている姿、山田うんが最後にソロを踊ってみせた時の微動だもせず見つめる姿、この授業がこどもたちにとって特別な時間だったことを伺わせる光景だった。こどもたちにとっては一時の遊びのようなワークショップ。山田うんはじめアシスタントの川合ロン、助っ人として加わったダンサーの献身的なワークショップで、充実した内容になった。今回はクラス数が少なかったため、短時間ながら３日間、回を重ねての実施となった。今回はできなかったけれど次回はやってみよう、という意欲も生まれ、より積極的な取り組みにつながったと思う。

先生から

人前で踊ることに抵抗を感じる子どもたちが多い中、たくさん声をかけていただき動き方の手本を見せてくださって子どもの身体と心をほぐしてくれました。最終日には、１人ずつ踊ることが恥ずかしかった子どもたちに「ダンスには間違いがないんだ」と熱く語られた姿に子どもたちは心打たれ、恥ずかしがりながらも踊ることができました。ダンスに山田うんさんの人柄にも魅了されました。技術をもっているだけでなく、人間的にも威力がある方と子どもたちが出会えたことが大変良かったと思います。

子どもたちから

みんなで楽しくして学んだ／決まったことがない／いつもやらないダンスをするのが楽しかった／まねをするのが楽しかった／ダンスは人にみせることがあるし、よいと思う／体を動かせた／自由でおどったダンスが楽しかった／体育館のまん中で、おもいっきりおどった／知らないおどりが身についた／自由にダンスできること。みんなでダンスできることが良かった／ダンスでみんなともっと仲よくなれたと思う

ダンス

泉が丘中学校 + Offsite Dance Project
からだの表現の時間(2)

担当アーティスト	山田うん（振付家・ダンサー）　アシスタント：川合ロン、インターン：東由希子、岡田智代
実施校	横浜市立泉が丘中学校（泉区）
コーディネート	特定非営利活動法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／1 学年、5 学級、166 人対象
実施日程	2011 年 1 月 14 日、1 月 17 日、1 月 18 日

授業のねらい

コンテンポラリーダンスの体験を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指します。日常の動作や遊びから発展するダンス、からだ全体を使ってコミュニケーションするダンス、グループワークにおるダンスなどの手法を通じて、自由な発想で自分を表現する楽しさを体験し、仲間との関わり方・相互理解を深める機会を提供します。実際に身体を動かすワークショップが 90 分、終了後に互いの感想を意見交換する場を設け､適 宜小休憩をいれて二時限内に収まるように進行します。

授業の進行

からだや意識を総動員してコミュニケーションする力を育てる。①１対１の握手から動きへと発展させ、大きな円をつくての全員でのダンス。②音楽に合わせてみんなで動く／他の人の動きを真似る／好きなポーズをしてみる／ゆっくり自分のからだの軸を意識して動いてみる等。

アーティストから

学校生活は社会に出て行くための練習と学習の場。様々な規制があるのが現状です。そういう中で正解のない自由な身体表現に挑戦したことは子供達にとって戸惑いと喜びに満ちた特別な時間だったと思います。授業の最初と最後では皆随分表情が違いました。気持ちも体も解放されたのでしょう。男子生徒のユーモア、オリジナリティ溢れる動きに驚かされました。家庭でも学校でも雲隠れしている新しい自分が、この遊びと学びの中間であるワークショップを通じて引き出されたのではないかと思います。そして子供達の笑顔によって私自身も忘れかけていた多くの感覚を呼び覚まされました。

コーディネーターから

通常体育の時間では男女別に分かれていることから、まずは抵抗感を取り払うために、一人一人と握手するうちにダンスに巻き込まれ、それが次第に二人三人、グループ、大きなひとつの輪になってみんなで一緒に動いていくというシチュエーションから始まった。今回のクラスでは、成長過程にあるこどもたちに、自分自身／他者の身体感覚に気づく、見えないものを見ようとする創造の楽しさを伝えようとした。どのクラスも男子の積極的な姿勢が良好に作用し、自分なりに取り組もうという積極的な姿勢が見られた。今回は 5 クラスあり、１回限りの授業のため時間を長めにとったが、こうしたケースでは最低 90 分は必要であろうと思われる。今回この事業で二校続けて山田うんを起用したが、アート教育に携わるアーティストは、専門分野の高度な知識／技術はもちろんのこと、ひとりの人間としての魅力、自分が命をかけている芸術に対する信念、そのことを伝える力、が必要とされると再認識した。山田うんはこの分野では特別な資質を備えているが、誰もが簡単に習得できるものではないと思われる。コーディネーターは、アーティストの資質、献身的に事業に取り組む人材、この両方の見極めが最も重要な仕事だと思う。今後増加するであろうアート教育の需要に対して、次の人材をアシスタントやインターンに起用し、体験を通じて学ぶ場をつくることも必要だろう。

先生から

身体を使った表現活動ということで、ダンスのアーティストにお願いして、授業を展開してもらいました。どうしても表現すること、コミュニケーション能力に劣る、恥ずかしがる中学生なのですが、アーティストがうまく引き出して楽しく活動していました。「この子がこんなことを」みたいな新しい場面をたくさん発見することができ、互いの理解も深まった活動になったと思います。今後学校としては、この機会をうまく捉えてコミュニケーション能力の向上を図りたいと考えています。また来年度以降も同様の取り組みができるように学校教育活動に位置づけ、取り組んでいきたいと考えています。

子どもたちから

みんなで笑っていろんなダンスができた／すごく身体を動かせて楽しかった／自由に表現することができた／身体の中心から身体の全部を動かせた／自分を捨てて、はずかしがらずにできた／表現力が豊かになった／最初、恥ずかしいなと思っていたけど、動かしているうちにすごく楽しくなった／自由に自分を表現したのは初めてで、気持ちよかった／みんなと一緒におどれてとても楽しかったです

ダンス

二つ橋高等特別支援学校 + ST スポット横浜
おどるからだ

担当アーティスト	山下残（振付家）
実施校	横浜市立二つ橋高等特別支援学校（瀬谷区）
コーディネート	特定非営利活動法人 ST スポット横浜
実施科目・教科名	自立活動（スポーツ）
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／3 学年、6 学級、48 人対象
実施日程	2011 年 1 月 18 日、1 月 25 日、2 月 1 日、2 月 8 日、2 月 10 日

授業のねらい

身体を使って表現することの楽しさを体験する。既にあるものだけではなく、自分たちで想像して表現を生み出す体験をする。文部科学省「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験事業」と連携して実施。

授業の進行

（1日目）ウォームアップ、自己紹介。（2、3日目）生徒たちと一緒に動きや振りを見つける。（4日目）発表に向けて、構成をする。（5日目）アーティストのダンスと生徒たちのダンスの発表および全校でのワークショップ。

アーティストから

今回の取組みをお引き受けした段階では、実は不安も大きかった。また、週に一回程度の頻度でしか学校に来られない制約についても悩んだ。終わったいま安堵の気持ちでいっぱいだ。生徒たちは感性がピュアだから、今やっていることや、自分が伝えたいことをダイレクトに受け止めてくれたと思う。今回の取組みを進めながら、自分が作品を作っていく上で、これからやってみたいアイデアなども浮かんできた。私にとっても刺激的で、とても気持ちの良い体験になった。(談)

コーディネーターから

今回の取組みでは、アーティストの強い希望で、子どもたちに対して一方的な振付を行うことは一切しなかった。その代わり、子どもたちそれぞれが自分の考えた振付をもとに自分で踊りだすのを待った。「自由に」というオーダーは、むずかしいものだったが、学校の当初の依頼であった「余暇活動」の意味を、少しでも伝えるためのチャレンジでもあった。最終回は、ダンサーの山賀ざくろさんにお越しいただき、山下残さん振付の作品『横浜滞在』を体育館で上演した。自由に悩んでしまう大人の身体を見て、彼らは何を思っただろうか。

先生から

最終回を全校での取組みとする上で、自立活動でスポーツを選択している子どもたち以外、つまり必ずしも体を動かすことに積極的ではない生徒も楽しめる内容かどうか不安もあったが、自ら前へ前へと出ていく生徒が多くて、安心した。今回は、コンテンポラリーダンスを通して子どもたちの余暇活動の充実という点に対して、視野を広げることができたのではないかと考えている。（談）

美術

洋光台第四小学校 ＋ 横浜市芸術文化振興財団
木炭で似顔絵、自画像を描く(1)

担当アーティスト	黒田 晃弘（現代美術アーティスト）
実施校	横浜市立洋光台第四小学校（磯子区）
コーディネート	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／木炭画／5 学年、2 学級、70 人対象
実施日程	2010 年 11 月 25 日、11 月 26 日

授業のねらい

１：似顔絵を描くという表現活動を通じて、想像力や感性を高めます。また集中力を養い、情緒の安定を促進します。２：友達の顔を描くことで、相手の友達そして自分自身のことを考えるきっかけを提供します。３：創作に取り組むことで、成し遂げた時の達成感、成就感を感じる機会を提供します。文化庁「子どものための優れた舞台芸術体験事業・派遣事業」と連携して実施。

授業の進行

（１日目）粘土で横顔（凹凸による影と光の理解）、木炭を使ってみる。（２日目）似顔絵ワークショップ、木炭で友達の似顔絵を描く。

アーティストから

今回のクラスの子どもたちは、とても前向きで、意欲が旺盛でした。私が教える、木炭の描き方についても、とても意欲的に挑戦し、そして表現の部分でこだわりを持つ生徒が多かったです。似顔絵において、相手の雰囲気をつかむことや、目の輝いた感じなどを現そうと夢中に描いていました。私の授業では、単に絵の描き方を教えることだけではなく、相手とのコミュニケーションをとり、お互いの理解を深めることを目的としています。生徒さんたちは今回の授業でさらに友情を深めることができたのではないかと思います。給食の時間にも相席させていただきました。

コーディネーターから

最初に粘土で実際に形を作ることにより、光と影で、人間や物体が見えてくるという説得力が、子どもたちの中で増していたと思います。また、クラスメイトの顔を見ることを恥ずかしがっていた子どもたちも、意識や見方を変えることで、次第に質問のやり取りをしながらじっと相手を観察して描いてゆく様子が印象的でした。普段とは別の角度からの、友人に対する理解やコミュニケーションの取り方が図られていたように思います。

先生から

アーティストの方に来ていただいて教えていただくこと＝「子どもたちにとっての本物体験」は、とてもよかったと思います。プロの方が教えてくださるということで、いい緊張感のなか、子どもたちは真剣に話を聞き、集中して活動していました。学校では、ほとんどが疑似体験です。そんな中で、本物にふれる機会をなるべく増やしてあげたいと、いろいろな出前授業をお願いしています。その中でも今回の木炭画教室は、木炭をつかって絵を描くという初めての経験を通して、友だちと心をかよわせながら楽しむことができ、とてもよかったと思います。

子どもたちから

光と影がよくわかりました／ぼくは絵がへたでじょうずになりたかった／木炭画のかき方がよく分かったこと（目、はな、口などのかき方）／身近な物でも絵の道具になると知れて良かった／私はあまり人の顔をかかなかったけど、絵をかくことは楽しいなと思いました／目のかき方を教わって、今までぜんぜん知らなかったからよかった

美術

新羽小学校 + 横浜市民ギャラリーあざみ野
自分の作った色で自分の花を描こう

担当アーティスト	うめぐみ（ワークショップアーティスト）
実施校	横浜市立新羽小学校（港北区）
コーディネート	横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／2 学年、3 学級、110 人対象
実施日程	2010 年 11 月 15 日、11 月 16 日、11 月 17 日

授業のねらい

２つの活動を行った。＜色水のオリエンテーリング＞あか、あお、きいろ、しろの４色のポスターカラーを使い、水の入った容器に色を混ぜながら桃、朱、水、黄緑、緑、紫、茶色の７色作りに挑戦した。＜自分の花を描こう＞教室の床いっぱいに広げた紙の好きな場所に自分でつくった色で自分の描きたい花を描いた。

アーティストから

よく話を聞いて自分で工夫する様子が見られました。同じ指導を受けながら、一人ひとり個性的な表現ができました。

コーディネーターから

この活動はえのぐの導入と描画への指導のあり方の基本となるワークショップで、現場の教師の育成の面を持っている。

先生から

材料の準備や技術的な面などのことで、ふだんの授業では扱えない内容を展開していただき、子どもたちにとっては、とても楽しく意欲をもって取り組んだ活動だった。図工室の床一面に広げられるほどの大きい画用紙を用意してきてくださり、子どもたちはダイナミックに花の絵を描くことができた。また、絵の具の学習の導入的なことに取り組めたことは、今後の学習につながる内容でよかった。

美術

品濃小学校 + アートの時間
さぁ、仮面パレードだ！　２０１０

担当アーティスト	深澤純子（アートファシリテーター）
実施校	横浜市立品濃小学校（戸塚区）
コーディネート	アートの時間
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／5 学年、2 学級、78 人対象
実施日程	2010 年 10 月 18 日、10 月 25 日

授業のねらい

普段の図工では扱えない素材を使って、自分のマスクを作ることで児童の表現の幅が広がり、さらにアートへの興味・関心が広がる。そして、三者で協力しながら製作することで互いの信頼感を高める。また、それぞれ違う顔から出発する作品はそれぞれ違う仕上がりになる過程を見ることで、自他の良さを認め合う機会となる。文化庁「子どものための優れた舞台芸術体験事業・派遣事業」と連携して実施。

授業の進行

（１日目）ベルストン（石膏包帯）を使い、ライブマスクを作る。（２日目）白いライブマスクに着色、装飾を施し仮面に仕上げ、装着して校内をパレードする。

アーティストから

「いつもは得意な子との差を気にして図工嫌いになっている子も、違いはあっても優劣の差がない、今回の仮面作りを楽しんでいるのがよくわかった」という先生のコメントをいただき、単なる図工の延長ではないプログラムの意味を理解いただけたようでとてもよかった。

コーディネーターから

石膏包帯が固まって顔から剥がし作品と対面する瞬間の喜びとも驚きともつかない子どもたちの表情、白い仮面を汚したくないという気持ちとあいまって次の装飾ができず躊躇している子どもたちの表情、完成した仮面をつけて他者の反応を恐る恐る確かめる子どもたちの表情、その一瞬一瞬に確かに「アート」に触れてもらっている手ごたえを感じた。

先生から

全員が造形活動に楽しみながら取り組んでいた。誰でもある程度まではできるので(失敗がない)意欲を最後まで継続できた。他人の作品作りに係わるので緊張感があった。･準備はかなり大変だったが、来年の５年生もぜひ体験してほしい。作品に自由度があり、ダイナミックな作品が多かった。またやってみたいという子が多かった。講師の人数が多く、手厚い指導ができた。

子どもたちから

自分だけの仮面ができた／かざりつけが楽しかった／初めてのことでドキドキした／友だちと仲良くできた／相手の気もちが考えられた／仲良く活動できた／挑戦する心がうまれた（うまくいかなくても）／いろいろ想像することができた／考え方がちがうとおもしろいものができる／石こうをはる感じが不思議だった／またやりたい

美術

大正小学校 + アートの時間
2010 年 12 月の自分

担当アーティスト	深澤純子（アートファシリテーター）
実施校	横浜市立大正小学校（戸塚区）
コーディネート	アートの時間
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／4 学年、3 学級、86 人対象
実施日程	2010 年 12 月 13 日、12 月 20 日

授業のねらい

普段の図工では扱うことのできない素材を使ってマスクを作ることで、様々な表現方法があることに気付き、文化芸術への興味・関心を広げていく。そして、三者が協力しながら製作する過程から、言葉だけではないコミュニケーションを図り、互いの信頼感を高めていく。

授業の進行

（1 日目）ベルストン（石膏包帯）を使い、ライブマスクを作る。（2 日目）白いライブマスクに着色、装飾を施し仮面に仕上げ、互いに観賞。記念撮影。

アーティストから

マスクを型どりする作業も危険なことである。危険なことも危険にならず、人を危険におとしいれることもなく、やり遂げることもできる。人と一緒だからできた、いつもの場所だからできた、初めてのことでこわいけど、少し面白いかもしれない・・・そうしてみんなで日常の淵を越える体験をした。アートが社会にできることはそう大きくないかもしれないが、ひとりの感性の領域を広げることはできると思う。

コーディネーターから

初めての体験に戸惑い、立ちすくむ子もいる。なかなか壁が越えられない。時間ばかりが過ぎる。そんな子どもたちに寄り添い、ぎりぎりまで共に苦しむ。彼は自分自身と向き合っているのだ。それはとてもしんどい体験。しかし、ふいに彼が筆を動かし始めたとき、彼自身も何かを確かに越えたとでもいうようにイキイキとした顔になる。あとは一人で大丈夫だね！・・・こんな現場に立ち会えたことに、心から感謝したい。

先生から

今回、10 才＝２分の１成人式に何か記念に残ることを…と相談したところ仮面作りにたどりつきました。石こうを使うということで少々心配しましたが、スタッフの方々の細かいご指導・ご配慮のおかげで楽しく取り組むことができました。個々に合った声かけ、アドバイスも大変助かりました。ふだんできないことがこのような形ででき、また記念に残る作品になり、ありがたく思っています。今後も本校での４年生での取り組みの一つになればよいなと思っております。

子どもたちから

みんなで協力した／初めてつくった／自分の気に行ったものが作れた／作り方がわかった／ふだんできないことができた／手作業は同じように作っても何かが違い、世界に１つだけになることがわかった／友達にやってもらうのもいいな…と思った／ベルストンが冷たくて気持よかった

美術

都岡小学校 + サンハート
木炭で似顔絵、自画像を描く(2)

担当アーティスト	黒田晃弘（現代美術家・似顔絵）
実施校	横浜市立都岡小学校（旭区）
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／木炭画／6 学年、2 学級、70 人対象
実施日程	2010 年 10 月 25 日、10 月 30 日

授業のねらい

プロのアーティストに直接教えてもらうという、いつもの授業とは異なる内容・雰囲気の中で、絵を描く事の楽しさを感じる。また、そのような状況の中で、友達の「似顔絵」を描くことで、相手とのコミュニケーションを向上させ、「自画像」に取り組むことで、卒業に向けて、自分を見つめ、自分の内面を表現することに挑戦する。また、30 日は、「学校をひらく週間」に当たっており、保護者への PR を積極的に行い、活動風景を見ていただけるようにする。

授業の進行

（１日目）木炭で、友だちの「似顔絵」を描く。（２日目）木炭で「自画像」を描く。

アーティストから

都岡小の６年生を今年も指導しました。毎回準備をしてくださる図工担当の先生とも息が合い、大変スムーズな進行になりました。６年生は多感で男女 ペアで似顔絵を描きあうのは皆照れてしまいますので、その配慮もあってか男子同士、女子同士がペアになっていました。そのためか完成した似顔絵 は、相手をきれいに、良く描こうという気持ちが全体的に現れたと思います。特に目の表現には、私が見本で見せたように、黒目の中に練り消しで白抜 きし、光を現すキラキラと輝く表現に挑戦しているものが良く見られました。表情もにこやか、おだやかにや

コーディネーターから

継続校であり、窓口になってくださる先生、アーティスト、コーディネーターも同一のプログラムとなったため、準備・実施までの流れが非常にスムーズでした。そうした環境のおかげか、初めて手にする画材である「木炭」を使い、相手とコミュニケーションを取りながら「似顔絵」を描く手法や、相手に向けていた問いかけを自分に向ける「自画像」にも、新鮮な驚きと楽しさを感じながらも、落ち着いて取り組んでいたように感じられた。

美術

二俣川小学校 + サンハート
木炭で似顔絵、自画像を描く(3)

担当アーティスト	黒田晃弘（現代美術家・似顔絵）
実施校	横浜市立二俣川小学校（旭区）
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／木炭画／4 学年、3 学級、112 人対象
実施日程	2010 年 10 月 28 日、11 月 2 日

授業のねらい

プロのアーティストに直接教えてもらうという、いつもの授業とは異なる内容・雰囲気の中で、絵を描く事の楽しさを感じる。また、そのような状況の中で、友達の「似顔絵」を描くことで、相手とのコミュニケーションを向上させ、「自画像」に取り組むことで、卒業に向けて、自分を見つめ、自分の内面を表現することに挑戦する。また、30 日は、「学校をひらく週間」に当たっており、保護者への PR を積極的に行い、活動風景を見ていただけるようにする。

授業の進行

（１日目）木炭で、友だちの「似顔絵」を描く。（２日目）木炭で「自画像」を描く。

アーティストから

二俣川小の４年生は３クラスあったため、スケジュールの組み方に先生と旭区文化センターの方には大変ご苦労をおかけしました。初日の似顔絵の授業 も変則的な時間配分になりました。各クラスを行き来しながらの授業は私にとっては大変おもしろいものになりました。元気で無邪気な年頃の４年生ですから、はじめて扱う木炭にも興味を示し、集中して描いていました。高学年との違いは対象である友達の顔を良く欠こ う、やさしく描こうという自意識があまりなく、目の形鼻の形をとらえ、純粋に描くことの興味に向き合うところです。髪の質感を描き分けることや、 練り消しを使うと白く色がつくことといった、表現自体に興味をもちます。そのためか、やはり出来た作品には、絵画的、芸術的といってよいとらえ方 があらわれました。私にとってこれは興味深いことで、対象を純粋にとらえようとする姿勢自体が、とても素晴らしいことなのだと、逆に教わりました。

コーディネーターから

前年度からの継続校で、プログラムも基本的には同じ内容でしたが、１日目が５時限の日での実施となったため、変則的なタイムスケジュール（１～４時限を３分割して各クラスで実施し、５時限は３クラス同時に実施して、各クラスをアーティストが巡回する形）にとなりました。しかし、前年度までの経験から、学校・アーティスト・コーディネーター間で、プログラムの内容や進め方を共有できていため、比較的スムーズに進めることができました。連絡・協力体制の構築の重要性を改めて認識しました。

美術

竹山小学校 + ART LAB OVA
へんてこハウスをつくろう

担当アーティスト	ART LAB OVA
実施校	横浜市立竹山小学校（緑区）
コーディネート	ART LAB OVA
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／現代美術／2 学年、2 学級、43 人対象
実施日程	2010 年 12 月 8 日、12 月 9 日、12 月 10 日

授業のねらい

今年の 2 年生は、大人の顔色ばかりを見て、「自分のやりたいこと」がない。かと思えば、農作業の時間などには、やんちゃになり収拾がつかなくなるという。思い切り自己表現のできる機会をつくることにより、日常の中で、自己表現をする場面と、社会のルールを考える場面のめりはりを感じてもらう。文化庁「子どものための優れた舞台芸術体験事業・派遣事業」と連携して実施。

授業の進行

（1 日目）友だちといっしょにダンボール箱で「へんてこハウス」をつくる。（2 日目）友だちといっしょにダンボール箱で「へんてこハウス」に絵の具で色をつける。（3 日目）全部の家をつなげてひとつの家にする。バチでたたいてめちゃくちゃに演奏し破壊する。

アーティストから

すべての授業が終了したときに、「満足した人！」といって挙手をさせたところあれほどはしゃいでいたこどもたちが不満足といった。よく聞くと「もっとやりたかった」「家を木でつくりたかった」というような「積極的な不満足」だった。そのほかある女の子が破壊のドサクサの中で泣き出したので理由を聞くと、「大事に持ち帰りたくて避けておいておいた家まで男子に壊されたから」。でも、その家は、「きれいに作った」ものではなく、足に絵の具を塗ってどろどろに彩色されたものだった。日常は既存のキャラクターグッズに囲まれている彼女にとって、それが泣くほど大切なものになったという事実は想定以上のことだった。

コーディネーターから

今回は、昨年とはちがい、こどもたちが思い切り自己表現をできる場をつくることに専念し、こどもたちの様子から随時次の動きを考えていったので、プログラムを事前に固定せず、状況によってフレキシブルに変容できるようにした。複数の先生を巻きこみながら、状況によって内容を組み替える、実験的な授業をすることができたのはこのプログラムのすばらしい点である。一方で、一方で、実際には、学校側にどこまで理解していただけたか不安が残る。授業内で行うので、授業後に先生といっしょに振り返りができなかったのは、大胆に進められる反面、難しい点でもあった。たぶん、先生方も同様に感じていると思うので、今後は、よりよい方法を考えたい。

子どもたちから

大きく作ったのが楽しかった／好きなもの作れてよかった／友達とがんばった／大きいのを作るのに時間がかかることが分かった／みんなで作ると大きいものが作れると分かった

美術

上瀬谷小学校 ＋ 横浜市民ギャラリー
半人半獣―動物とつながって命を輝かせよう！

担当アーティスト	山田哲平（彫刻家）
実施校	横浜市立上瀬谷小学校（瀬谷区）
コーディネート	横浜市民ギャラリー
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／工芸／5 学年、3 学級、115 人対象
実施日程	2010 年 10 月 19 日、10 月 26 日、11 月 17 日

授業のねらい

人類が最初に描いたのは、動物の絵でした。どうして人間は、自分たちでも植物でもなく、動物を描いたのでしょうか？山田氏が制作のテーマとしているこの疑問をもとに、子どもたちが自分が動物と融合したらどんな形になるか想像し、身にまとえるものを造形します。児童がどうしてその動物を選んだのか、というテーマの掘り下げ、造形段階での工夫が当初抱いたイメージと結びつき、達成感を得られるように導きます。

授業の進行

（１日目）講師によるスライドを用いた自身やこれまでの活動についてのレクチャー、WS 説明。（２日目）宿題で描いたスケッチを基に、身につけるものを工作。（３日目）前回つくったものを着用してのファッションショーと講評。

アーティストから

今回のワークショップで、自分で一からモノを創ることを子供達は本当に楽しんでいるように見えました。大人が教えなくても、 彼等は自分で材料を集め、作り方を工夫し、イメージに近づけていく。自分で考え形にする力を子供達は既に持っていたのだと思います。それは「想像力」を「創造力」に変えていく力が人間の中にもともと存在している事を子供達が私に教えてくれたことでした。

コーディネーターから

自分と動物とを融合させるという、山田氏の作品の理念に立脚したプログラム。恥ずかしがりやの児童が多いとのことでしたが、皆思い思いの発想をし、造形力を発揮することができたように感じます。最終日におこなったファッションショーは圧巻でした。山田氏からは自分のことを見つめることの大事さが話されましたが、プログラムを通じ児童なりにその思いを感じ取ったのではと思われます。

先生から

本校は活動的な児童が多いので、実際に体を動かしながら工作に取り組めたのは子どもたちにとってよかったように思う。講師の先生の作品観や考え方を聞いているときは、少し難しかったようで、集中力が欠けていた。今回の授業で具体的な工作技能を教えていただくことには至らなかったが、子どもたちと同じテーマで講師の方々が作品を作ってくださったので、実際に鑑賞することができ、純粋にやっぱり美術家はすごい。」と感じている児童も多く、とても良い経験になった。今後もプロの技を身近で感じることができる機会がどんどん増えるとよいと感じた。

子どもたちから

半人半獣の着ぐるみをつくることがとてもわくわくした／ハヤブサになりきって楽しかった／先生にアドバイスをしてもらって、うまく作ることができた／先生のお話に興味がもてた／みんなと一緒に作った／羽がこわれた／図工を好きになった／自分で考えた作品が思いどおりにいかなかったけど作れた／アイデアがふえた／思いどおりに作れなかった／発表が印象に残りました。同じ羽でもつくり方がちがったり、顔を作る時も紙袋で作る人や段ボールで作る人などいろいろあっておもしろかったです／山田哲平先生の頭の中いろんな動物がうかんできたというのが、とてもすごいと感じました／作品を作り終わったあとの喜びを味わうことができました。

美術

公田小学校 + リリス
日本画と造形美術(1)

担当アーティスト	永吉秀司（日本画家）
実施校	横浜市立公田小学校（栄区）
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／5･2･1 学年の個別支援 1 学級、4 人対象
実施日程	2010 年 9 月 10 日、9 月 15 日

授業のねらい

公田小学校の象徴である「白鷺」をはじめとした動物をモチーフにした、モビール作りを行う。なるべく全員で参加できるものを希望。制作・完成を通してみんなが達成感を得られるものが良い。学校で展示することも踏まえて、モビール作りを提案。学校の近くに源流を持つ「いたち川」や動物のモビール作りを通して、地域への愛着や作品づくりの楽しさを味わう。

授業の進行

（1 日目）胡粉を使用した装飾、モビールの組み立て。（2 日目）砂子を使用した装飾、生き物たちの絵を描く。

アーティストから

子どもたちが非常に耳を傾けてくれて、集中して作業に望むことができた。少人数のため指導もしやすく、材料も贅沢に使用することができ、日本画の技法に興味・関心を持って取り組んでくれたのでは、と思う。生き物の絵を描く場では、見本を用意したことで子どもたちもイメージがしやすく、とりかかりが早かった。授業時間について勘違いがあり、終盤焦ってしまった。

コーディネーターから

「胡粉」「砂子」という珍しい日本画の技法に触れ、道具の使い方や素材などにも興味を持って取り組んでくれたようだ。2 日目の砂子の撒き方では子どもたちが自分で工夫して表現することもできた。全体的には、子どもたちが自由に発想できる選択肢が少なかったように感じる。人数の少なさや子どもたちの体力・集中力を考慮しつつ、学校の先生からのオーダーである「達成感のあるものを」という目標をクリアするための方針であったが、もう少し時間があれば、ダイレクトに子どもたちの気持ちを引き出せる表現ができるのでは、と感じた。

先生から

今回初めてプログラムに参加して、子どもたちがいつもの授業では、体験できないような材料や方法を用いることができ、とても喜んでいる姿が印象的でした。また、作品のほね組が「うちわ」でできているということで、身近な材料を使っていること、また、子どもたちが親しみやすいように地域にある生き物「しらさぎ」を作っていくということで、子どもたちも「あのしらさぎは、いたち川にいる」という想像よりも実際に歩いたことのあるいたち川の中にいる生き物ということが絵を描いていく上で、とても描きやすかったと感じている。今回このような計画をたてていただきありがとうございました。いつもと違う授業、先生に教えていただき、子どもたちにとってもとてもよい体験ができました。来年度も応募したいと考えています。

子どもたちから

金粉をふりかけることが楽しかった。

美術

伊勢山小学校 ＋ テアトルフォンテ
日本画と造形美術(2)

担当アーティスト	永吉秀司（日本画家）
実施校	横浜市立伊勢山小学校（泉区）
コーディネート	泉区民文化センター　テアトルフォンテ
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／2 学年、2 学級、59 人対象
実施日程	2010 年 11 月 4 日、11 月 11 日

授業のねらい

目標：造形創作を通し、自分の「思い」「気持ち」「創造力」を形に表す。(砂子、くいさきなどの手法を取り入れ、クラスで一つの龍の絵を完成させる）1 クラスごとに一つの大きな絵を作成します。みんなで一つの絵を作成することで、自分の思い、気持ち、創造力を形に表し、枠にとらわれない伸び伸びとした表現ができることを目標にします。また、絵を作成する過程で、伝統技能の表現を取り入れることにより、様々な表現方法を体験し、表現の幅も広げられるようにしたいと思います。

授業の進行

（1 日目）パネルに龍を貼る位置を決める。砂子を使用してパネル全体に装飾を施す。（2 日目）くいさきの手法を用いて、龍の周りに貼る雲を作成しパネルに貼る。完成した絵を鑑賞。(昔の人が灯明を用いて絵を見ていたことを体験する）

アーティストから

教育実践の中において、多動傾向のある子どもを目の当たりにし、打ち合わせ当初においてはそのような傾向の子どもはいないと聞いていたため、躊躇することもあったが、総じて児童の聴講態度も良好で、制作に関しても集中して取り組む姿勢がうかがえ、良かったと思われる。しかし、事前の打ち合わせでは物品の保管等について学校で可能と言われていたのが、実際ではそうでなかったりなど、当日の変更事項が多くみられたため、今後は、小学校側との企画運営に関する再確認を最重視したい。

コーディネーターから

「砂子」「くいさき」などの日本画の技法を取り入れ、クラスで一つの絵を作成しましたが、道具や素材などが珍しいこともあり、子どもたちが興味を持って作っていました。４～５人を１グループとしたので手伝い合いながら作業をしたり、パネルに龍や雲の絵を貼る位置を決めるのも、クラス全体で意見を出し合いながら進められたのは良かったと思います。また、昔の人がどのように絵を見ていたかを体験してほしいというアーティストの提案で、完成した絵を和蝋燭の灯りだけでみるなど、子どもたちには貴重な体験になったと思います。運営全体に関しては、学校・アーティストとの調整などをはじめ、様々な対応ができるよう、改善していきたい点がありました。

先生から

今年度は、体験型の美術系のプログラムでお世話になりました。該当の２年生の児童は大変元気のよい個性的なお子さんが多く落ちついて取り組めるか多少不安もありましたが講師の先生の対応と題材の素晴らしさで、子どもたちも夢中になって取り組みました。特に金粉や和紙といった日本の伝統工芸の技を体験でき、出来上がった作品をろうそくのゆらぎの中で鑑賞するなど、初めての経験に大喜びでした。継続して実施することで子どもたちの感性も豊かになると考えます。是非来年度も実施できればと思います。

子どもたちから

雲をつくるのが楽しかった／昔のやり方を学べた／和紙と画用紙の違いを知った。

美術

鴨志田第一小学校+横浜市民ギャラリーあざみ野
自分の作った色で自分の花を描こう

担当アーティスト	うめぐみ（ワークショップアーティスト）
実施校	横浜市立鴨志田第一小学校（青葉区）
コーディネート	横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／2 学年、2 学級、67 人対象
実施日程	2011/01/18

授業のねらい

２つの活動を行った。＜色水のオリエンテーリング＞あか、あお、きいろ、しろの４色のポスターカラーを使い、水の入った容器に色を混ぜながら桃、朱、水、黄緑、緑、紫、茶色の７色作りに挑戦した。＜自分の花を描こう＞教室の床いっぱいに広げた紙の好きな場所に自分でつくった色で自分の描きたい花を描いた。

アーティストから

よく話を聞いて自分で工夫する様子が見られました。同じ指導を受けながら、一人ひとり個性的な表現ができました。

コーディネーターから

この活動はえのぐの導入と描画への指導のあり方の基本となるワークショップで、現場の教師の育成の面を持っている。

先生から

活動全体を通して、子どもたちの意欲が高かったように思う。色づくりも、見本のカードの色を参考にして“加減”を意識しながら行うことができていた。２年生には難しい用語が少し多かったように思う。(視覚的な掲示物などと一緒に説明していただけると、学習としてもさらに深まると思うので。)気もちよく、のびのびと絵を描く子どもたちの姿が印象的だった。

美術

永田中学校 + 横浜市民ギャラリー
アー写を撮ろう！

担当アーティスト	池田晶紀（写真家）
実施校	横浜市立永田中学校（南区）
コーディネート	横浜市民ギャラリー
実施科目・教科名	美術
実施概要	体験型／写真／3 学年、4 学級、147 人対象
実施日程	2010 年 9 月 15 日、10 月 27 日、11 月 5 日

授業のねらい

写真は記録を残すという揺らぎない特徴を持っています。写真を見ることでよみがえる記憶は、人をノスタルジックな気分にさせます。中学 3 年生という節目の年に、自分を深く見つめ、積極的に残す記録は、後年彼らがそれを見たときに様々なことを思い起こさせる、とっておきのプレゼントとなることでしょう。生徒がプログラムを理解し、自分を掘り下げることができるよう、導きます。

授業の進行

（1 日目）講師によるスライドを使っての自身と制作コンセプト説明、WS 内容説明。（2 日目）池田氏による生徒の撮影（全クラス）。（3 日目）2 日目に撮影した作品を投影しながらの、WS の振り返りと講評。

アーティストから

昨年に引き続き、卒業にあわせ、未来に残すための思い出をテーマに実験的なワークショップをやらせてもらう事が出来ました。今しかできない環境を未来の自分をどう楽しんでもらえるか？どうかはまだ、答えのわからないところではありますが、少なくても、参加してもらった生徒さんの写真作品はとても素晴らしいモノで、とても感動的なモノでした。制作にあたって、ご協力いただいた、市民ギャラリーのみなさまと先生に感謝しております。ぼくらにとっても、とても良い勉強になりました。ありがとうございます。

コーディネーターから

昨年度に引き続き、池田晶紀氏と組んでのプログラム。今回は対象が中学生ということで、衣装や設定なども含めた総合的な身体表現を生徒の側がより自分たちで考え、実効する内容となりました。プログラムは、生徒の表現と池田氏の写真によるコラボレーションだったともいえるでしょう。撮影会は楽しく進み、完成した DVD には生徒の個性が浮き彫りとなった写真が収められ、よい思い出をつくる一助となったと感じます。

先生から

この度は大変お世話になりました。、市民ギャラリーさん、そして池田さんとそのスタッフさんとも「子どもにアートで何ができるか」と真剣に考え、取り組んでくださる気持ちが伝わり、私も「もっとがんばらねば」と感じました。子どもたちには最初は話だけをしていたのですが、少々不安に感じていたようです。しかし、やってみたら「とても楽しかった」と感じてくれた子どもが多く嬉しく思いました。普段はあまり気持ちを表に出さない子どもの思わぬ姿を見ることができました。ありがとうございました。また機会があれば実施したいです。

子どもたちから

普段の授業で体験できないことができた／中学校の思い出になった／プロの池田さんの写真がすごい／池田さんがおもしろい／写真を撮るのが楽しかった／池田さんの感じが苦手／撮るのはよいがみるのがいや／自分をみつめられた／写真のおもしろさがわかった／表現力がみについた／1 秒一瞬が大切だということがわかった／やる気になれば何でもできる、ということを学んだ／将来必要のない知識だから／最初ははずかしかったけどやってみたらすごく楽しかった／その瞬間を共有できることだと気付いた／思い出が残せた／池田さんが楽しかった／考え方がよくわからない。

美術

汐見台中学校 ＋ 横浜美術館
立体映像で日常を再発見

担当アーティスト	楠かつのり（映像作家 ・ 音声詩人）
実施校	横浜市立汐見台中学校（磯子区）
コーディネート	横浜美術館
実施科目・教科名	美術
実施概要	体験型／映像／1 学年、4 学級、151 人対象
実施日程	2011 年 2 月 1 日、2 月 2 日

授業のねらい

3D（ステレオ・３次元・立体視）という考え方は、古くからあり、写真の発見からステレオ（２つ並んだ）写真と写真機や専用スコープ等が発達すると同時に１８００年代、１９００年代にヨーロッパから、奥行き、空間性を感じるようになり、様々な分野に広まった。現在、テレビや映画で盛んに３D 映像が紹介され、アートの世界にも刺激をあたえている。今回は中学生が、ステレオ写真や立体映像を見たり、立体撮影の体験をし、最後に再生ソフト､プロジェクターによる投影をする事により、3D 手法の時代による変化、表現の多様性を知ってもらう。また、人間には奥行きを感じるために 2 つの目があるということを再確認する。

授業の進行

３D のしくみ、ステレオ写真から。3D 映像をみる。グループで撮影、その後自分たちの 3D 写真をみる。

アーティストから

このワークショップでは、これまでの 2D の写真や動画にはなかった立体感を体感してもらいました。ワークショップに参加してくれた中学生たちは、両目で見ているものを立体的に見ていると普段自覚することはありませんが、3D 映像を実際に撮影して見ることで立体的にものを見るという認識ができたと思います。そして、この認識が今後の美術教育にも良い意味での影響をもたらすことでしょう。中学生たちのテンションの高い反応を通して、3D 映像がもたらす新たな映像表現に期待が持てると感じられたワークショップでもありました。

コーディネーターから

３D 映像ワークショップの出張を行う事は、機材等の面でも大変困難な事です。まだ美術の世界や、教育現場にもそれほど浸透していない３D 映像を、中学校でも受け入れ実施できた事はすばらしいと感じました。しかし、すでに世間では、映画やテレビで 3D 映像を紹介しアートの世界も刺激されてきています。少しでも 3D とは何かという事に触れられた事は大変大きな成果ではないかと思います。ご尽力いただいた、楠かつのり氏とアシスタントの皆さん、担当教諭の島津先生もお疲れさまでした。

先生から

生徒には立体視の説明が難しいのではと懸念したが原理の説明に強く興味をひかれた生徒も多く、鑑賞場面では嬉々とした表情で空中に手を伸ばし映しだされる映像をつかもうとしていた。また、６～７人のグループに３D カメラ１台と学生さん１人という環境があり１時間の授業でオリエンテーション→鑑賞→体験→鑑賞という密度の濃さが可能になった。教員は授業とのつながりを考え事前指導に意識がいったが、反対に感想を書く時間が短く十分に言葉を引き出せなかったので体験授業後にまとめの時間をとれるように工夫をすればよいと思った。

子どもたちから

人との（講師・スタッフの学生さん）ふれあいが良かった／３D 映像の迫力が良かった／説明が楽しかった／３D カメラの撮影体験が良かった／人の目のしくみや３D にみえる写真のしくみについて知った／美術の授業では粘土で靴をつくっているが「立体」につくるということがどういうことか、わかった／３D はなぜとびでてるのか、それからじぶんたちがとった写真や見せてもらったえいぞうが生でみているようで、とてもおもしろかった／美術の時間がとても楽しい時間ということ／自分の前でおよいでました。自分でとった写真が、おくゆきがすごかった。

美術

大正中学校 + 横浜美術館
絵具の し・く・み

担当アーティスト	鈴木淳（画家／絵画保存修復家）
実施校	横浜市立大正中学校（戸塚区）
コーディネート	横浜美術館
実施科目・教科名	美術
実施概要	鑑賞型／絵画／1 学年、5 学級、190 人対象
実施日程	2010 年 11 月 15 日、11 月 16 日

授業のねらい

昨年度のプログラムをベースにデモンストレーションを交えながら画材や絵画の保存・修復についてのレクチャーを行う。中学生たちが普段使用している画材も含め、美術館に展示されている絵画などが、どのような画材で描かれているのかなどの知識を深めてもらうとともに、美術館に展示されている作品が、様々な人々の手により大切に維持され、未来に向けて受け継がれて行くべきものであることを理解してもらうことをねらいとする。また、今年度は、学校教育との関連をより深めるため、事前に学校側担当教諭による予備的な授業を実施。プログラムでは、それを踏まえてアーティストによる、より専門的な授業を展開する。また、プログラム終了後の鑑賞教育にもつなげるためにプログラム実施期間中に横浜美術館で開催されている「ドガ展」に関連した話題（パステル）を盛り込む。

授業の進行

絵を描くために使う絵具の役割としくみについて。講義、資料提示、絵具作製デモンストレーション。

アーティストから

中学校教諭，横浜美術館コーディネーターと昨年の反省をおこなった。３者の連携を強めるために、多くのパステル画が出品されている横浜美術館「ドガ展」鑑賞を念頭に，絵具の作製実演にパステルを加えた。中学校教諭の事前授業により本企画授業の導入も順調であった。本企画の目的は生徒の「知る機会、考える機会」を増やすことにある。当方は実演で見せる絵具の作製準備を重ね、パステル画の作例も制作した．生徒とともに実習ができればより好いが、実演だけでも「機会」を与える工夫はできたと感じる。

コーディネーターから

今回は、昨年と同じ学校、アーティストでの実施ということもあり、非常にスムーズに授業を開催することができました。担当の先生による予習授業の効果もあり、生徒の皆さんの興味の持ち方や理解度は高かった様に感じます。この後、展覧会を利用した鑑賞教育にうまく繋げていただければと思います。

先生から

昨年度に引き続き、二年目ということもあり準備段階から授業実施まで、鈴木先生や横浜美術館の柳川様とのコミュニケーションを密にとりながら進めることができました。お二人のご尽力のおかげで、本番の授業では生徒たちも大喜びでした。今回横浜美術館で開催中の「ドガ展」との関連で鈴木先生にはパステルのつくり方も実演していただきました。鑑賞の授業や美術館への誘いへとつなげることができました。しかしこれは私自身の反省なのですが、この様なまたとない機会を生徒たちの学びや生活にもっと深く結びつけ活かすための工夫が必要であると考えます。私たち学校現場の責任に負うところが大きいとの自覚を持っていきたいと思います。今後も連携の中でよりよい方向性を見い出していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

子どもたちから

先生がおもしろかった／絵の具づくりがおもしろかった／説明がわかりやすかった／絵の具のつくり方が分かった／これから絵の具を使う時、違う感じを持ちそう／目の前で顔料や媒材を混ぜて、絵の具を作るのが見られてよかった／自分でも絵の具を作ってみたい／修復の大変さ、すばらしさが分かった

美術

鴨志田中学校 ＋ 横浜市民ギャラリーあざみ野学校展覧会

担当アーティスト	志村信裕（映像アーティスト）
実施校	横浜市立鴨志田中学校（青葉区）
コーディネート	横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名	美術
実施概要	体験型／映像／全学年、250 人対象
実施日程	2011 年 2 月 7 日、2 月 8 日、2 月 9 日

授業のねらい

校舎のピロティ壁面に志村信裕の作品を映し、そこを展覧会場にし、子どもたちに自由に見てもらう。３日間の午前中、各学年ごと、志村信裕が自身の作品の解説をしながらコンテンポラリーアートについての授業をする。

授業の進行

私の映像作品について。

アーティストから

１日目は話をする自分も聞く子どもたちも緊張しているのが分かった。２日目からは要領を得て、リラックスをして話が出来た。作品を映しながらの話なので子どもたちは退屈をしないで見入ってくれたと思う。感想や質問は恥ずかしがって中々出てこなかったが、展覧会場の廊下で親し気に話しかけられた。

コーディネーターから

中学校の美術にコンテンポラリーアートは欠かせられないもので、中でも映像はまさに今の表現形態なので、映像作家は子どもになじみやすいと思った。

伝統芸能

新鶴見小学校 + 横浜こどものひろば
元気一番太鼓

担当アーティスト	荒馬座（民族歌舞実演家）
実施校	横浜市立新鶴見小学校（鶴見区）
コーディネート	特定非営利活動法人横浜こどものひろば
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／和太鼓／4 学年、4 学級、119 人対象
実施日程	2010 年 12 月 9 日、12 月 10 日

授業のねらい

新しい表現と出会い、楽しく、元気よく、思いっきり体を動かす。友だちと協力し合い、力を合わせる。

授業の進行

（1）荒馬座による見本演奏（座員４名）、太鼓の楽しさや勇壮さなどを感じて頂けるような演目を紹介します。元気一番太鼓の振り付け、リズム、掛け声、バチの持ち方等、太鼓演奏入り口の練習をします。／生徒さんには、１０人で１班を作って頂きます。（2）「元気一番太鼓」という演目を演奏して頂きます。振り付け、掛け声等も入れ、１０人が入れ替わって打ち続ける演目にしていきます。（3）仕上げの練習と仕上げの演奏を行います。

アーティストから

とても元気な子どもたちで、叩けば叩いた分どんどん楽しくなっていく様子が手に取るようにわかりました。また、先生にも子どもたちに混ざって叩いてもらったり、講師の見本にも加わってもらう中で、座員や先生の一生懸命叩く姿を子どもたちが真剣なまなざしで見ている姿も見られ、全体の雰囲気を良い方向へ導いていくことができたように思います。元気に叩き、友達が叩いている時にも歌い踊る子どもたちに、今回取り組んだ「元気一番太鼓」が合致し、「元気一番！」という言葉がぴったりな子どもたちに出会えた事を嬉しく感じています。

コーディネーターから

学校との意思疎通、目標設定、実施内容等が明確であった。アーティストもその点をよく理解され当日に活かして頂いた。しかし、それ以上に子どもたちの表現が素晴らしかった。カラダ全身でリズム、振り、掛け声を発声し、「はねと」の様に子どもたちが揺れている。太鼓の前で足を開き、腰を落とし、バチを握り思い切り振り落とす。気持ちが高まりひとまとまりになってゆく。最終版、ほぼ全員が立ち上がり体育館中が子どもたちの踊りで揺れて、気持ちのいいエネルギーが満ち溢れたのは素晴らしかった。

先生から

まず第一に本物に触れる機会を子どもたちにもたせてあげられたことがよかったです。荒馬座の方々の最初のデモンストレーションで、子どもたちは一気に和太鼓の世界に引き込まれ、２日間楽しんで練習できました。４年生ということもあり、なかなか上手く言葉にできないようでしたが、「日本の昔の音楽の感じがわかった」「練習すればするほど思ったより上手になれた」等、子どもたちなりに日本の伝統を感じていたようです。また、荒馬座の方々が子どもと接するのに慣れておられたことも有り難かったです。ありがとうございました。

子どもたちから

初めて太鼓を演奏して、最初にやった時は、むずかしかったけど、だんだんなれてきて、おもしろかったです／さい初のほうからくわしくおしえていただき、さい初にたたいたとき、バチも重くて、思ってたよりもむずかしく、でもたたいていくとだんだん楽しくなって、なれてきました。

伝統芸能

寺尾小学校 + 久良岐能舞台
狂言を体験しよう(1)

担当アーティスト	善竹富太郎、善竹大二郎（大蔵流狂言師）
実施校	横浜市立寺尾小学校（鶴見区）
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語・総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型／狂言／4・5・6 学年、362 人対象
実施日程	2010/11/11

授業のねらい

普段接する機会の少ない「伝統芸能」に実際に触れ、鑑賞と体験を通し狂言の面白さや素晴らしさを体感することで、伝統芸能をより身近に感じることを目標とする。子どもたちが親しみやすく、より関心を示すように、事前にレジュメを配布し、事前学習を各学校で実施する。横浜市内の多くの小学校で教科書に取り上げられている狂言の演目「柿山伏」を実際にプロの狂言師による舞台を鑑賞した後に、狂言の簡単な動きや発声法を体験し、総合的に狂言の魅力や面白さを学ぶ。

授業の進行

（鑑賞：小学校４～６年生参加）狂言解説、狂言「柿山伏」鑑賞、質問コーナー（体験：小学校６年生参加）狂言ワークショップ、質問コーナー

アーティストから

鑑賞時間では参加人数が多く、最初はざわつきが目立ちましたが、「空気を読んで鑑賞してください」と話したら、まさにその通り空気を読みながら笑ったり集中して鑑賞したりと、鑑賞態度も素晴らしかったです。体験でも先生方が一緒に参加してくれて、学校全体が狂言で繋がったように感じました。質問コーナーでも事前に質問を考えていて発表してくれたので中身の濃い時間となりました。小学生は素直で、いろんなことに興味を持って意欲的に取り組む年頃です。その頃に狂言に触れ、体験する事が最も効果的で大切だと感じています。今後も継続して実施し、横浜市内小学校全制覇を目標に企画していただけたら、と思います。どうぞよろしくお願いいたします。

コーディネーターから

担当された先生が熱心にいろいろと考えて下さって、最初は６年生のみ参加の予定を、鑑賞に関しては４、５年生も参加するように提案して貰い、多くの子どもたちが狂言を楽しむ事が出来ました。事前に私が学校へ送った狂言の説明や解説のプリントを、先生がコピーして子どもたち全員に配布して下さり、当日もそのプリントを片手に子どもたちが楽しんでいる姿を見て理解や関心度が高い学校だと感じました。

先生から

実際に、プロの方の迫力ある演技を見て、子どもたちは吸いこまれるように見入っていました。文語体の言葉が難しいと書いていた子どももいましたが、仕草で何を言いたいのかが伝わり、笑っていました。また、小道具の使い方も、１つの道具で多様な表現をしていることに驚きました。見るだけでなく、子どもたちに笑い方や立ち方を体験させて頂いたおかげで、メリハリのついた時間になり、集中して最後まで見ることができました。このことを通して、狂言に関心をもった子がたくさんいたので、とても嬉しいです。

子どもたちから

声の出し方は難しい言葉の勉強になった／今日楽しかったので、他の話も見てみたいと思った／姿勢や声の出し方、長いセリフを覚えるなど大変／３歳から練習しているだけあってすごいなと思った／言葉が難しかったけど、動きを見て想像したりするのが楽しかった／役になりきった表現力のすごさに驚いた。言葉がわからなくても楽しかった／１つの道具でいろんなものを表現できるところがすごいと思った／昔のお笑いなのに今に通じて楽しむことができたのがすごいと思った／室町時代の伝統芸能を生で見ることができてよかった／わからない言葉も聞いているうちに耳が慣れてきて意味がわかってきた／教科書で読んでもよくわからなかったけれど、実際に見て意味やおもしろさがよくわかるようになった／見た後に実際にすり足など体験して難しさや凄さがわかった／普段の声と演じているときの声の違いにとても驚いた／男と女で驚き方が違うことにびっくりした／笑い一つでもいろんな表現があることがおもしろかった／人間のあやまちをゆかいに表現している狂言は、おもしろいなと思いました。私が一番おもしろいなと思ったのは、山伏が畑主に見つからないように、いろいろなまねをするところです。確かに人間にはそういう隠そうとするところがあります。でも、あのようにおもしろく表現しているのは、狂言ならではの特徴なんですね。これからも、たくさんの人に狂言のすばらしさを伝えていってほしいと思います。ありがとうございました

伝統芸能

羽沢小学校 ＋ よこはま音楽広場実行委員会
箏を体験しよう

担当アーティスト	吉澤延隆（箏・十七絃箏）
実施校	横浜市立羽沢小学校（神奈川区）
コーディネート	よこはま音楽広場実行委員会
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／邦楽／4 学年、3 学級、107 人対象
実施日程	2011 年 1 月 26 日、2 月 2 日

授業のねらい

邦楽に触れる機会をもたせたい。琴ならば取り組みやすいのではないかと思い応募した。少しでも日本の伝統音楽を感じて学ぶ機会にしてもらいたい。

授業の進行

（１日目）アーティスト演奏、箏の紹介と体験、「さくらさくら」練習。（２日目）個別練習、ミニコンサート。

アーティストから

今回、各グループ内で楽器を順番に体験し、ミニコンサートも順番に行ったことで、結果的に「友達の演奏も聴く」「自分の演奏も聴いてもらえる」という形になり、それをクラス全員で楽しむことができたようで、とても嬉しく思いました。初めての箏を、間近にいる友達の前で精一杯演奏した今回の経験が、大きく成長してからも思い出に残っていれば、日本の音楽や文化へ感じることも違ったものになるのでは、と感じた二日間でした。

コーディネーターから

学校全体が協力的でした。箏や道具の運搬は、他の学年の先生や用務員、校長先生までお手伝い頂き、中休みには他学年の児童も対象とした特別コンサートを依頼されるなど、学校中が興味を示して下さったことが印象に残っています。また、対象学年のみの縦断的な実施に終わらず、特別コンサート後には箏に興味を持ち、触れにくる児童が多数いたりと、学年を跨ぐ横断的な実施の可能性を感じました。

伝統芸能

本牧南小学校 ＋ 荒馬座
エイサーを体験しよう

担当アーティスト	荒馬座（なし）
実施校	横浜市立本牧南小学校（中区）
コーディネート	荒馬座
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／エイサー／5 学年、2 学級、54 人対象
実施日程	2010 年 9 月 2 日、9 月 7 日

授業のねらい

毎年、運動会で５年生が取り組んでいるエイサーをプロの人たちの実演を間近に見たり、踊りの意味を知ることでイメージを膨らませ、自分からやりたいと思えるきっかけにしたい／表現することの楽しさをこの授業を通して体感して欲しい

授業の進行

（１日目）エイサーの南嶽節・唐船ドーイを覚えよう。（２日目）前回の復習と体形移動も入れて簡単な構成を作り、クラス毎に見合う。

アーティストから

暑い体育館の中でも子どもたちが最後までしっかり集中し、踊りやかけ声・歌も覚えてやり通していた。比較的難しい踊りだったと思うが、子ども達の動きに合わせた三線の生伴奏で繰り返し踊る事で、雰囲気をつかみ踊りそのものを楽しんでくれていた。「難しかったけど楽しかった」「座員のエイサーがみられて良かった」など複数の子どもたちから積極的に感想が出てきた事も嬉しかった。

コーディネーターから

学年全体が落ち着いていて、暑い体育館での授業でも話をしっかり聞いて、講師の言うことを実現しようと意欲的に取り組んでいました。運動会へ向けてモチベーションを高めたいという目標も概ね達成できた様子でした。教材として購入していた楽器「パーランク」が今回の踊りの質からすると若干強度不足だったので、事前にどのようなものかを確認していれば、多少の無理をしてでもクッキー缶を使った手作り太鼓を勧めた方が、子どもたちの楽器や踊りに対する愛着もわいて尚、良いものになったのではないかと思った。

先生から

「本物を見る」という機会が少なくなっているように感じる。今回、荒馬座の方々にエイサーを見させていただいたことで、子どもたちは運動会でエイサーを踊りたい、私達も同じように格好良い踊りをしたい、と思うようになった。子どもが、テレビやインターネットを通して見る物ではなく、本物を見たことで意識が変わっていったところを目の当たりにし、改めて子どもたちが本物に触れることの大切さを感じた。

子どもたちから

つかれたりしたし、あまりおぼえられなかったけど、楽しかったです／最初は全然できなかったけど、最後にできてうれしかった／リズムなどを使ったりした／ぼくは、こんなすごいのがおどれた勉強になった／エイサーの練習は難しかったし、大変だったけれどたくさん練習して、最後には全部踊れたのが、うれしかったです

伝統芸能

藤の木小学校 + 吉野町市民プラザ
箏を通して日本の音色を知る(1)

担当アーティスト	米澤浩（尺八）、熊沢栄利子（箏）
実施校	横浜市立藤の木小学校（南区）
コーディネート	吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／邦楽／6 学年、3 学級、113 人対象
実施日程	2010 年 10 月 14 日、10 月 28 日、11 月 19 日

授業のねらい

日本の代表的な伝統楽器である「箏」を使い、日本古来の音色に触れ、実際に演奏する機会を提供します。児童１人に１面の箏を用意し、絵のイメージから音づくりを始め、自由に演奏しながら箏の音色を楽しむとともに、馴染み深い『かえるの歌』などを演奏していきます。今回は、学校側からの要望でありますす「さくら」をプログラムに組み込み合奏を楽しみます。最終日には、「兄弟学級」や保護者の前で演奏する機会も設けます。

授業の進行

（１日目）箏と尺八の演奏鑑賞、イメージの音作り、「かえるの歌」演奏。（２日目）「かえるの歌」合奏、「さくら」練習(学校をひらく週間で保護者、他学年の見学あり)（３日目）「かえるの歌」、「さくら」合奏発表(他学年、保護者見学)、「春の海」鑑賞。

アーティストから

藤の木小学校におけるワークショップは、回数を重ねたことにより学校側の受け入れ態勢はもちろん、成果発表を下級生クラスや保護者も多く鑑賞し、全学的にワークショップの成果に触れることが定着した。又、本来ワークショップリーダー６名程度で実施する「YK プログラム」だが、財団職員の方々のサポートにより、体育館に箏 40 面を設置して実施するワークショップの準備等も滞りなく整えられ、事業として回数を重ねて来たことで、多面的に期待以上の成果が得られていると思います。

コーディネーターから

初めて触れる箏、一人一面使ってまずは自由に触れることからスタート。子ども達が活き活きとどんな音が出せるか挑戦する姿が印象的でした。五線譜が読めないために音楽が苦手になってしまった子も、箏の譜ならわかりやすく数字だけなので、音楽を違った側面から感じることができたと思います。講師のお二方の素晴らしい演奏を身近に鑑賞させていただいたり、準備や片付けもこどもたちと先生たちと一緒にやらせていただいたり、総合的に邦楽の魅力を味わえる貴重な機会でした。ご尽力いただきましたすべての皆さまに感謝いたします。

伝統芸能

鳥が丘小学校 ＋ 横浜市芸術文化振興財団
落語を体験しよう

担当アーティスト	桂枝太郎（落語家（真打））
実施校	横浜市立鳥が丘小学校（戸塚区）
コーディネート	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／落語／6 学年、4 学級、135 人対象
実施日程	2010 年 11 月 9 日、11 月 15 日、11 月 16 日

授業のねらい

古典（落語）に親しんで、その中で話し方での抑揚のつけ方等表現方法や話し方を学ぶ。実際にアーティストから課題落語「つる」を出していただき、発表を希望する児童が考えてきて発表する。それをクラス全員で聞いて自己表現やコミュニケーション手段としての声の出し方、自分の気持ちを伝えるヒントを取得する。合わせて、謎かけをクラス全員が考え、発想の転換や言葉の面白さを体感する。

授業の進行

（１日目）落語について／落語や寄席の成り立ちを知る／課題となる落語を鑑賞する。（２日目）覚えてきた落語の発表会／大喜利～謎かけ（１クラス２日間のため、４クラスを２回にわけて２日目を実施）。

アーティストから

去年に続き鳥が丘小学校にて落語の授業をさせていただきました。正直、落語家が人様に教えられることなどないのですが、落語を通して人前で何かを表現したり、日本の伝統芸能にふれる機会をつくれたらと思い、お受けさせていただきました。現代の一般的な若者の風潮として「自分では行動を起こさないくせに、行動している人間を馬鹿にする」というものがあります。私が一番伝えたかったのは「行動する勇気」でした。立候補した児童たちは、仲間と分担して演じるなど、助け合って発表を成し遂げてくれました。

コーディネーターから

昨年と同様に落語を通じて、日本の歴史的な文化・風土にふれること、落語ならではの手法で自分の言葉で人に何かを伝えること、言葉の面白さにふれることを子ども達が体験できる機会になれればと思いました。課題発表では、子どもたちが、クラスメイトと登場人物を分担して落語を演じるなど、助け合いながら課題に取り組んでいる姿勢が印象的でした。謎かけでは、テレビ番組の影響もあり予想以上に積極的な姿勢が見られました。言葉を使って発想することの面白さを感じてもらえたと思います。また今年度はお囃子のお師匠も参加いただき、太鼓や三味線も紹介することができ、より充実したプログラムになりました。

先生から

演目（「つる」）は、子どもたちに受け入れられ、笑いがおこりました。子どもたちにとって、着物・手ぬぐい・扇子等は、ほとんど非日常の物になっています。間近に見ることができ、その扱い方の演示には、興味を示していました。代表の子どもたちも演じ、友だちに認められる機会があったのは、とてもありがたかったと思います。他の児童もなぞかけの発表ができて良かったと思います。「だじゃれ」は古典芸能という視点からは、少し違和感がありました。「ことば」を大切にした「笑点」もどきのとり込みも子どもが体験できても良い気がします。（「なぞかけ」を数名が前に出てきてやるのも）２回目の体験は、学年同時で２時間つかう、または２クラスずつ１．５時間でもよかったと思いました（６年生は行事等が多く、授業時数の確保が難しいため）。

子どもたちから

めったにできないこと／「つる」がおもしろかった／代表の友だちの落語の出来がよかった／地味な感じがした／出囃が同じように聞こえた／落語に興味がもてた／なぞかけのつくり方がより分かった／前に出て頑張ること／学ぼうと思ったわけではなく、楽しんだのみ／おもしろかったが、将来的に生かすことがない／落語に興味がなかったが、少し関心がわいた／代表で前に出た友だちの勇気がすごい／一人で何役もできるのが、すごいし、おもしろい。

伝統芸能

南舞岡小学校 ＋ 荒馬座
荒馬踊り

担当アーティスト	荒馬座
実施校	横浜市立南舞岡小学校（戸塚区）
コーディネート	荒馬座
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
実施概要	体験型／荒馬踊り／4 学年、2 学級、58 人対象
実施日程	2010 年 10 月 27 日、11 月 15 日、11 月 27 日

授業のねらい

・荒馬踊り体験が５年生で行う稲作と深く結びついている事を知り、米作りへの意欲を高める取り組みとする。・思いっきり体を動かし表現することの楽しさと友達と一緒に踊る楽しさを感じる。・学校の伝統として「荒馬踊り」を受け継ぐ。文化庁「子どものための優れた舞台芸術体験事業・派遣事業」と連携して実施

授業の進行

（１日目）荒馬踊りが踊られている背景や振りの意味を知り、基本の振りを踊ってみる。座員による見本の踊りを見て、イメージを膨らませる。（２日目）馬・はねとに別れて練習。道具をつけて踊り、構成を考える。全体を通して踊りきる。（３日目）踊りの復習。踊りの披露。

アーティストから

事前の取り組みもしっかりできていて、１日目のあとには復習をしているので、２日目はすぐに次の段階に進め、大変助かった。お囃子担当の子どもたちの上達にも目をみはるものがあった。前年度からの引き継ぎでは、道具の管理ができていないので、事前に点検をお願いしていたにも関わらず、馬の部品がなくなっていて１日目に道具をつけて踊れなかった。馬の傷みも激しいので新しく作り直す必要がある。

コーディネーターから

今年も５年生からの引き継ぎが事前に行われていたので、子どもたちのやる気がすでにあり、スムーズに進行していた。発表会は踊る楽しさを感じながら４回の披露をしっかり踊りきっていた。発表会をみていた卒業生からとても暖かい感想と励ましの言葉をもらったことは大変嬉しかった。７年の取り組みの中で、子どもたちの心の中に踊った時の感覚や荒馬踊りを通して感じたさまざな感情が新鮮に残っていることがこの中学生の発言をきいてわかった。長年実施してきたこのプログラムの一定の成果として受け止めたい。

先生から

今年で七年目となった荒馬座さんによる荒馬指導。今年は、自分たちの番だということで、子どもたちは期待に胸をふくらませていました。そして期待以上の内容であったとの声が多く寄せられました。実際の指導の場面では、二つとびや四つとびのコツ、太鼓やチャッパでのリズムのとり方や場面に応じたリコーダーの演奏のしかたなど、細かく丁寧に教えてくださいました。子どもたちは、この活動を通じて、伝統芸能のよさや、これから自分たちが学校の伝統を受け継いでいくことの大切さなど、多くのことを学ぶことができました。ありがとうございました。

子どもたちから

おどれなかったのにおどれるようになってとてもたのしかった／荒馬ができてみんなとのいきもあってた／みんなで協力することができた／これで元気になってとても楽しかった／おやにほめられた／来年の四年生にもぜひやらせてあげたい／荒馬でみんなと協力できてよかったです。みんなで荒馬をやりおえたあとすごくたっせいかんがありました

伝統芸能

港南台第一小学校 + 久良岐能舞台
狂言を体験しよう(2)

担当アーティスト	善竹富太郎、善竹大二郎（大蔵流狂言師）
実施校	横浜市立港南台第一小学校（港南区）
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語、総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年、3 学級、88 人対象
実施日程	2010/11/11

授業のねらい

普段接する機会の少ない「伝統芸能」に実際に触れ、鑑賞と体験を通し狂言の面白さや素晴らしさを体感することで、伝統芸能をより身近に感じることを目標とする。子どもたちが親しみやすく、より関心を示すように、事前にレジュメを配布し、事前学習を各学校で実施する。横浜市内の多くの小学校で教科書に取り上げられている狂言の演目「柿山伏」を実際にプロの狂言師による舞台を鑑賞した後に、狂言の簡単な動きや発声法を体験し、総合的に狂言の魅力や面白さを学ぶ。

授業の進行

狂言解説、狂言「柿山伏」鑑賞、狂言ワークショップ、質問コーナー。

アーティストから

朝早くからの授業でしたが、子どもたちがとても素直で元気よく体験できて良かった。学校の対応として、駐車場が門から遠く入り組んだところにあり困った。又、最初に用意されていた楽屋が狭かったが、再度お願いして用意して頂いた部屋で無事準備する事が出来た。今後はもっと入り易い駐車場を手配して頂けると有り難い。

コーディネーターから

港南台第一小学校は久良岐能舞台の近隣地区で、昨年は久良岐能舞台主催の「小学校向け狂言鑑賞教室」に参加した学校でした。担当された先生も、狂言を子どもたちに観せるのを毎年楽しみにしていて、とても理解のある先生でした。最初は元気がなくつまらなそうにしていましたが、解説や狂言が始まると皆興味津々で見入っていました。体験も元気よく参加し、集団としてもまとまりがあり、参加態度も良かったです。引き続き久良岐能舞台の狂言教育プログラムに参加して欲しいと思います。

先生から

能舞台を体験できず残念であったが、子どもたちは狂言について、演じ方や楽しさをよく理解できたと思う。やはり、長年その道で活躍しているプロの方の演技や話は分かりやすく説得力があり、子どもも教師も納得しながら十分に楽しませていただくことができた。そして鑑賞するだけでなく、発声やしぐさ、すり足などの基本を体験できたことも楽しく理解できることにつながったと思っている。お忙しい中をご来校頂き、本物を体験させてくださったお二人の狂言師、お世話になった担当の方に心より感謝しております。ありがとうございました。今後とも是非続けて頂くことを願っています。

子どもたちから

声や音なども一つ一つ狂言師の人が表しているところがすごいと感じた／「しぐさ」や「すり足」が難しかったが、体験できてよかった／「こっけい」の意味が分かり楽しかった／発声や声量がすごいと思った

伝統芸能

希望ヶ丘小学校 + サンハート
箏を通して日本の音色を知る(2)

担当アーティスト	米澤浩（尺八）、熊沢栄利子（箏）
実施校	横浜市立希望ヶ丘小学校（旭区）
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／邦楽／6 学年、3 学級、119 人対象
実施日程	2010 年 11 月 20 日、12 月 2 日、12 月 7 日

授業のねらい

日本の代表的な伝統楽器である「箏」の演奏を体験し、学校のOB でもある講師による尺八と箏の演奏を鑑賞することで、日本古来の音色に多様な形で触れる機会とする。
絵のイメージから音づくりを始め、自由な発想で箏に触れることで、先入観無く箏に親しみ、練習曲として、シンプルで馴染み深い「かえるの歌」から始めて、メロディーのイメージしやすい曲を、邦楽用の縦型の譜面に沿って練習する。最終日は成果発表として、保護者や他学年に向けて演奏を披露し、より多くの人に邦楽に触れる機会を設ける。

授業の進行

（１日目）自由に箏に触れて音作り。（２日目）箏の演奏の基本と練習曲（「かえるの歌」「さくら」）の反復練習。（３日目）保護者、５年生に向けての成果発表と、講師演奏の鑑賞。

アーティストから

回数を重ねたことにより学校側の受け入れ態勢を含め、下級生や保護者も含めて全学的にワークショップの成果に触れることが定着した。又、本来ＷＳリーダー６名程度で実施する「YKプログラム」だが、コーディネーターの方々のサポートにより、体育館に箏を設置する準備も滞りなく整えられた。２日目のプログラムである「音を介してコミュニケーションを図る」アンサンブル経験が、実施会場の都合で２ヵ所に分散せざるを得なかったのが残念だが最低限の成果は得られたと思料します。

コーディネーターから

学校として本プログラムを、４年生で「箏に触れ」、５年生で「このプログラムの発表会を鑑賞」し、そして、６年生で「このプログラムを体験する」という、「邦楽」授業の計画的な取り組みの一環として位置づけており、かつ、アーティストが学校のOB でもあることも手伝って、子どもたちに非常に親近感を持って迎えられました。単に継続するだけでなく、このような活用まで含めてプログラムを展開することも、今後必要になってくると考えます。

伝統芸能

左近山第二小学校 + 久良岐能舞台
狂言を体験しよう(3)

担当アーティスト	善竹富太郎、善竹大二郎（大蔵流狂言師）
実施校	横浜市立左近山第二小学校（旭区）
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語、総合的な学習の時間
実施概要	鑑賞型／狂言／5・6 学年、2 学級、81 人対象
実施日程	2010/07/20

授業のねらい

普段接する機会の少ない「伝統芸能」に実際に触れ、鑑賞と体験を通し狂言の面白さや素晴らしさを体感することで、伝統芸能をより身近に感じることを目標とする。子どもたちが親しみやすく、より関心を示すように、事前にレジュメを配布し、事前学習を各学校で実施する。横浜市内の多くの小学校で教科書に取り上げられている狂言の演目「柿山伏」を実際にプロの狂言師による舞台を鑑賞した後に、狂言の簡単な動きや発声法を体験し、総合的に狂言の魅力や面白さを学ぶ。

授業の進行

狂言解説、狂言「柿山伏」鑑賞、狂言ワークショップ、質問コーナー。

アーティストから

夏の暑さにも負けず、子供達は真剣に狂言を見てくれてすごくやりやすかった。教科書に狂言が出てきても大人（教師）ですら狂言を見たことのない人が多いので、なかなか授業では狂言の面白さを伝えることが出来ない。今回のように狂言師が出向いて生の舞台に出会える環境は必要だと思う。横浜市はそういう活動に取り組んでいて、とても素晴らしい。今後も是非続けていってほしい。

コーディネーターから

昨年はすべて秋に実施だったので、体育館の暑さを体感したことがなく、夏休み前の体育館はとても蒸し暑く、最初は子供達も集中し辛そうでした。途中から、先生が大きな扇風機を回してくれて、子供達も集中して取り組むことが出来ました。全員が参加して狂言を体験するときには、暑さも忘れて狂言師の言葉を聞き逃すことなく集中して聞きとり、子供たちが一丸となって取り組んでいる様子がとても良かったです。

伝統芸能

美しが丘東小学校 + 横浜市芸術文化振興財団
箏の音を知る

担当アーティスト	奥田雅楽之一（箏曲）
実施校	横浜市立美しが丘東小学校（青葉区）
コーディネート	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／邦楽／6 学年、3 学級、94 人対象
実施日程	2010 年 12 月 9 日、12 月 14 日、12 月 21 日

授業のねらい

日本の代表的な伝統楽器「箏」を通じて、邦楽曲と普段耳にする機会の多いクラシックやポピュラーの曲との違いや、「日本の音」「日本らしい音」とは何かについて考えていきます。さらに、１つの曲をクラス全員で仕上げていくことで、クラスの連帯感や個々の達成感を育みます。

授業の進行

（１日目）「日本の音」ってなんだろう、箏を理解して触れる。（２日目）箏になじむ。（３日目）発表会に向けてのリハーサル、発表会。

アーティストから

生徒一人一人の感覚に強く働きかけられるよう、授業が私ども講師から生徒たちへの一方通行にならないよう心がけました。時折、哲学的な思想を投げかけると面白い反応があり、生徒たちの純粋さと鋭さに改めて驚かされました。楽器に触れてもらう体験がプログラムの軸ではありましたが、講師の模範演奏に対しての反応が強かったので、演奏を聴いてもらう回数を予定より多く取り入れたのは、生徒の集中を喚起することにも繋がって良かったように思います。

コーディネーターから

本校で３年目となった邦楽プログラムは、年々下の学年の児童や保護者の方にも「6 年生になると、箏の授業がある」と楽しみにしていただけるようになってきました。ほとんどの児童がゼロから始める体験であるため、休み時間も一生懸命に練習する姿が印象的でした。

先生から

本校では、６年（３クラス）、各クラス３時間ずつ教えていただきました。まず先生のはかま姿、姿勢のよさからきりっとした雰囲気が伝わり、子どもたちも普段と違ういい緊張感の中で、活動できました。日本文化のよさや特徴を肌で感じることができたようで、これから、箏にさわることはないかもしれないのですが、一生に一度でも、じかに触れ、仲間と一緒に演奏できたことは、本当に良い経験になったと思います。次年度も、ぜひ、奥田先生におねがいできれば、ありがたいです。子どもたちが、初めてふれた箏に興味をもち独特な作法があるということを知ることができたのは、貴重な体験でした。ありがとうございました。

伝統芸能

川上小学校 ＋ 横浜邦楽邦舞家協会
三味線を体験しよう

担当アーティスト	東音阪本剛二郎
実施校	横浜市立川上小学校（戸塚区）
コーディネート	横浜邦楽邦舞家協会
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／三味線／6 学年、2 学級、56 人対象
実施日程	2011/01/20

授業のねらい

わが国の音楽の特徴を感じ取り、曲全体のよさや美しさを味わって聴く。範唱や範演を聴き、楽曲の特徴や演奏形態を知る。楽器の音色の特徴をとらえて聴く。歌の背景となるものや曲に使われている楽器を見て、イメージをふくらませる。

アーティストから

体験型の授業でしたので、事前に学校側との打ち合わせで、楽器の用意が必要な三味線と楽器を揃える必要のない長唄（唄のみ）どちらがよろしいかと先方に確認しました。ところ、強く三味線を子供達に体験をしてもらいたいとのご要望を頂き、楽器の予約、運搬を学校側でしていただいたので、その辺大変助かりました。この度の授業は極力シンプルな編成、シンプルな内容で臨みました。子供達ができるかぎり集中し一生懸命、三味線を弾うとする姿には何ともいえない爽やかさを感じました。

コーディネーターから

担当させていただくのが四校目ということもあり、比較的スムーズに授業を進めることができました。アーティストは一人一人異なる子供たちの反応は楽しみながら、その場の雰囲気を読み授業を進め、限られた時間の中では充実した授業ができたのではないかと思います。

先生から

伝統芸能にふれるのははじめてでしたので子どもたちは緊張した表情でやってきました。冒頭に三味線と長唄の演奏を披露していただきました。はりつめた空気につつまれ、どの子もじっくり聴き入っていました。体験では、わかりやすく一人ひとりにアドバイスして下さったので、どの子も手を休めることなく、夢中になって取り組んでいきました。とても楽しかったようですし、独特の世界にふれることができて、貴重な体験となりました。

子どもたちから

わかりやすく教えてもらった／おもしろかった／みんなで合わせて演奏できて楽しかった／三味線の先生がおもしろい方だった／三味線の扱い方、奏法、つくりを知った／日本の伝統文化にふれることができた／実際にたくさんならすことができた／日本の音楽に興味をもった／難しかったけど、できるようになって楽しかった／三味線の先生がおもしろかった／猫や犬の川を使っていることをしり、感謝して大切に扱おうと思った／とてもわかりやすかったし、きれいな音がでるようになってうれしかった／三味線の種類やかまえ方、ばちのもち方を知ることができた／かけ声や長唄にあわせて演奏してくださった。迫力があり、こころに残りました。

アーティストプロフィール（略歴は実施時点のもの、五十音順）
今年度の授業を担当した主な芸術家

ART LAB OVA
1996 年アーティストによる非営利グループとして発足。2010 年、10 年間拠点としていた桜木町から横浜最後の名画座であり唯一の独立系映画館であるシネマ・ジャック＆ベティのある多文化な下町、若葉町に移転。映画館、スナック、商店街、動物園、学校、福祉施設など、まちの狭間で「場」や「出来事」を通じて「関わり」を探るアートプロジェクトとして活動を展開している。

荒馬座
荒馬座は、1966 年に首都圏唯一の歌舞団として東京板橋に創立されました。「首都圏に民族文化の花を咲かせよう！」を合い言葉に、東京を始めとして千葉・埼玉・群馬・神奈川といった地域を中心に公演活動をおこなっています。公演先は、鑑賞教室・芸術鑑賞会といった学校公演が多く、また保育園・幼稚園から老人ホームまで幅広い年齢層の方々に、小規模の公演や催し物のアトラクションなど様々な形で、多くの人々に民族芸能の舞台を楽しんでいただいています。

新山久志
トロンボーン。洗足学園魚津短期大学、洗足学園大学卒業。日本クラシック音楽コンクール全国大会金管部門第 3 位。ミュージックマスターズコース in かずさ 2005 に参加。2006 年、チューリッヒ国立音楽大学マスタークラスに東京国際芸術協会の助成を受け参加。これまでにトロンボーンを秋山鴻市、箱山芳樹の各氏に師事。

池田晶紀
写真家。1978 年横浜市生まれ、東京都在住。2006 年自身のスタジオ「ゆかい」を設立。実家が写真館であることから自身の作品シリーズを「休日の写真館」と名づけ、日常風景の片隅をスタジオに仕立て、どこか珍妙でユニークな雰囲気を携えながらも、対象の内面を引きだす作品を発表している。作家活動のみならず雑誌など商業写真も手がけるほか、自身のバンドにおける音楽活動もおこなっている。

市川義久
パーカッション。CM 音楽制作のスタジオワークや タレントのサポートミュージシャンとして活動。ロック仕込みのダイナミックな ドライブ感を身上とするドラムスとして活躍。`91 年より村山二朗率いるレブ ンカムイのオリジナル・メンバーであり、ドラムセットに和太鼓を組みこんだ「太鼓セット」を用いて同グループのアンサンブルを探求する。`94 年にニューヨーク公演、`04 年にパリ公演に参加。CD アルバム「沙也可」ではドラマーとして参加。

市瀬愛香
劇団かかし座 座員。入団7年目、「長靴をはいたネコ」他、同劇団のシェークスピア作品などに出演。影絵、手影絵など、演技者として劇団の中心的存在であり、且つ、ワークショップのインストラクターとして定評がある。

今井尋也
″マルチパフォーマンスアーティスト。1974 年生まれ。幼少より祖父から能楽を学び、十代で初舞台。その後、国立能楽堂研修生・多摩美術大学身体造形学科・東京芸術大学音楽学部邦楽科能楽専攻を卒業後、渡仏し、現代演劇を学ぶ。帰国後、「ダンサー兼役者」として、東京国際舞台フェスティバル、ブレヒト演劇祭等の舞台で活躍する。2000 年「メガロシアター」を主宰し、現代演劇の演出家として活躍する。近年ではアウトリーチ活動にも積極的に参加し、障害者の施設や小中高の授業で演劇やドラマセラピーを教えている。http://www.megalo.biz″

うめぐみ
ワークショップアーティスト。うめぐみは廣島佐映子、遠山和美、川崎 信の3人のユニット。横浜美術館子どものアトリエでの指導補助の経験を活かした子どもが自ら描きつくる気持ちを大切にした指導をする。

大須賀恵里
ピアノ。桐朋学園大学音楽学部卒業。蓼科高原音楽祭で音楽祭賞を受賞。我が国では貴重な室内楽ピアニストとして高い評価を受けている。1995年より定期的に「大須賀恵里ピアノ室内楽演奏会」を開催、毎回充実した内容で音楽界 に大きな評判を呼び起こしている。桐朋学園大学音楽学部弦楽科嘱託演奏員を長きにわたって務めた。

大林修子
ヴァイオリン。3歳より才能教育にてヴァイオリンをはじめる。徳永二男氏、田中千香士氏に師事。 東京藝術大学入学。在学中、第50回「毎日音楽コンクール」第3位、第26回「海外派遣コンクール・文化庁主催」で松下賞受賞。イタリア・ジェノバにおける「パガニーニ国際音楽コンクール」で特別賞受賞。 1989 年 NHK 交響楽団入団。N響メンバーによる室内合奏団のソリストとして活躍。また、室内楽では、オーボエのインゴ・ゴリツキー、ピアノの・パウル・パドゥラ・スコダの各氏と度々共演。 現在N響でのオーケストラ活動の傍ら、NHK/FM にソリスト、室内楽奏者として出演するなど多方面で活躍。

大家一将
パーカッショニスト。奈良県天理高等学校吹奏楽部を経て、2009 年東京藝術大学器楽科打楽器専攻卒業。ドラマ「のだめカンタービレ」に打楽器奏者役で出演。第 13 回 KOBE 国際学生音楽コンクール第 2 位。2008 年アルガリズムプロジェクト参加。数々の CD のレコーディングや、DVD 出演、ダンサーや劇団との共演など活動中。パーカッション・ユニット「HARROMI-YAH!!!」メンバー。

奥田雅楽之一
箏曲。1979 年東京生まれ。祖母中島靖子に生田流箏曲を、祖父唯是震一に地歌三弦を師事する。後年、名古屋の今井勉に平家琵琶を、森雄士に胡弓を師事。また、作物を二代富山清琴に師事する。1985 年に国立大劇場にて初舞台。1994 年、歌舞伎「黒塚」に出演後、西洋音楽の勉強の為、5年間邦楽器から遠ざかる。復帰した 1999 年以降は歌舞伎や日本舞踊の地を務める。2002 年、「雅楽之一（うたのいち）」の名を受く。古典の大舞台を務め上げる一方、西洋音楽を中心とした作曲活動にも積極的に取り組む。

柏木陽
演劇家。1970 年生まれ。93 年より劇作家・演出家の故・如月小春とともに活動。2003 年に NPO 法人演劇百貨店を設立し、代表理事に就任。全国各地の 劇場・児童館・美術館・学校などで、子どもたちとともに独自の演劇空間を作り出している。08 年より世田谷パブリックシアター契約ファシリテーター。 近年の主な仕事に、兵庫県立こどもの館「館劇団創作移動劇」構成・演出、世田谷美術館の中高生ワークショップ「誰もいない美術館で」ナビゲーターな ど多数。青山学院女子短期大学、青山学院大学ワークショップデザイナー育成プログラム、大月短期大学、和光大学で非常勤講師としてワークショップや演劇を教える。

柏原美緒
ソプラノ。東京藝術大学声楽科卒業。聖徳大学大学院音楽文化研究科博士前期課程修了。モーツァルト「魔笛」、「コシ・ファン・トゥッテ」、モンテヴェルディ「ポッペアの戴冠」、フンパーディンク「ヘンゼルとグレーテル」に出演。ゲームソフト「アンリミテッド・サガ」や「天翔ける翼」「ファイナル・ファンタジーＸ、ＸＩ」の挿入歌やテレビ番組の挿入歌等の録音など多彩な活動をしている。葛飾シンフォニーヒルズ少年少女合唱団指導者。聖徳大学大学院兼任助手。

片岡祐介
″打楽器奏者、作曲家。1969 年生まれ。愛知県豊橋市で育つ。少年時代に独学で、木琴やピアノの演奏をはじめる。名古屋市立菊里高校音楽科を経て、東京音楽大学で打楽器を学ぶ。商業的なスタジオミュージシャンを経て、1997 年～2000 年に岐阜県音楽療法研究所に研究員として勤務。障害者施
設や高齢者施設、病院などの様々な場所で、即興音楽セッションを行う。マリンバ奏者として、新しいマリンバ作品の開拓、委嘱、演奏活動を数多くおこなっている。CD に片岡祐介と子どもたち「ポリフォニック・パーカッション」（NPO 法人クリエイティブサポート Let's）、著書に「CD ブック音楽ってどうやるの」（野村誠と共著：あおぞら音楽社）がある。″

桂枝太郎

落語家(真打)。昭和 52 年岩手県で生まれる。平成 8 年 6 月桂歌丸師匠に入門。前座名:桂歌市。11 月に楽屋修行開始。浅草演芸ホールにて初高座。演目は「つる」。平成 12 年 6 月二ツ目に昇進。桂花丸に改名。平成 21 年 5 月真打昇進。三代目桂枝太郎襲名。岩手県から「いわて文化大使」「奥州大使」に任命される。横浜にぎわい座で独演会を開催中。

河原厚子

ジャズ・ボーカリスト。東京・高円寺に生まれ育つ。成蹊大学時代よりジャズクラブで歌い始め、コーラス・ヴォーカリストとしてスタジオワークをはじめ数多くツアーやテレビ番組、CM製作等をこなす。1983 年、ニューヨークへ渡り、本格的にヴォーカルを磨き直す。帰国後、東京・横浜のジャズクラブで精力的にライブ活動を展開する。また、親子のためのコンサート、障害児の為のバリアフリーコンサートをプロデュースとともに、未来のジャズ歌手の育成も積極的に行っている。

神田佳子

打楽器奏者。現代音楽を軸にクラシックからジャズ、古楽、プログレまで幅広い演奏活動を行う。 東京芸術大学打楽器専攻卒業、及び同大学院修士課程修了。 1999 年、2003 年、東京芸術大学打楽器科入学試験の審査委員を勤める。 また、演奏活動のみならず、高校、大学の吹奏楽の指導や、打楽器の講習会の講師を勤める他、 各地でリズムワークショップを行う等、指導にも力を入れている。

楠かつのり

映像作家 ・ 音声詩人。世界発のビデオソフト映像雑誌「イマジン」を制作して注目される。JAPAN'87 ビデオ・テレビジョンフェスティバル(青山スパイラルホール)、「日本の前衛展〜筆からワープロへ〜」(パリ・ポンピドゥーセンター)、第2回ふくい国際ビデオ・ビエンナーレ(福井県立美術館)、「老塵」上映(愛知芸術文化センター、「ビデオ・トマソン」(東京都写真美術館)、「夏の時間」(草月ホール)。全天周型魚眼レンズを使ってプラネタリウム作品「生活宇宙カメラ」,「タオの宇宙」などを制作。著書に、「ビデオ作家の視点」、「ビデオ術・遊んでみよう」、「これは見えないものを書くエンピツです」, 映像詩集「ペーパービデオ・インスタレーション」他多数。現在、関東学院大学人間環境学部教授.「詩のボクシング」の日本朗読ボクシング協会代表。

楠原竜也

振付家・ダンサー。1976 年生まれ。玉川大学芸術学科演劇専攻卒業。在学中にロンドン・ラバンセンターに留学。2000 年より本格的にダンス活動を開始。伊藤キム、白井剛、岩淵多喜子、高橋淳(じゅんじゅん)振付作品等に出演。05 年よりテレーサ・ルドヴィコ演出『雪の女王』(原作: H.C. アンデルセン/制作: 世田谷パブリックシアター)に出演し、俳優としても活動する。02 年「APE」を結成。「多くの方に HAPPY を届ける」をテーマに、国籍・年齢・性別を問わず、多くの人々に楽しんでもらえるフィジカルシアター作品を創作。劇場のみならず、美術館でのツアーリングシアターや、野外等でのパフォーマンスも行う。06 年ニューヨーク、サンチアゴ、釜山にて APE 代表作『One day, I woke up…』を上演。同年、初のソロ作品『ME,MYSELF AND I』をソウル、東京、リムリックにて上演。また、07 年ティアラ 140+(制作: ティアラこうとう)において東京シティ・バレエ団に初のデュオ作品『かじったかじつかじる』を振付。共に好評を博す。近年より、国内外にてダンサーや俳優のみならず、小中高大学生や一般の方にワークショップを行い、受講生による公演も行う。ワークショップでは、日常生活の中で鈍ってしまっている感覚を呼び醒まし、敏感になった身体を使って、直感力や発想力を引き出すことを目的に、インプロヴィゼーション(即興)をベースとした創作活動を行う。

久保田巧

ヴァイオリン。桐朋女子高等学校音楽科を経て、ウィーン・フィルの名コンサートマスター、ヴォルフガング・シュナイダーハン氏に師事。 1983 年第 2 回フリッツ・クライスラー国際コンクール第 2 位、第3回ミケランジェロ・アバド国際音楽コンクール第1位、そして 1984 年1位を出さないことで有名な、ミュンヘン国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門で日本人として初めて優勝。以来、サヴァリッシュ、ベルクルンド、ギーレン等の指揮するミュンヘン・フィル、バイエルン国立歌劇場管弦楽団らと共演、ヴィンシャーマン&ドイツ・バッハ・ゾリステンの演奏旅行のソリスト等を務める。1988 年、ウィーン・ピアノ四重奏団を結成し、室内楽にも力を入れている。CD も数多く、(「バッハ:無伴奏パルティータ集」、「愛の喜び/クライスラー・アルバム」、「ベートーヴェン・ソナタ集/クロイツェル・スプリング」等々)特に「バッハ:無伴奏パルティータ全曲」は、レコード芸術で特選盤に選ばれ名盤として高い評価を得ている。2007 年からは新しいパートナーとしてピアニストのパウル・グルダと共演。2008 年にはブラームスのヴァイオリン・ソナタ全曲演奏会を開催、緻密で熟成深いアプローチが各紙で絶賛を浴びた。また、同作品はグルダとの共演で CD リリースされ、同様に非常に高く評価されている。

熊沢栄利子

箏。砂崎知子氏に師事。NHK邦楽技能者育成会卒。1978 年日本音楽集団入団。81 年NHKオーディション合格。2001 年より尺八の米澤浩とヨーロッパ・コンサート・ツアー(44 公演)を開始した他、韓国のソウル国立国楽管絃楽団・大邱市立国楽管絃楽団とコンチェルトで共演するなど、東西を問わず活動の場は広い。現在、日本音楽集団団員。《島根邦楽集団》顧問。生田流宮城社教師。

黒田晃弘

現代美術アーティスト。1970 年北海道生まれ。札幌市在住。2000 年より黒田一人による芸術文化向上委員会「lopnor」の活動を開始。さまざまなイベントや展覧会などを企画・制作する。他者との関係生成のきっかけとして「似顔絵描き」をはじめ、最近ではそれが主要な表現活動、兼自身の生活の一部となりつつある。この「似顔絵描き」から、「横浜トリエンナーレ 2005」に招聘された。

小森谷裕子

ピアノ。桐朋学園高校音楽科、同大学音楽学部卒業。1990 年、第 9 回チャイコフスキー国際音楽コンクールで最優秀伴奏賞を受賞。最近では、ダニール・シャフラン・ヨゼフ・スーク、ハーヴィ・シャピーロ、マリオ・ブルネロ、エマニュエル・パユなどと共演し、好評を得ている。

斎藤育雄

合唱指導・ピアノ。早稲田大学在学中に指揮を山下一史氏に師事。東京藝術大学指揮科で指揮を故・佐藤功太郎氏、ピアノを故・神野明氏に師事。團伊玖磨オペラ、日中共同制作北京公演、東京室内歌劇場等で副指揮を、都響第九公演、二期会合唱団等で合唱指揮を務める。

椎原克知

文学座・俳優。1996 年文学座研究所入所(第 36 期)。これまでの主な出演作品は『女の一生』(2000)、『モンテ・クリスト伯』(2001・2004)、など多数。2007 年文化庁在外研修員として1年間ニューヨークに滞在し、専門的な演劇のテクニックを学び、コミュニケーション・ワークショップのスキルを身につける。2010 年 4・6 月文学座公演『ぬけがら』出演。舞台、ワークショップの講師のほか、映画やテレビなどにも活躍の場を広げている。

篠田浩美

パーカッショニスト。東京藝術大学器楽科打楽器専攻卒業。幼少よりピアノ、打楽器コンクールで多数の受賞歴。これまでにマリンバおよび打楽器を小川佳津子、高橋美智子、藤本隆文、高田みどりの各氏に師事。現在はソロ、アンサンブル、オーケストラ、室内楽、ジャズセッションなどジャンルを問わず多くのコンサートに出演中。パーカッション・ユニット「HARROMI-YAH!!!」、マリンバアンサンブル「quint」、邦楽創造集団「オーラ J」メンバー。

志村信裕

映像アーティスト。1982 年東京都生まれ、横浜市在住。2007 年武蔵野美術大学大学院映像コース修了。無数の待ち針や、金の鈴を映像のスクリーンにするなど、身近な日用品を利用しながら意表をつく映像インスタレーションをつくりだす。近年は「黄金町バザール」(横浜)、「あいちトリエンナーレ 2010」(名古屋)、「トレジャーヒル・パブリックアートプロジェクト」(台北)など、都市の隙間や屋外のパブリックスペースに映像作品を展開している。

下田レイ

声優。野村道子と加藤みどりが立ち上げた朗読集団『みどりぐみ』に所属。TV アニメ、映画、ラジオ等、他方面で活躍中。

JOU

コンテンポラリーダンサー、振付家。2009 年ソウル国際振付ファスティバルにて、外国人特別賞受賞。「長い手足、自由度の高い身体、それを繊細にもダイナミックにも動かし、半径1m の円の中で踊り続けて飽きさせない身体のボキャブラリーを持っている。なのに、いきなりマヌケなネタを平気でかます面もあり、気が抜けない」(乗越たかお著:コンテンポラリーダンス徹底ガイド)「Odorujou」時々主宰。すなわち、わくわく心躍る企画します。ミクロとマクロの両方から物事を見てアイディアを出す。

城田有子

作曲・編曲・演奏家・講師。尚美音楽院でジャズピアノ、水島早苗ボーカルスクールでジャズボーカル、メイト音楽院でジャズ理論を学び大学在学中より音楽活動を始める。渡米し、シダー・ウォルトンにジャズピアノを師事。1981 年“城田有子とサンシャインベイブ”結成。1985～86 年ゴールデンガイド世界音楽祭にて優秀作品賞、編曲賞受賞。2000 年 Yokohama Asociation of Artists（Y. A. A）を主宰。

スズキキヨシ

パーカッショニスト。自身のユニット「smile kalimba」「the MoonNotes」での活動のほか、1989 年に民族楽器ユニット「AFA」に参加し、NGO 主催イベントを中心に、韓国打楽器グループ「サムルノリ」や黒田征太郎のライヴペインティングとの共演、ネルソンマンデーラ歓迎コンサートへの出演等、さまざまな演奏活動を展開。クラッシック、ジャズなどのドラマーとしての多彩な音楽経験や、快医学、音楽療法、障害者施設、子育て支援団体などに携わった経験から裏付けられた独自の方法で、「音」と「体」の深い繋がりを伝えている。

鈴木淳

画家／絵画保存修復家。59 年：東京都生まれ，横浜市在住. 86 年：東京芸術大学油画卒業，88 年：同大学院保存修復技術修士課程修了，93 年：博士課程修了，美術博士. 84 年–現在：個展，グループ展等. 99–02 年：文化庁芸術家在外派遣研修員，文化財保護振興財団在外研修員. ボストン美術館などで保存修復に従事しながら西洋絵画の組成を研究. 93–96 年：東京芸術大学非常勤講師，現在：多摩美術大学，群馬県立女子大学，工学院大学非常勤講師. 04–09 年：横浜美術館，横浜市民ギャラリー，平塚美術館等で市民講座を担当. 06 年：beacon art studio（絵画保存修復），ACP美術保存パートナーズ（多分野美術作品保存修復），絵画技法材料研究会（社会人絵画教室）設立.

鈴木タケオ

パーカッション、ドラムス＆キーボード。ラテンジャズバンド「LA NOCHE」を結成、神奈川・東京のライブハウスで活動を行う。現在は「LA NOCHE」の他に小編成ラテンジャズバンド「GRUPO CERVEZA」と、オリジナル曲を中心としたサンバ・ボサノヴァバンド「JYOSAMP」を主宰する。参加する「LATINESTRELLA」と共に、北海道から沖縄まで全国各地の演奏活動をしている。

鈴木慶江

ソプラノ歌手。横須賀市出身。東京芸術大学卒業及び、同大学院オペラ科修了。第 29 回イタリア声楽コンコルソ第 1 位ミラノ大賞受賞により、イタリアのG. ニコリーニ国立音楽院に推薦留学。第 31 回V. ベッリーニ国際声楽コンクール最高位受賞。多くのコンサート活動・オペラ出演の他、2002 年 NHK「紅白歌合戦」、2003 年 NHK「ニューイヤーコンサート」などテレビにも多く出演。「Fiore」、「Regalo」、「ニンナ・ナンナ～大人のための子守歌」、「Calore－ぬくもり」等のCDをリリース。

善竹大二郎

大蔵流狂言師。社団法人能楽協会会員 昭和 56 生まれ 善竹十郎氏 次男。祖父故善竹圭五郎、父・善竹十郎に師事。くらしき作陽大学伝統芸能専修科講師。

善竹富太郎

大蔵流狂言師。社団法人能楽協会会員 昭和 54 生まれ 善竹十郎氏 長男。祖父故善竹圭五郎、父・善竹十郎に師事。3 才より稽古を始め、5 才の時に狂言「靭猿」の小猿役で初舞台。「SORORIの会」「狂言道場」主宰。昭和音大講師。

即興からめーる団

赤羽美希（音楽家）と正木恵子（打楽器奏者）の二人による音楽ユニット。参加者を巻き込んだワークショップ形式の即興演奏が持ち味。2007 年 10 年から港区にある三田の家で「うたの住む家」を主催。いろいろなバックグラウンドを持つ参加者とともに、楽しみながら歌を創作する活動を続けている。

高瀬真由子

ヴァイオリン。リリス・レジデンス・アーティスト。桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学卒業。横浜市栄区民文化センターリリス・レジデンス・アーティスト。横浜市民広間演奏会会員、芸術集団 2008 支援アーティスト。平成 22 年、横浜市芸術文化教育プラットフォーム事業にて、横浜市千秀小学校に訪問、好評を博した。

武田力

俳優。1983 年生まれ。立教大学教育学科を卒業後、幼稚園勤務を経て俳優としての活動を始める。『三月の5日間』をはじめとするチェルフィッチュ作品、飴屋法水演出『4.48 サイコシス』等に出演。アートプロデュースも行い、YOKOHAMA 創造界隈コンペ 2008 を受賞した『手のひらが横濱』や、日比野克彦氏の作品、野外ヒノキ舞台［But-a-I］にて開催した『いけぶくろの動物園』のプロデュースなど、演劇の枠にはまらず様々なアート・パフォーマンス分野に活動を拡げている。

田部元太

フルート。13 歳よりフルートを始める。阿部光博氏に師事。第 40 回北海道管弦楽器個人コンクール木管・中学校の部受賞。第 43 回北海道管弦楽器個人コンクール木管高校の部受賞。第 61 回全日本学生音楽コンクール東京大会高校の部第一位、全国大会横浜市民賞。現在東京音楽大学在学中。細川順三氏に師事。2008 年 7 月横浜交響楽団定期演奏会に出演。

津久井裕子

声優。野村道子と加藤みどりが立ち上げた朗読集団『みどりぐみ』に所属。TV アニメ、映画、ラジオ等、他方面で活躍中。

東音阪本剛二郎

長唄三味線方。昭和 53 年、横浜市出身。【長唄三味線】を恩師である東京芸術大学名誉教授、長唄東音会四代目会長、東音 味見亨師に師事。東京芸術大学邦楽科別科修了。長唄東音会研修所を経て、三味線方として長唄東音会同人となり、長唄三味線演奏家として舞台に立つ。長唄協会会員、横浜邦楽邦舞家協会会員、長唄二十一の会同人、長唄汎の会同人長唄二題の会同人、長唄寿々弥会主催。

中村信子

人形劇俳優・美術家。2006 年度より横浜市芸術文化教育プラットフォーム：学校プログラムで「パペット」を担当。劇団風の子国際児童演劇研究生を経てどんきい劇場に入団。公演活動のほかTV、映画でも操演。現在NHK「おかあさんといっしょ」人形操作レギュラー出演中。パペットワークショップとして総合学習の表現活動やPTA、親子行事、幼稚園・保育園その他のコミュニケーションづくりのイベントなど開催している。NPO法人地域学習会副理事。中野区社会教育委員。

永吉秀司

鎌倉女子大学短期大学部初等教育学科講師、日本画家。元東京成徳大学・中学高等学校教諭。元東京成徳大学付属幼稚園絵画専門講師。現在、鎌倉女子大学短期大学部専任講師。日本美術院院友・日本保存修復学会会員・児童学会会員。横浜市栄区・泉区を中心に造形ワークショップを展開。

南波圭

俳優。群馬県生まれ。大学卒業後、NINAGAWA COMPANY’にて蜷川幸雄演出作品に出演。退団後、指輪ホテル『Please Send Junk Food』や、チェルフィッチュ『ホットペッパー、クーラー、そしてお別れの挨拶』などに出演。 また、NPO 法人演劇百貨店のメンバーとして、劇場、美術館、学校などで演劇ワークショップの進行役をつとめる。 様々な人との関わりに中から生まれる演劇づくりを行っている。

野村道子

声優。横浜市出身。「サザエさん」「ドラえもん」等の主要キャストを始め、TV アニメ、映画、ラジオ、CM 等多数出演している。

長谷川友二

ギター。国内屈指の高度な弾き語りスタイルが各方面で高い評価を得ているシンガーソングライター＆ギタリスト。4 枚のソロアルバムと1枚のシングルをリリースしギター教則ビデオも数多く手掛けている。また、アコースティックギター1 本でもサポートできるプレイヤーとしてミッキー・カーチス、沢田研二、SMAP、佐々木秀実、チェリッシュ、CD『ファイナルファンタジーSongBook まほろば』CX ドラマ挿入歌「牡丹と薔薇」などで彼のギターサウンドを聞くことができる。最新作『うたたね』は iTunes より全世界に向けて配信中。

東野祥子

振付家、ダンサー。ダンスカンパニーBABY-Q 主宰。身体から織り成される感情の起伏や衝動、個々の人間の本質をダンスの根底に置き、ダークかつカッティングエッジな電子音響と機械仕掛けの硬質な美術、様々なモチーフの交錯する舞台を創りだす。ソロダンス活動として、煙巻ヨーコ名義で即興アーティストとのセッションをクラブ・ライブハウス・ギャラリー・野外等で展開。2004 年 TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2004『次代を担う振付家賞』、2005 年横浜ソロ×デュオ〈Compe´tition〉＋群舞部門『未来へ羽ばたく横浜賞』、2006 年オン★ステージ新聞『ベスト新人振付家賞』、2009 年『舞踊批評家協会新人賞』等、受賞多数。

平野佳奈

声優。野村道子と加藤みどりが立ち上げた朗読集団『みどりぐみ』に所属。TV アニメ、映画、ラジオ等、他方面で活躍中。

深澤純子

アートファシリテーター。多摩美大卒。～89 年まで同校勤務。アート、ジェンダーのワークショップを女性センターや社会教育施設等多数手がける。現在、NPO法人ヒューマン・サービスセンター主宰、港区コミュニティカフェを運営。ジェンダー論で神奈川大学の講師を務める。横浜在住。

古川展生

チェロ。桐朋学園大学卒業。1996年安田クオリティオブライフ文化財団の奨学金を得て、ハンガリー国立リスト音楽院に留学。1997年第27回マルクノイキルヘン国際コンクール(ドイツ)チェロ部門にてディプロマ賞受賞。1998年帰国後、東京都交響楽団首席チェロ奏者に就任、現在に至る。2003年第2回齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。ソリストとしても、東京都交響楽団をはじめ国内多数のオーケストラと共演を重ねるほか、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の首席奏者を中心とした室内オーケストラ「トヨタ・マスター・プレイヤーズ、ウィーン」、レニングラード国立歌劇場管弦楽団等と全国ツアーで共演、いずれも絶賛を浴びた。

松井イチロー

音楽家。神奈川県座間市出身 横浜市在住。現在、ラテンジャズバンド「LA NOCHE」、小編成の「GRUPO CERVEZA」、サンバ・ボサノババンド「JYOSAMP」3 つのバンドを主宰。オリジナル曲を中心に神奈川・東京のライブハウスで活動を行う。また、「LATINESTRELLA」に参加。北海道から沖縄まで全国各地を演奏活動で旅している。個人では、音楽イベントの企画プロデュース多数。演奏活動の傍ら農業を実践。約五反の畑を借りて露地野菜の栽培、「引き売り」をしている。

村井啓哲

サウンド・パフォーマー／アーティスト。主にエレクトロニクスを利用して身体の微かで不随意な動きや自然現象によってシステムを反操作的に制御することから「音楽」を導く試みを続ける他、観念と認識の問題を巡る視覚作品も制作する。またフルクサス参加作家によるイベント作品、ジョン・ケージの図形楽譜など非五線記譜法による非器楽曲の研究および解釈と演奏も行っている。

村山二朗

篠笛。1989 年に和太鼓集団「鼓童」のメンバーとしてプロデビュー。1991 年に自己バンド「レブンカムイ」を結成し、独自のオリジナル・スタイルでジャズフェスティバル、太鼓フェスティバル、神社仏閣、ギャラリー、酒蔵、学校公演など様々な空間で演奏を展開。これまでに 5 枚の CD アルバムを発表。また、奏者としての主な舞台として、木の実ナナ主演ミュージカル「阿国」、阿木燿子プロデュース「フラメンコ曽根崎心中」、和太鼓公演「東京打撃団」などの他、海外 25 カ国で篠笛の魅力を紹介。著書に 「イラストで見る篠笛ワークショップ」(音楽之友社刊)がある。2010 年、最新アルバム「日本の祭笛紀行」をリリース。

もび

音楽パフォーマンス集団。2005 年、子どもの生活する空間にパフォーマンスを届けようと西井夕紀子が俳優らと共に結成。以降、ミュージシャン、詩人、ダンサー、画家を迎えてのパフォーマンスやワークショップを各地で実施。「もちはこびパフォーマンス」と称して学校の教室、文化施設、託児スペースなどに赴いている。取手アートプロジェクト「アーティスト学校派遣事業」、世田谷文学館「土曜ジュニア文学館」、横浜市「子どもアドベンチャー」などに参加多数。

森美紀子

ジャズシンガー。日本人には珍しいアメリカンソプラノの明るい歌声とそのパーソナリティーは聞く人の心を捉えて離さない。作曲家中村八大氏に見出された後、ピアニスト市村敏幸氏に師事。現在はライブハウスで多くのピアニストと共演。また、「ふぁとふるコンサート」を定期的に行うほかポピュラーソング教室を主宰し、こどものための「読み聞かせ教室」を開催。ジャズをベースにクラシックまでの幅広いジャンルの曲に取り組んでいる。

山口佳子

ソプラノ歌手。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程独唱科修了。第 37 回日伊コンコルソ入選。2005 年渡伊、2006 年オルヴィエート市歌劇場公演「ラ・ボエーム」ムゼッタ役、2008 年トスカーナオペラフェスティヴァル「カルメン」フラスキータ役等、国内外のオペラやコンサートに出演。リクルート・オペラスカラシップ第 35 回生。19 年度文化庁派遣芸術在外研修員。日本ロッシーニ協会会員。サントリーホール・オペラ・アカデミー・メンバー。藤原歌劇団団員。

山下残

振付家。1970 年大阪府生まれ。90 年代中頃より振付家・演出家として実験的・野心的な舞台作品の発表を続ける。 主な作品に、来場者に 100 ページの本を配り、観客がページををめくりながら本と舞台を交互に見る『そこに書いてある』、 ダンサーの動きを言葉にして声にする『透明人間』、 スクリーンに映写される呼吸の記号と俳句のテキストを身体とあわせて見る『せきをしてもひとり』、 揺れる舞台装置の上で踊る『船乗りたち』、 動物が演劇をしているようにも見えるダンス作品『動物の演劇』、 観客席の頭上に水面の映像が映るモニター15 台を吊り下げた『大洪水』など。

山田うん

振付家・ダンサー。幼少より器械体操、新体操、競泳を学び、13 才でモダンダンスと出会う。クラシックバレエや舞踏など独学で独自のダンススタイルを探究。1996 年から振付家として、小劇場を拠点に活動。2000 年 「横浜ダンスコレクション・ソロ×デュオ・コンペティション」において< 在日フランス大使館賞 >を受賞し、渡仏。2002 年カンパニー< Co.山田うん >を設立。公演活動、コラボレーション、ワークショップの3つを主な活動の柱として展開している。ワークショップ活動では、対象者に合わせた柔軟性のあるクラスが高い評価を得ている。

山田哲平

彫刻家。1979 年東京生まれ、在住。2009 年広島市立大学芸術学研究科博士課程前期課程修了。広島大学附属中学校、高等学校の非常勤講師を経て、現在横浜美術大学常勤助手。陶で彫刻を制作し、個展、グループ展などで活躍する。

ユキ・アリマサ

ジャズ・ピアニスト。3 歳よりピアノを始め、12 歳頃オスカー・ピーターソンを聞いてジャズに魅了され独学で勉強。玉川大学英米文学科卒業後、渡米。バークリー音楽大学でジャズピアノ演奏、作編曲を学ぶ。ピアニストとしてハンク・ジョーンズ賞、デューク・エリントン作曲賞を受賞。1986 年に卒業後、同校ピアノ科助教授として勤務。帰国後、Yuki Arimasa Trio のリーダー及び作編曲家として活動を続ける。洗足学園音楽大学ジャズコースでソルフェージュとピアノのクラスを担当。

横浜シティオペラ

1983 年創立、2004 年にNPO 法人化。横浜を拠点に地域密着型のオペラ及びコンサートを企画運営している。上記出演者は同団体会員。NPO 法人横浜シティオペラ主催の各種オペラ・歌曲コンサートに出演の他、その他の歌劇団公演や、コンサートに出演活躍中。

吉澤延隆

箏・十七絃箏。1982 年、宇都宮市生まれ。7歳より、和久文子師のもとで箏を始める。2006 年6月から2007年3月、平成18年度文化庁新進芸術家国内研修制度研修員として、研修題目「箏の現代作品と古典三絃の修得」の研修を行う。2007 年、東海大学大学院芸術学研究科音響芸術専攻修了。2008 年、第15 回賢順記念全国箏曲コンクールにおいて最高賞の賢順賞受賞。2009 年、NHK－TV 芸能花舞台「今かがやく若手たち」に出演。現在、沢井箏曲院講師。

米澤浩

尺八。宮田耕八朗氏に師事。78 年日本音楽集団入団。内外のオーケストラとの共演経験、海外公演実績も多数。ほか、演劇・放送音楽、市民文化講座やワークショップ、専門的な講習会の講師も務めるなど活動の幅は広い。現在、尺八トリオ《575》メンバー。日本音楽集団団員。《島根邦楽集団》顧問。

渡海千津子

ソプラノ。東京藝大声楽科卒業。同大学院修士課程修了。二期会オペラ研修所修了、優秀賞受賞。横浜オペラ未来プロジェクト、二期会等オペラ公演で数々の主役を務める。二期会会員。

コーディネータープロフィール（略歴は実施時点のもの、順不同）
今年度の授業を担当したコーディネーター

特定非営利活動法人 子どもに音楽を

世の中には素晴らしいものがたくさんあります。それらを出来るだけ多くの子どもたちに伝え残すことが、私たち大人の大切な役目だと思います。その一つとして、一流の演奏家による生の演奏を小中学生の子どもたちに聴いてもらいたい、演奏家の息づかいや楽器の持つ魅力ある音と響きから、機械ではない、人間の心から紡ぎ出される音楽に接してほしいと考えています。

平成 18 年の設立以来、各地の小中学校等で 33 回の演奏活動を実施しています。

http://www.kodomoniongakuwo.sakura.ne.jp

特定非営利活動法人 横浜こどものひろば

横浜こどものひろばは平成13年2月に神奈川県認証の NPO 法人として設立しました。子どものための優れた芸術文化活動を振興し、子どもたちの芸術文化体験の場と子ども自身の社会参画の場の創出が豊かな子ども時代の創出に繋がるよう努めてきました。近年は、0～3歳の子どもと子育て世代の親たちが自身で運営していく、芸術文化体験による子育てのひろばを毎月開催しています。また「わらべうたの伝承者」を広げる活動も並行して行い、0～3歳の子育てひろば等とかみ合う活動をすすめています。

また横濱世界演劇祭、みなと横浜演劇祭等の事務局の一翼も担当しています。

http://www.yokohama-kodomo.com

特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち

NPO法人芸術家と子どもたちは、2001年に設立された特定非営利活動法人です。多様な価値観・考え方・身体感覚を持つ人々が共生する社会を創出するため、子どもたちとアーティストとの出会いを通じて、創造的な学び・遊びの機会をつくりだす活動をしています。

「ASIAS（エイジアス）」(Artist's Studio In A School の略)は、公立の小中学校、特別支援学級、幼稚園、保育園などにおいて、アーティストと先生が協力してワークショップ型の授業を実施する活動です。横浜市芸術文化教育プログラムでは、平成 19 年度より毎年いくつかの授業をコーディネートしています。

他、地域コミュニティにて活動する「ACTION！(アクション)」などを展開しています。

http://www.children-art.net

特定非営利活動法人 Offsite Dance Project

Offsite Dance Project は、劇場外の活動に特化し、ダンスを軸としたパフォーミングアーツを推進する NPO 法人です。わたしたちは、地域や国境、フィールドを越えて、さまざまな人々と相互連携のフレームを構築することにより、パフォーミングアーツの振興を行っています。

主な活動として、ダンス・コミュニティ・フォーラム「We dance」(2009- 2010)を主催。多摩川アートラインプロジェクト「多摩川劇場」(2008)、横浜トリエンナーレ「 idance ’ 80 」(2008)、世田谷美術館「INSIDE/OUT」(2009-2010)等、電車内や公園、美術館など主に公共空間におけるダンスや演劇のプロジェクトの企画制作を手がけています。

http://www.offsite-dance.jp

企業組合 Ｍｅｄｉａ Ｇｌｏｂａｌ

2005年横浜市より認可を受け、アートマネジメント管理事業を主軸とする芸術系企業組合として発足。母体は1998年設立の市民芸術文化グループ「企画集団夢現 MUGEN」。子どものワークショップを得意として活動してきた。

これまで行政との協働事業による「ワークショップ」、市民対象の「アートマネジメント講座」や若手アーティスト支援の公演などジャンルは多岐にわたる。

2006年より「横浜市芸術文化教育プログラム」のコーディネーターを担当。

http://www.mediaglobal.info

株式会社 オフィスマキナ

オフィスマキナでは、教育・学術関連のイベント、セミナー、コンサート等の企画制作を行っています。おもに、科学教育と音楽の企画を手がけています。平成 18 年度より「横浜市芸術文化教育プログラム」の「声楽」ワークショップを担当。

20 年度からは「ジャズ」ワークショップのコーディネーターも担当しています。

http://www.office-makina.com

横浜邦楽邦舞家協会

1991 年に横浜市在住の邦楽演奏家、舞踏家をもって設立。横浜市教育委員会主催の子ども対象事業「おもしろ邦楽セミナー」を年 2 回開催するほか、学校へのアウトリーチにも取り組んでいる。

よこはま音楽広場実行委員会

よこはま音楽広場は「地域にひらかれた音楽（コミュニティ・ミュージック）」を実施するため、平成 19 年に発足しました。

平成 19～20 年度には横浜市市民活力推進局による「文化芸術の創造性を活かした地域づくり事業」として横浜市鶴見区に在住の外国人と近隣の住民を対象としたワークショップを行い、演奏家を交えたコンサートを行いました。

平成20年度から「横浜市芸術文化教育プログラム推進事業」「クラシック・ヨコハマ　サロンコンサートブリッジ」の事業に携わり、病院や小学校などに演奏家を派遣し、体験型のコンサートを行いました。

教育や福祉、または医療機関などで音楽を行う意味や意義を領域横断的な視点から研究しています。

ＡＲＴ　ＬＡＢ　ＯＶＡ

『ART LAB OVA』は、制作経験の有無やしょうがいの有無、年齢、国籍に関係なく、アートを通じた交流ができる場をつくっている非営利のグループとして1996 年から活動をしています。

アートセンターを拠点に、映画館やスナック、商店街、動物園、学校、福祉施設など、まちの狭間で「場」や「出来事」を通じて「関わり」を探るアートプロジェクトを展開中です。

http://artlabova.org

民族歌舞団　荒馬座

荒馬座は 1966 年に東京の板橋に生まれました。私たちの祖先が働く中からつくり出してきた民族芸能を舞台化し、首都圏を中心に公演活動をおこなっています。

民族芸能には、自然や命をいとおしむ心、生きる知恵、協同の喜び、困難を乗り越える強さや明るさが込められています。

「明日を生きる力」となるような舞台や、人と人とをつなげる文化活動を広げています。

http://www.araumaza.co.jp

アートの時間

アートの時間は、「アートをもっとまちなかに！」と、2007 年 9 月より活動を始めた団体です。

コンサートホールや劇場、美術館などから飛び出して、アーティストとともに地域や学校へ出向き、アートイベントやアートプログラムの企画運営を行っています。 コンサートやライブイベントなどを通じ、人と人のつながりを生み出す、地域づくり事業にも取り組んでいます。パフォーマンスだけでなく、アーティストの息遣いまで感じられるシチュエーションを作りたい。そして、特に子どもたちには、より身近にアーティストの感性に触れるという体験を通して、「別の自分の発見」をして欲しい。そんな思いで活動しています。

特定非営利活動法人 横浜音楽協会

大正 13(1924)年、横浜市民音楽文化向上をめざし、横浜市出身の新人音楽家を紹介するための演奏会を開催したのがはじまりで、それ以来、市民をはじめ幼稚園・小・中学校の児童生徒を対象とした音楽会等を、横浜市・横浜市教育委員会・音楽関係諸団体の共催や後援を得て活動をすすめています。いわば、音楽文化向上のためのボランティア団体として地道に歩んできました。会員の職業や年令も様々で、積極的な協力をいただき今日に至っております。また永年の活動が認められ、第 45 回横浜文化賞を受

賞しております。
http://www.y-o-k.com

特定非営利活動法人 横浜シティオペラ

長年にわたって横浜市の音楽の発展に力を尽くし、また日本のオペラ界にも多大な貢献をした故・佐藤美子の跡を継ぎ、1983 年、横浜市教育委員会の指導のもとに、横浜市在住の音楽家 30 名によって、発足した。その後、市・県の助成を受け、青少年から大人までを対象としたオペラを上演する一方、オペラアリア、歌曲のコンサートを行っている。さらに平成 3 年より、オペラ・ガラ・コンサート、大ホールでのオペラ、中ホールでの室内オペラの3本による『神奈川芸術フェスティバル』を 18 年間連続で催している。
http://www.cityopera.jp

泉区民文化センター テアトルフォンテ

テアトルフォンテは 1993 年に開館し、一昨年 15 周年を迎えました。演劇やダンスの上演に最も適した「ホール」を中心とする文化施設です。観る・演じる・創る――この3つの活動を通し、地域の交流、文化活動の活性化の発展に努めています。平成 18 年度から、泉区に伝わる昔話や地域を題材にしたオリジナルミュージカルを上演しています。(出演は一般公募の区民)。また、こども向けの演劇ワークショップや、舞台技術に関する講座、地域のアーティストを招いての事業など、芸術鑑賞の場を提供するだけでなく、地域に根ざした文化活動の発展にも力を入れています。
http://www.theatre-fonte.com

栄区民文化センター リリス

本郷台駅より徒歩 3 分の立地にある区民文化センター。平成 18 年 4 月より、指定管理者として神奈川共立・共立・JSS 共同事業体が運営している。
アコースティック音楽に適したホールを持ち、クラシック鑑賞事業に特に力を入れているほか、区内の福祉施設・学校等を会場にしたアウトリーチコンサートを平成 19 年度以降、継続している。
http://www.lilis.jp

神奈川区民文化センター かなっくホール

H21 年度、開館 5 周年を迎えるかなっくホールは、「集い、ふれあい、つくりだすこころを、ここかなっくホールから」をキーワードに、区民の皆様への上質の芸術パフォーマンスのご提供にとどまらず、地域の中に芸術の作り手を増やす働きかけにも積極的に取り組んでいます。区民から企画を公募して開催する「区民応募企画」や、「区民プロデューサー育成事業」のほか、若手アーティスト支援事業「フロムかなっく」出演アーティストや朗読ワークショップで勉強した参加者を地区内の様々な場所に派遣してのアウトリーチ活動などを通じ、区民の皆様が日常生活の中で芸術文化に触れ合い、自らが芸術の作り手となって区民文化センターを活用・運営していく“区民がつくる文化のかたち”をめざした事業展開を行っています。
http://kanack-hall.jp

磯子区民文化センター 杉田劇場 ＋杉田劇場と歩む区民の会

磯子区民文化センター・杉田劇場は、ホール、ギャラリー、リハーサル室、練習室、会議室を備えた地域のための文化施設です。地域の文化的な拠点として、様々なジャンルの催し物に幅広くご利用いただけるほか、開館以来「区民協働」を目標に掲げ、地域との連携や区民参加の事業など、地域とつながる活動を積極的に展開しています。
杉田劇場と歩む区民の会は、杉田劇場を拠点として、音楽、演劇、歴史、能、まちづくりなど様々なジャンルで活躍する区民が集まり、杉田劇場の運営をささえるネットワーク組織として平成 22 年 3 月に発足しました。文化をハブに、人と人とのつながりを生み出し、住み続けたくなるまちづくりを目指し、杉田劇場とともに、様々な活動を行っています。
http://www.sugigeki.jp

大倉山記念館

大倉山記念館は、昭和七年に精神文化の研究所として建てられた洋館を市が昭和 59 年に市民利用施設として公開しました。
音楽会や美術の展示など市民の文化活動の場として活用されるほか、映画やテレビ等の撮影としても積極的に活用されています。

急な坂スタジオ

急な坂スタジオは、舞台芸術(現代演劇・ダンスなど)の創造拠点として、2006 年 10 月にオープンした横浜市による公設民営の文化施設です。
元結婚式場の旧老松会館を転用し、大小5つのスタジオ、市民向けのコミュニティ・ルームなどを備えた稽古場として、地域とアーティストの交流の場を生み出しています。
また、横浜を基点とした創造・発表のあり方を模索しながら、次世代の舞台芸術を担う人材も育成・集積し、横浜から世界へと羽ばたくバックアップを図っています。
http://kyunasaka.jp

久良岐能舞台

横浜市磯子区の自然豊かな場所に位置する久良岐能舞台では、能楽をはじめとする古典芸能の稽古や発表会、茶室でのお茶会など市民に開かれた能舞台として利用されています。
四季折々の草花が楽しめる庭園では散策も楽しめます。
株式会社シグマコミュニケーションズでは劇場管理・ホール運営事業を進め、平成18年9月より久良岐能舞台の指定管理者として運営・管理を横浜市より委託されています。一年間に自主事業を10公演開催し、10月には近隣地区小学校を無料招待する小学校向け狂言鑑賞教室も開催しています。
http://www.kuraki-noh.jp/

旭区民文化センター サンハート

旭区民文化センター サンハートは、旭区二俣川駅に隣接するビルの5階に、横浜市によって設置された地域文化施設です。平成2年8月に開館し、平成18年度より、(財)横浜市芸術文化振興財団・(株)横浜アーチスト共同事業体が指定管理者として管理・運営しています。2つのホールとアートギャラリー、各種の練習系施設を備え、鑑賞・発表・練習の場として、開館以来、多くの方にご利用いただいています。
サンハートでは、地域に根ざした文化施設として「区民が芸術文化を通じて、主体的に地域生活を豊かにしていくための活動拠点」となることを目標としています。そのための活動として、ホールやアートギャラリー等での公演や体験型の企画の実施のほか、サンハートを飛び出して、 区内の学校や施設などでも企画の実施や活動のサポートなどを積極的に行っています。

吉野町市民プラザ

吉野町市民プラザは、南区に平成元年7月 15 日に開館した文化施設です。ホール、ギャラリー、会議室、スタジオを備え、鑑賞・発表・練習の場として、開館以来、多くの方にご利用いただいております。
地域の拠点施設としての役割を活かし、区民の芸術文化を通じた地域の発展と活性化を目指しています。施設での芸術鑑賞・体験型事業のみならず、地域文化団体や学校との連携・サポートを図り、地域に根ざした活動を行っています。
http://www.yaf.or.jp/yoshino

横浜市民ギャラリー

開館以来 40 年以上にわたって、市民の発表の場として貸館事業を運営するほか、横浜ゆかり作家の作品の収集・保存、今日の多様な表現をさまざまな視点で紹介する企画展やコレクション展、夏恒例の「横浜市こどもの美術展」、子ども向けの造形を主体とする講座「ハマキッズ・アートクラブ」、絵画教室などの自主事業を行ってきました。また、市内の美術展覧会情報を網羅した情報誌『アートヨコハマ』を発行するなど、市民の活動を支援する身近なギャラリーとして親しまれています。
http://www.yaf.or.jp/ycag

横浜市民ギャラリーあざみ野

横浜市民ギャラリーあざみ野は、美術・工芸を基本としつつ、ジャンルを超えた「創造性溢れる表現活動」を幅広く育み、創造性を介して人と人とが交流することのできる、市民と創造活動の出会いの場をつくることを目的としています。
http://www.yaf.or.jp/azamino

横浜美術館

開館 21 年目を迎えた横浜美術館は、見る、創る、学ぶ、を掲げ開館以来鑑賞と共に、制作プロセスを通した美術館普及に力を入れてきました。今回の学校訪問のプログラムでは、3D 映像制作や絵画の技法を学ぶことを通して美術に興味を持ち親しんでいくことのきっかけとし、さらに、今回の訪問授業が、生徒さんの美術館を訪れての創作や鑑賞につながればと考えています。
http://www.yaf.or.jp/yma

横浜みなとみらいホール

横浜みなとみらいホールは、横浜の新都心「みなと

みらい21地区」にあります。横浜港に向かって開け、若い街ならではの活気に満ちた明るいエリアです。1998 年 2 月に小ホールが稼動を開始し、同年 5 月には大ホールも合わせてグランドオープンとなりました。以来、年間 600 回を超える演奏会の場として、横浜市民はもちろんのこと、国内海外のアーティストからも横浜を代表するホールとして親しまれています。
http://www.yaf.or.jp/mmh

神奈川県立音楽堂

神奈川県立音楽堂は、1954 年、公立施設としては日本で初めての本格的な音楽専用ホールとして開館しました。

ロンドンのロイヤルフェスティバルホールをモデルに、最高の音響効果をあげるように設計されたホールは、開館当時『東洋一の響き』と絶賛され、その響きは今も国内はもちろん海外からも高い評価を受けています。ホールの壁面はすべて「木」で作られており、そのアコースティックな響きは 50 年を経た今でも人々に感動をあたえつづけています。
http://www.kanagawa-ongakudo.com

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団（協働推進グループ）

(財)横浜市芸術文化振興財団は美術、音楽、演劇等の芸術文化活動を総合的に振興し、開港以来培われてきた豊かな文化的伝統の維持と、横浜市独自の芸術文化の巣新を図り、もってゆとりと生きがいに満ちた市民生活の実現と国際文化都市・横浜の進展に寄与する目的で平成14年度に設立されました。平成16年度以来「芸術文化教育プログラム」を横浜市、市教育委員会、STスポット横浜とともに協働事業として市内の小・中・特別支援学校において実施しています。 協働推進グループも「芸術文化教育プログラム」を市内学校においてコーディネータとして参画し、アーティストを講師として派遣し、美術、伝統芸能等の授業を実施しました。
http://www.yaf.or.jp/ycc

特定非営利活動法人 ＳＴスポット横浜（アート教育事業部）

STスポット横浜は地域の芸術文化機関として、昭和62 年に発足しました。小劇場「STスポット」を拠点に、現在国内で活躍する多数の地元アーティストを輩出するなど、創造環境全体の向上に努めてきました。
平成 16～20 年度には「アートを活用した新しい教育活動の構築事業」を神奈川県、県教委との協働事業として実施し、県内の幼稚園、小・中学校及び高等学校、特別支援学校等にアーティストを講師として派遣し、演劇やダンス、現代美術等の授業を行いました。
平成20 年度からは「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」の事務局を担当し、学校教育とアートの現場をつなぐ事業を推進しています。
http://stspot.jp

横浜市芸術文化教育プログラム推進事業　平成２２年度事業報告書［個別報告編］

発行：横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
（ＳＴスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局）
作成：ＳＴスポット横浜　　公開開始：平成 23 年 7 月 26 日

《お問い合わせ先》〒220-0004　神奈川県横浜市西区北幸 1-11-15　横浜ＳＴビル 208
ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜　アート教育事業部　内　横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
電話・ファックス：045-325-0414　メール：toiawase@y-platform.org